

地震対策編

総 則	頁
第1章 総則	1
第1節 計画の主旨	1
第2節 過去の顕著な災害	2
第3節 予想される災害	8
1 第4次地震被害想定	8
2 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震等）の被害想定の結果	11
3 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（南海トラフ巨大地震）の被害想定の結果	14
4 相模トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（大正型関東地震）の被害想定の結果	23
5 相模トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（元禄型関東地震）の被害想定の結果	26
第4節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱	29
1 焼津市	29
2 消防機関	29
3 静岡県	30
4 静岡県警察（焼津警察署）	30
5 防災関係機関	30

発 災 前	頁
第2章 平常時対策	37
第1節 防災思想の普及	37
第2節 自主防災活動	37
第3節 地震防災訓練の実施	37
1 焼津市	37
2 防災関係機関	38
第4節 地震災害予防対策の推進	39
1 緊急消防援助隊の受援体制	40
2 消防用施設の整備	40
3 火災の予防対策	40
4 建築物等の耐震対策	41
5 被災建築物等に対する安全対策	42
6 橋りょうの改良	42
7 地盤災害の予防対策	42
8 落下倒壊危険物対策	42
9 危険予想地域における災害の予防	43
10 被災者の救出活動対策	44
11 要配慮者の支援	44
12 生活の確保	44
13 緊急輸送活動体制の準備	46
14 災害廃棄物の処理体制の整備	46
15 燃料の確保	46
16 公共土木施設等の応急復旧	47
17 情報システムの整備	47
18 緊急輸送用車両等の整備	47
19 文化財等の耐震対策	47
20 津波避難対策緊急事業計画の基本となるべき事項	47
21 地震防災応急計画の作成	47
第3章 地震防災施設緊急整備計画	48
第1節 地震防災施設整備方針	48
1 防災業務施設の整備	48
2 地域の防災構造化	48
3 緊急輸送路の整備	49
4 防災上重要な建物・施設の整備	49
5 災害防止事業	49
6 災害応急対策用施設等の整備	50
第2節 地震対策緊急整備事業計画	50
第3節 地震防災緊急事業五箇年計画	50
1 地域の防災構造化	51

南海トラフ地震臨時情報発表時		頁
第4章	南海トラフ地震臨時情報への対応	52
I	南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表された場合における災害応急対策に係る措置	52
	第1節 南海トラフ地震臨時情報（調査中）の伝達等	52
II	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等が発表された場合における災害応急対策に係る措置	52
	第1節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の伝達等	52
	第2節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された後の周知	53
	第3節 災害応急対策をとるべき期間等	53
	第4節 市のとるべき措置	53
III	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合における災害応急対策に係る措置	54
	第1節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）の伝達、災害対策本部等の設置等	54
	第2節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された後の周知	54
	第3節 災害応急対策をとるべき期間等	54
	第4節 避難対策等	55
	1 地域住民等の避難行動等	55
	2 避難所の運営	56
	第5節 消防機関等の活動	56
	第6節 消防機関等の活動	56
	第7節 消防機関等の活動	56
	1 水道	56
	2 電気	56
	3 ガス	57
	4 通信	57
	5 放送	57
	第8節 金融	57
	第9節 交通	57
	1 道路	57
	2 海上	57
	3 鉄道	57
	第10節 市自らが管理等を行う施設等に関する対策	58
	1 防災上重要な施設に対する措置	58
	2 不特定かつ多数の者が出入りする施設に対する措置	58
	第11節 滞留旅客等に対する措置	59

発 災 後		頁
第5章	災害応急対策	60
第1節	防災関係機関の活動	60
	1 計画の内容	60
	2 消防機関	61
	3 防災関係機関	62
第2節	情報活動	62
第3節	広報活動	62
第4節	緊急輸送活動	62
第5節	広域応援活動	62
第6節	災害の拡大及び二次災害防止活動	62
	1 消防活動	62
	2 水防活動	62
	3 人命の救出活動	62
	4 被災建築物等に対する安全対策	62
	5 災害危険区域の指定	63
第7節	避難活動	63
第8節	社会秩序を維持する活動	63
第9節	交通の確保対策	63

発 災 後	頁
第10節 地域への救援活動	63
1 食料及び生活必需品等の緊急物資の確保	63
2 給水活動	63
3 燃料の確保	63
4 医療救護活動	63
5 し尿処理	64
6 廃棄物（生活系）処理	64
7 災害廃棄物処理	64
8 防疫活動	64
9 遺体の搜索及び措置	64
10 応急住宅の確保	64
11 ボランティア活動への支援	64
第11節 学校における災害応急対策及び応急教育活動	64
第12節 被災者の生活再建等への支援	64
第13節 市有施設及び設備等の対策	64
第14節 防災関係機関等の講ずる災害応急対策	65
第15節 地震防災応急計画及び対策計画を作成すべき施設・事業所の災害応急対策	66
1 各施設・事業所に共通の事項	67
2 各施設・事業所の計画において定める個別の事項	67

復 旧 ・ 復 興 期	頁
第6章 復旧・復興対策	68
第1節 防災関係機関の活動	68
1 焼津市	68
2 静岡県警察（焼津警察署）	68
3 防災関係機関	69
第2節 激甚災害の指定	72
第3節 震災復興計画の策定	73
第4節 復興財源の確保	73
1 予算の編成	73
2 復興財源の確保	73
第5節 震災復興基金の設立	74
第6節 復旧事業の推進	74
1 復旧計画の策定	74
2 基盤施設の復旧	75
第7節 都市の復興	75
1 都市復興計画の策定	75
2 市街地の復興	75
第8節 被災者の生活再建支援	76
1 恒久住宅対策	76
2 災害弔慰金等の支給	76
3 被災者の経済的再建支援	77
4 雇用対策	77
5 要配慮者の支援	77
6 生活再建支援策等の広報・PR	78
7 相談窓口の設置	78
8 保険の活用（地震保険の普及促進）	79
第9節 地域経済復興支援	79
1 産業復興計画の策定	79
2 中小企業を対象とした支援	79
3 農林漁業者を対象とした支援	80
4 地域全体に影響を及ぼす支援	80

東海地震注意情報発表時、警戒宣言発令時		頁
別紙 地震防災応急対策		81
第1節 防災関係機関の活動		81
1 焼津市		81
【東海地震注意情報発表時等】		81
【警戒宣言発令時】		82
2 消防機関		84
3 静岡県警察（焼津警察署）		84
4 防災関係機関		84
【東海地震注意情報発表時】		84
【警戒宣言発令時】		85
第2節 情報活動		88
1 焼津市、志太消防本部		88
2 防災関係機関		89
第3節 広報活動		90
1 焼津市		90
2 防災関係機関		90
3 市民等が地震防災活動上必要な情報を入手する方法		90
第4節 自主防災活動		91
【東海地震注意情報発表時】		91
【警戒宣言発令時】		91
第5節 緊急輸送活動		92
1 焼津市		93
2 防災関係機関		93
第6節 自衛隊の支援		94
第7節 避難活動		94
第8節 社会秩序を維持する活動		96
第9節 交通の確保活動		97
1 陸上交通の確保対策		97
2 海上交通の確保対策		99
第10節 地域への救援活動		99
【東海地震注意情報発表時】		99
【警戒宣言発令時】		99
1 食料及び日用品の確保		99
2 飲料水の確保		100
3 医療救護、防疫、保健衛生活動及び廃棄物処理		100
第11節 市有施設設備等の防災措置		101
1 無線通信施設等		101
2 公共施設等		101
【東海地震注意情報発表時】		101
【警戒宣言発令時】		102
3 コンピュータ		103
第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置		103
【東海地震注意情報発表時】		103
【警戒宣言発令時】		105
第13節 地震防災応急計画を作成すべき施設・事業所の対策		108
1 各施設・事業所に共通の事項		108
【東海地震注意情報発表時】		108
【警戒宣言発令時】		109
2 各施設・事業所の計画において定める個別事項		109
第14節 市が管理又は運営する施設等の地震防災応急対策		112
【東海地震注意情報発表時】		112
【警戒宣言発令時】		112

第1章 総 則

この計画の目的、性格、構成を明らかにし、焼津市、防災関係機関、事業所及び市民等がそれぞれ果たすべき役割を示す。また、この計画の基礎となる第4次地震被害想定試算の概要を示す。

第1節 計画の主旨

この計画は、「災害対策基本法（昭和36年法律第223号）」第42条の規定に基づき作成する「焼津市地域防災計画」の「地震対策編」として定めるものであり、「大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）」第6条の規定に基づく「地震防災強化計画」及び、「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（平成14年法律第92号）」第5条の規定に基づく「南海トラフ地震防災対策推進計画」を含むものである。

区分	内 容														
計画の目的	平時に実施する地震防災対策（以下「平時対策」という。）、地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備に関する事項（以下「地震防災施設緊急整備計画」という。）、南海トラフ地震臨時情報が発表された場合に実施する防災対応及び災害時に実施する災害応急対策について定め、これらの対策を推進することにより、市民等の生命、身体及び財産を地震による災害から保護することを目的とする。														
計画の性格	(1) この計画は焼津市の地域に係る地震対策について定めるものである。 (2) この計画は、市、防災関係機関、事業所及び市民等が地震対策に取り組むための基本方針となるものである。 (3) この計画のうち、第3章は、「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（昭和55年法律第63号）」、「地震防災対策特別措置法（平成7年法律第111号）」に基づく地震対策事業及びその他の地震対策事業について定めるものである。 (4) この計画は、「静岡県地震対策推進条例」に規定する対策のうち、特に緊急に実施するものについて定める。 (5) この計画は、状況の変化に対応できるよう、必要に応じ、見直しを行うものである。														
計画の構成	この計画は本編と別紙から構成し、本編の構成は次の6章による。 <table border="1"> <tr> <td>第1章 総則</td><td>この計画の目的、性格、構成、第4次地震被害想定など計画の基本となる事項を示す。</td></tr> <tr> <td>第2章 平時対策</td><td>平時の教育、広報、訓練及び災害予防の対策を示す。</td></tr> <tr> <td>第3章 地震防災施設緊急整備計画</td><td>整備すべき防災事業の種類、目的、内容等を示す。</td></tr> <tr> <td>第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応</td><td>南海トラフ地震臨時情報が発表された場合における災害応急対策を示す。</td></tr> <tr> <td>第5章 災害応急対策</td><td>地震災害が発生した場合の対策を示す。</td></tr> <tr> <td>第6章 復旧・復興対策</td><td>災害応急対策に一定の目途が立った後の復旧、復興対策を示す。</td></tr> <tr> <td>別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策</td><td>東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発せられてから東海地震が発生するまで又は発生するおそれなくなるまでの間に行うべき対策を示す。</td></tr> </table>	第1章 総則	この計画の目的、性格、構成、第4次地震被害想定など計画の基本となる事項を示す。	第2章 平時対策	平時の教育、広報、訓練及び災害予防の対策を示す。	第3章 地震防災施設緊急整備計画	整備すべき防災事業の種類、目的、内容等を示す。	第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応	南海トラフ地震臨時情報が発表された場合における災害応急対策を示す。	第5章 災害応急対策	地震災害が発生した場合の対策を示す。	第6章 復旧・復興対策	災害応急対策に一定の目途が立った後の復旧、復興対策を示す。	別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策	東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発せられてから東海地震が発生するまで又は発生するおそれなくなるまでの間に行うべき対策を示す。
第1章 総則	この計画の目的、性格、構成、第4次地震被害想定など計画の基本となる事項を示す。														
第2章 平時対策	平時の教育、広報、訓練及び災害予防の対策を示す。														
第3章 地震防災施設緊急整備計画	整備すべき防災事業の種類、目的、内容等を示す。														
第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応	南海トラフ地震臨時情報が発表された場合における災害応急対策を示す。														
第5章 災害応急対策	地震災害が発生した場合の対策を示す。														
第6章 復旧・復興対策	災害応急対策に一定の目途が立った後の復旧、復興対策を示す。														
別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策	東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発せられてから東海地震が発生するまで又は発生するおそれなくなるまでの間に行うべき対策を示す。														

第2節 過去の顕著な災害

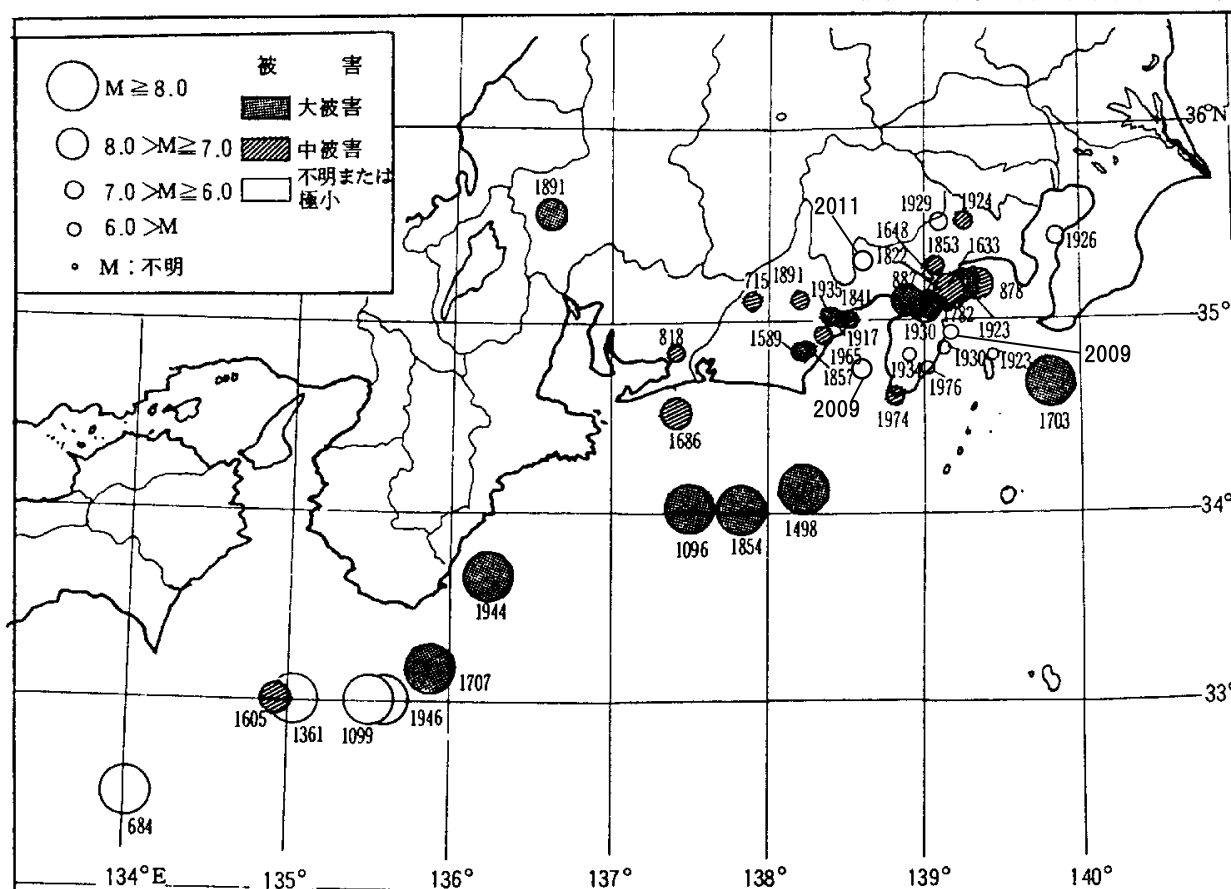
静岡県は有史以来たびたび地震、津波による災害に見舞われている。駿河湾から遠州灘にかけての海域には海洋プレートの境界を成す駿河トラフや南海トラフが存在し、巨大地震を繰り返し発生させてきた。

陸域には糸魚川―静岡構造線や中央構造線などの大きな地質構造線が存在し、また、富士川河口断層帯、伊豆半島に分布する断層など多くの活断層が存在し、内陸直下の被害地震を発生させてきた。

特に1854年安政東海地震、1935年静岡地震、1944年東南海地震、1965年の焼津市を震源とする直下型地震、2009年駿河湾の地震、2011年静岡県東部の地震、また1978年頃より始まった伊豆半島東方沖の一連の群発地震活動による地震災害が発生している。

県下に大被害を与えた地震、および県下で震度5以上が観測された地震の分布を示すと次の図のようになる。

日本被害地震総覧（宇佐美龍夫）に加筆



静岡県内の地震活動
た地震

日本被害地震総覧(宇佐美龍夫)に加筆

* 津波を伴っ

番号	西暦年月日 和暦年月日	東北経緯 震央地名	M 深さ(h)	被害等級 津波規模 県内最大震度	被 害		
					西 部 (遠 江)	中 部 (駿 河)	東 部 (伊 豆)
3*	684.11.29 天武13.10.14	134.0 32.5 南海・西海道	8.4	[IV] 3 IV	津波による被害が多少あったと推定される。		
5	715. 7. 4 和銅 8. 5.25	137.9 35.1 遠 江	6.4	[0] IV	山崩れ天竜川を塞ぐ、数十日を経て決壊し、敷智・長下・石田の3郡民家170余区を没す。		
6	715. 7. 5 和銅 8. 5.26	137.4 34.8 三 河	6.7	[1] IV～V	県西境に多少の被害があったと推定される。		
11*	818. - - 弘仁 9. 7.-	139.3 35.2 関東諸国	7.9	[IV] 1			県東境で多少の被害があったか。
15	841. - - 承和 8. - -	138.9 35.1 伊 豆	7.0	[II] VI+			伊豆：里落完たからず。人あるいは傷き、あるいは圧没された。
22	878. 11. 1 元慶 2. 9.29	139.3 35.5 関東諸国	7.4	[II] V			相模・武蔵がとくに強かったという。県東境にも被害が推定される。相模国分寺に被害。
26*	887. 8.26 仁和 3. 7.30	135.3 33.0 五畿七道	8.6	[IV] 3 IV	津波による被害が多少あったと推定される。		
38*	1096.12.17 嘉保 3.11.24	137.5 34.0 畿内・東海道	8.4	[Ⅲ] 2 VI		仏神舎屋百姓四百余流失。	
39	1099. 2.22 康和 1. 1.24	135.5 33.0 南 海 道	8.4	[IV] IV	津波による被害が多少あったと推定される。		
49	1293. 5.27 正応 6. 4.13	 鎌 倉	7.1	[II]			鎌倉で大被害。伊豆での被害の可能性あり。
56*	1361. 8. 3 正平16. 6.24	135.0 33.0 畿内・土佐・阿波	8.4	[IV] 3 IV	津波による被害が多少あったか？		
68*	1498. 9.20 明応 7. 8.25	138.2 34.1 東 海 道	8.6	[IV] 3	山崩れ地裂く。浜名湖海につながる。今切という。	沿岸に津波死2万6千という。(志太郡)	伊豆・仁科郷海溢れて陸地に上ること18～19町。寺川以下の田園水没す。
79	1589. 3.21 天正17. 2. 5	138.2 34.8 駿河・遠江	6.7	[I] V～IV	民家多く破れ倒る。(駿・遠)		

番号	西暦年月日 和暦年月日	東北経緯 震央地名	M 深さ (h)	被害等級 津波規模 県内最大震度	被害		
					西 部 (遠 江)	中 部 (駿 河)	東 部 (伊 豆)
84*	1605. 2. 3 慶長 9.12.16	134.9 33.0 東海・南海・西海	7.9	[IV] 3 VI	橋本に津波。100軒のうち20軒のこる。 死者多し。白州丁津波。		仁科郷海溢れ陸を浸すこと12～13町。
96*	1633. 3. 1 寛永10. 1.21	139.2 35.2 駿 豆 相	7.1	[II] 1 V		吉原で家くずれ、地割あり。 三島で家くずれる。(不苦という文書もあり)	熱海に津波。家・田畑流失。箱根で岩くず れ道を塞ぐ。通行の人馬の死あり。
106	1648. 6.12 慶安 1. 4.22	139.2 35.2 小 田 原	7.1	[I] IV			県東境に微小被害推定される。
141	1686.10. 3 貞享 3. 8.16	137.4 34.5 遠江・三河	7.0	[I] V	荒井で関所・番所・町家少々破損、死者 あり。		
149*	1703.12.31 元禄16.11.23	139.8 34.7 関東諸国	8.2	[IV] 3 IV～V			箱根山崩。町宿大分崩死あり。 番所半分潰れ、石垣棚崩倒。箱根一三島 間少し損じ、三島は別条なし。伊豆東海岸 に津波、死は 380余(宇佐美)・163(須 玖美)、27(下田)。下田で潰・流失 332軒・ 半潰 160軒、破船81、川奈・熱海・竹麻・仁 科・片浦に津波。
153*	1707.10.28 宝永 4.10. 4	135.9 33.2 五畿七道	8.4	[IV] 4 VI	沿岸に大津波。各地で Quicksand 現象あり。横須賀港塞がる。 荒井口拡大。東海道沿いで震度VI、袋 井・掛川はVII。	駿河湾北岸・吉原・岩本・さつたで被害 大。湾内に津波。東海道筋の震度はVI。	震度はV以下。津波が各地を襲う。下田で 流失・皆潰 857軒、半潰55件、死11人、破 痛船53。
163	1718. 8.22 享保 3. 7.26	伊 那	6.4	[I] IV～V	伊那・遠山谷満島村山崩れ、遠山川を 堰止め後に決壊。三河佐太村大谷まで の間で死50余。県北西境、天竜川沿い に被害が推定される。		
171	1729. 3. 8 享保14. 2. 9						伊豆で大地割れ、川筋に水涌く余震20日 すぎまで小津波か？
207*	1782. 8.23 天明 2. 7.15	139.2 35.2 武 相	7.3	[I] 1 IV～V			田方郡でつよく、箱根で石垣崩れ、小田原 に津波。甲州の猿橋くずる。伊豆北部に小 被害の可能性あり。
243	1841. 4.22 天保12. 3. 2	138.5 35.0 駿 河	6.4	[0] V～IV		駿府城の石垣30間崩る。久能山銅鳥居・ 石灯籠いたみ、社堂破損、江尻・清水辺 で家・蔵の壁落ち、地裂けて噴水す。三 保の砂地2千坪沈下。	
253	1853. 3.11 嘉永 6. 2. 2	139.1 35.3 小 田 原	6.5	[I] IV			箱根で落石・山崩。関所破損。 御殿場で潰家1、修善寺・三島その他 で損所ありという。

番号	西暦年月日 和暦年月日	東北経緯 震央地名	M 深さ (h)	被害等級 津波規模 県内最大震度	被害		
					西部（遠江）	中部（駿河）	東部（伊豆）
257*	1854.12.23 嘉永 7.11. 4	137.8 34.0 東海・東山・南海	8.4	[IV] 3 Ⅵ	御前崎を中心に隆起、1～1.5m沿岸一帯に津波、又低地で液化化現象が各地に見られた。とくに掛川・袋井付近の東海道沿いの被害が大きかった。	駿河湾北岸で震度大。久能山はさほど大ならず、静岡・清水に火災 湾の東岸一帯に地震隆起、精進川村296軒のうち全潰 178、半潰 116、無傷1、一般に山地は軽か	震度Ⅴ。下田以西の沿岸に津波下田計875軒のうち840流失・皆潰。30半潰水入、無事は4軒のみ。人口3,851人のうち、死122。
265	1857. 7.14 安政4.閏5.23	138.2 34.8 駿河	6.4	[0]		田中城で堀・門・番所・石垣等破損。藤枝に倒家なしという。	
287	1882. 9.29 明治 15	139.05 35.07 熱海					熱海で落石、墓石の転倒あり。
300	1891.10.28 明治 24	136.6 35.6 愛知・岐阜	7.9	Ⅴ～Ⅵ	遠江で家屋全潰32、半潰31、道路破裂19、橋梁損落1、堤防崩壊24、天竜川護岸堤、見附浜松間に諸所破損。	志太鉱泉の天然ガス噴出量倍増、鉱泉の湧出量も増加。	吉奈・湯ヶ島＋15℃、湯ヶ野＋5℃、蓮台寺－ x℃、3～4日で復旧。
301	1891.12.24 明治 24	138.2 35.1 山中湖付近	6.4	Ⅳ		沼津で土蔵の鉢巻おちる。 駕籠坂峠で土地の陥没（長さ20間巾 3尺、深さ 3尺）あり、道路の亀裂・山崖くずれ数ヶ所。	三島で土蔵の底破損2。
414	1917. 5.18 大正 6	138.4 34.95 静岡付近	5.8		浜松地方で地裂・煙突の倒壊、壁落あり。	静岡市・煉瓦堀・煉瓦煙突の被害 清水・江尻でも同様の小被害。全体で死2（静岡市）、傷6。	
430*	1923. 9. 1 大正 12	139.3 35.2 関東南部	7.9	Ⅴ	県全体で死375、傷1,243 不明68、家屋全壊2,298、 半壊10,219、損失 5、流失 661。	全壊100戸以上の町村は伊東・熱海・網代・御殿場・箱根・北郷・小山・足柄である。駿東郡の荒廃林野面積率は3.2%。	熱海に津波（12m）、網代で7.2m、被害なし。下田で浸水。
433	1923. 9.10 大正 12	139.4 34.8 大島近海	5.8				稲取・下河津付近で道路破損等小被害。
435	1924. 1.15 大正 13	139.2 35.5 丹沢山塊	6.7	Ⅴ		駿東郡で傷26、建物全壊10、半壊243。	
443	1926. 8. 3 大正 15	139.8 35.4 東京湾中部	6.2 35k m				熱海で壁落数戸。
453	1929. 7.27 昭和 4	139.1 35.5 丹沢付近	6.1 20k m	Ⅴ		簗坂峠で亀裂。土砂崩壊し県道を埋めた所あり。富士山で落石。	

番号	西暦年月日 和暦年月日	東北経緯 震央地名	M 深さ (h)	被害等級 津波規模 県内最大震度	被害		
					西部（遠江）	中部（駿河）	東部（伊豆）
461	1930.11.26 昭和 5	139.0 35.1 北伊豆	7.3 0～ 5km	VI		清水港・三保港の岸壁崩壊。	死259、傷566、住家全壊2,077、半壊5,424、焼失75。 丹那断層を生じ、発光現象がみられた。伊東・大場・長岡・函南村間宮で火災。
476	1934. 3.21 昭和 9	138.9 34.8 天城山	5.5 0～ 10km	V			湯ヶ島－天城峠間で崖崩れ10余、墓石の転倒（湯ヶ島・与市坂・白田・上河津）。半島の温泉に異常。
479	1935. 7.11 昭和 10	138.4 35.0 静岡付近	6.3 10km	VI		静岡市・有度山周辺に被害集中。家屋全壊率10%以上は、高松・西大谷・東大谷・池田・国吉田 被害計、死9、傷299、住家全壊237、半壊1,412、清水港の岸壁、倉庫大破。	蓮台寺温泉の水位が5日前から70cm上昇。震後急下降。 8月5日までに262cm下降する。
506*	1944.12. 7 昭和 19	136.2 33.7 東海沖	7.9 0～ 30km	VI	遠州灘で津波の高さ1～2m。 太田川流域の住家被害率が高く南御厨村で101%、今井村で97%。	県下全体で、 死255、傷704、住家全壊5,828、半壊7,815。 静岡市付近に被害率の高い所あり。	下田で津波高さ2.1m。
509*	1946.12.21 昭和 21	135.6 33.0 南海沖	8.0 30km		津波の高さ、舞阪0.8m、御前崎2m。	県下で傷2、住家半壊1、家屋浸水296、船舶損失105。	津波の高さ 下田2m、須崎1m。
546*	1960. 5.23 昭和 35	73.5W 38.0S チリ地震津波	8.5	0	舞阪で波高1.1m。	県下で床上浸水1、床下浸水234、非住家被害13、ろ・かい船被害1、清水で波高1.3m。	下田で波高1.8m。
567	1965. 4.20 昭和 40	138.18 34.53 静岡付近	6.1 20km	IV		清水市北部の平野で被害大。壁の破損・瓦落下土台の破損・柱の移動等があった。全体で死2、傷4、住家一部破損9。	
610*	1974. 5. 9 昭和 49	138.48 34.34 伊豆半島沖	6.9 10km	V			死30、傷102、家屋全壊134 半壊240、全焼5、山（がけ）くずれ101、中木・入間・石廊崎で被害大。断層を生ず。温泉の異常あり。
621	1976. 8.18 昭和 51	138.57 34.47 河津町	5.4 0km	III			河津町付近で家屋半壊3戸、一部破損61戸、ここでの震度はVか。
624*	1978. 1.14 昭和 53	139.81 34.48 伊豆大島近海	7.0 0km	IV			死25、傷139、家屋全壊96 同半壊539戸、道路損壊984ヶ所、崖くずれ191ヶ所、持越鉱山の鉱さい堆積場のえん堤損壊、シアンを含む泥流狩野川へ流入。
636*	1980. 6.29 昭和 55	139.12 34.54 伊豆半島東方沖	6.7 0km	V			伊豆半島東方沖：伊豆半島で家屋全壊1、同一部破損17、傷8などの被害。

番号	西暦年月日 和暦年月日	東 北 経 緯 震央地名	M 深さ(h)	被害等級 津波規模 県内最大震度	被 害		
					西 部（遠 江）	中 部（駿 河）	東 部（伊 豆）
646	1983. 8. 8 昭和 58	139.10 35.50 山梨県東部	5.8 30km	IV			小山町を中心に負傷者2、家屋半壊1、一部破損49、停電42万軒。
	1988. 3.18 昭和 63	139.39 35.40 東京都東部	6.0 100km	Ⅲ			三島市を中心に家屋一部損壊19。
	1988. 7.26 昭和 63. 8.10	伊豆半島東方沖	5.2 10km	IV			伊東市を中心に家屋一部破損2。
	1989. 7. 3 平成元 7.12	伊豆半島東方沖	5.5 10km	IV			伊東市を中心に負傷者22、家屋一部損壊92、道路損壊24、港湾被害11、水道断水200戸、電話不通66回線、停電3,500軒、ブロック塀1ヶ所。
	1997. 3. 3 平成 9. 3.13	伊豆半島東方沖	5.7 10km	V弱			伊東市を中心に負傷者3、家屋一部損壊65、道路損壊8、崖崩れ5、水道断水51戸、ブロック塀1ヶ所。
	2001. 4. 3 平成13	静岡県中部	5.3 30km	V強			静岡市を中心に負傷者8人、建物の一部破損。
*	2009.8.11 平成21	駿河湾	6.5 23km	VI弱	掛川市及び牧之原市を中心に断水約7万戸、停電約9,500戸。	静岡市及び牧之原市を中心に、県下で死者1、負傷者311、家屋半壊6、一部損壊8,666、火災3、ブロック塀207ヶ所。東名高速(上り)牧之原IC付近で盛土崩壊。	伊豆市を中心に山(崖)崩れ81箇所。
*	2011.3.11 平成23	142.9 38.1 三陸沖	9.0 24km	V弱			御殿場市を中心に負傷者4、家屋一部損壊2、下田市で住家床下浸水7、店舗内浸水6
	2011.3.15 平成23	静岡県東部	6.4 14km	VI強			富士宮市を中心に負傷者50、家屋一部損壊521、道路損壊7、崖崩れ8、停電21,700軒、水道断水500戸
	2011.8.1 平成23	駿河湾	6.2 23km	V弱	軽症2人、住宅一部損壊14件	重症1人、軽症9人、住宅一部損壊2件、島田市は12,000世帯で水道が白濁	軽症1人

第3節 予想される災害

現在、市に著しい被害を発生させるおそれがある地震・津波としては、その発生の切迫性が指摘されている駿河湾及び駿河トラフ付近におけるプレート境界を震源域とする東海地震（マグニチュード8クラス）がある。このほか、駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震として東南海地震や南海地震（それぞれマグニチュード8クラス）があり、また、これらの地震が連動して、あるいは時間差を持って発生する可能性も考えられる。一方、相模トラフ・相模湾側では、大正型関東地震（マグニチュード7.9程度）や神奈川県西部を震源域とするマグニチュード7クラスの地震がある。また、東日本大震災の教訓として「想定外は許さない」という観点から、発生する頻度は極めて小さいが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波として、南海トラフ巨大地震（マグニチュード9クラス）や元禄型関東地震（マグニチュード8.1程度）などの巨大地震についても発生することを想定する必要がある。

このほか、山梨県東部や伊豆半島、静岡県中部などを震源とする地震活動にも注意を払っておく必要がある。また、地震災害対策の検討に当たり、科学的知見を踏まえ、これらのあらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を含む様々な地震を想定し、その想定結果や切迫性等に基づき対策を推進する必要がある。

津波については、上記地震によるもののほか、南北アメリカ大陸沿岸等の環太平洋地域で発生した地震による遠地津波についても警戒が必要である。

1 第4次地震被害想定

（1）静岡県第4次地震被害想定概要

地震によって、市内の各地でどのような現象が発生し、どの程度の被害を受けるかを定量的に試算した結果を示し、的確かつ効果的な防災対策の樹立に資するものである。試算については、本市において、その発生の切迫性が指摘され、かつ、最大級の災害が想定される地震として、中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告」などを踏まえ、駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いで発生するレベル1・2の地震・津波を対象とした。なお、試算に用いた断層モデルは、現時点での科学的知見に基づき検討されたものであり、今後の科学的知見の蓄積を踏まえて検証され、場合によっては修正される可能性があることに留意するものとする。

（資料編（地震対策）1-3-1（1））

区 分	レベル1の地震・津波	レベル2の地震・津波
駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震・津波	東海地震 東海・東南海地震 東海・東南海・南海地震 宝永型地震 安政東海型地震 5地震総合モデル	南海トラフ巨大地震（内閣府（2012））
相模トラフ沿いで発生する地震・津波	大正型関東地震	元禄型関東地震（※） 相模トラフ沿いの最大クラスの地震（内閣府（2013））

※ 相模トラフ沿いでは、約200～400年間隔で海溝型（プレート境界型）の地震が発生しており、このうち元禄16年（1703年）元禄関東地震は大正12年（1923年）大正関東地震に比べ広い震源域を持つ既往最大の地震とされている。

注）内閣府（2012）：南海トラフ巨大地震による津波高・浸水域等（第二次報告）及び被害想定（第一次報告）について（以下同じ）

内閣府（2013）：首都直下のM7クラスの地震及び相模トラフ沿いのM8クラスの地震等の震源断層モデルと震度分布・津波高等に関する報告書

なお、この試算値は、今後、適切かつ効果的な地震対策の推進、さらに市民の防災への自助・共助の努力を積み重ねることによって、大幅に減少させることができると考えられる。

(2) 震度に係る想定結果

南海トラフ巨大地震では、市内のほとんどは震度7から震度6強の震度想定がされた。焼津、豊田、小川、東益津地区は、震度7の想定区域が多く、大村、大富、和田、港、大井川地区は、震度6強の想定区域が多い。東名高速道路焼津ICの南西地区に震度6弱の想定区域が若干見受けられる。震度分布図は（資料編（地震対策）1－3－1（2））のとおり。

震度区分別面積集計表 南海トラフ巨大地震

震度区分	面積	
	焼津市	県全体
5（弱）	0.0km ² （0%）	293.6km ² （3.8%）
5（強）	0.0km ² （0%）	1819.5km ² （23.6%）
6（弱）	0.4km ² （0.6%）	3201.0km ² （41.5%）
6（強）	40.4km ² （55.3%）	2055.4km ² （26.6%）
7	32.2km ² （44.1%）	346.5km ² （4.5%）

（注）内閣府（2012）の南海トラフ巨大地震の基本ケースの強震断層モデルを用いて計算したもの。

震度区分別面積集計表 元禄型関東地震

震度区分	面積	
	焼津市	県全体
4 以下	31.8km ² （43.6%）	4518.0km ² （58.6%）
5（弱）	39.6km ² （54.2%）	1060.1km ² （13.7%）
5（強）	1.6km ² （2.2%）	697.6km ² （9.0%）
6（弱）以上	0.0km ² （0%）	1440.3km ² （18.7%）

(3) 液状化に係る想定結果

南海トラフ巨大地震では、焼津、大村、豊田、東益津地区では、「可能性ランク中」と判定され、「可能性ランク大」の分布も見られる。小川、和田、港地区は、「可能性ランク中」に判定されたが、焼津地区との境や石津浜海岸付近に「可能性ランク大」の分布も見られる。大富地区の多くは「可能性がない」または「対象外」と判定された。大井川南地区の大井川港周辺では飯淵が「可能性ランク大」と判定され、大井川東地区は「可能性ランク中」の判定がみられる。大井川河川沿いに位置する大井川西地区は、「可能性がない」または「対象外」と判定された。液状化可能性分布は、（資料編（地震対策）1－3－1（3））のとおり。

液状化可能性区分別面積集計表 南海トラフ巨大地震

判定ランク	面積	
	焼津市	県全体
液状化発生の可能性大	5.9km ² （8.1%）	194.3km ² （2.5%）
液状化発生の可能性中	11.4km ² （15.6%）	224.0km ² （2.9%）
液状化発生の可能性小	5.9km ² （8.1%）	110.8km ² （1.4%）
液状化発生の可能性なし	12.5km ² （17.1%）	212.5km ² （2.8%）
対象外	37.4km ² （51.1%）	6974.4km ² （90.4%）

（注）内閣府（2012）の南海トラフ巨大地震の基本ケースの強震断層モデルを用いて計算したもの。

液状化可能性区分別面積集計表 元禄型関東地震

判定ランク	面 積	
	焼津市	県全体
液状化発生の可能性大	0.1km ² (0.1%)	23.6km ² (0.3%)
液状化発生の可能性中	1.6km ² (2.2%)	38.4km ² (0.5%)
液状化発生の可能性小	3.6km ² (4.9%)	67.2km ² (0.9%)
液状化発生の可能性なし	15.0km ² (20.6%)	154.8km ² (2.0%)
対象外	52.7km ² (72.2%)	7432.1km ² (96.3%)

(4) 津波に係る想定結果

レベル2（南海トラフ巨大地震）の津波は、焼津港周辺で浸水深3m以上5m未満、小川港周辺で浸水深2m以上3m未満、大井川港周辺で浸水深3m以上5m未満と想定された。沿岸部では、浸水深1m以上2m未満の想定区域が多く、藤守川付近とそこから南側は浸水深3m以上5m未満の想定区域が見られる。津波最大浸水深図 南海トラフ巨大地震 ケース①は、（資料編（津波対策）1-3-3（1））のとおり。

駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震・津波

項目	焼津市		県全体	
	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2
想定波高（T.P.M）	4 ～ 6m	6 ～ 10m	—	—
面積	70.62km ²		7,780.60km ²	
浸水面積	2.5km ²	13.7km ²	34.6km ²	158.1km ²
浸水率	3.54%	19.40%	0.44%	2.03%
浸水深2m以上の浸水面積	0.1km ²	2.6km ²	11.0km ²	68.5km ²

（注）レベル2は、津波断層モデルのケース①による。 推定津波高は、平均～最大として表記。

相模トラフ沿いで発生する地震・津波

項目	焼津市		県全体	
	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2
想定波高（T.P.M）	2 ～ 2m	2 ～ 4m	—	—
面積	70.62km ²		7,780.60km ²	
浸水面積	0.1km ²	0.6km ²	7.4km ²	21.1km ²
浸水率	0.14%	0.85%	0.10%	0.27%
浸水深2m以上の浸水面積	0.0km ²	0.0km ²	1.1km ²	4.3km ²

（注）推定津波高は、平均～最大として表記。

(5) 山・崖崩れに係る想定結果

市北部の山麓部に急傾斜地崩壊・地すべり・大規模崩壊の危険箇所が分布しており、地震動により崩壊すると想定された。山・かげ崩れの想定危険度ランク別箇所数は、(資料編(地震対策)1-3-1(5))のとおり。

危険度ランク別箇所数(南海トラフ巨大地震基本ケース)

	焼津市			県全体		
危険度ランク	急傾斜地 危険箇所	地すべり 危険箇所	山腹崩壊 危険区域	急傾斜地 危険箇所	地すべり 危険箇所	山腹崩壊 危険区域
A : 崩壊の可能性が高い	30	1	11	6339	47	2570
B : 崩壊の可能性がある	15	0	3	2564	83	509
C : 崩壊の可能性が低い	0	0	0	746	178	183

危険度ランク別箇所数(元禄型関東地震)

	焼津市			県全体		
危険度ランク	急傾斜地 危険箇所	地すべり 危険箇所	山腹崩壊 危険区域	急傾斜地 危険箇所	地すべり 危険箇所	山腹崩壊 危険区域
A : 崩壊の可能性が高い	0	0	0	838	0	474
B : 崩壊の可能性がある	10	0	10	970	9	611
C : 崩壊の可能性が低い	35	1	4	7841	299	2161

2 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波(東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震等)の被害想定の結果

(1) 概説

この試算は、駿河トラフから南海トラフの領域を震源域に、東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震等が発生した場合を想定して行ったものである。

試算に当たっては、地質や地盤、海岸現況等の基本データを利用し、過去の地震被害例等を参考に数値計算を行い、地震動・液状化等の各種危険度の想定をしている。

なお、強震断層モデルは、レベル1の地震とレベル2の地震との間で地震動の強さに本質的な差がないとの前提の下、暫定的にレベル2の地震と同じもの(内閣府(2012)の基本ケース)を使用している。津波断層モデルは、中央防災会議(2003)の東海・東南海・南海地震のモデルを使用している。

注)中央防災会議(2003):「東南海、南海地震等に関する専門調査会」(第16回)報告書

これらの結果を基に、地震動・液状化、人工造成地、津波、山・崖崩れ及び延焼火災に起因する建物被害とともに、ブロック塀・石塀及び屋外落下物等の物的被害や人的被害の試算をしている。また、地震予知がなく地震が発生した場合と警戒宣言が発せられた後地震が発生した場合について、それぞれ試算をしている。(資料編(地震対策)1-3-1(2)、1-3-1(3)、1-3-1(5)、1-3-2(2))

(2) 建物等被害に係る想定結果

資料編(地震対策) 1-3-2(2) のとおり。

(単位:棟)

項目	被害区分		予知なし			予知あり
			冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	市	約11,000	約11,000	約11,000	約11,000
		県	約171,000	約171,000	約171,000	約171,000
	半壊	市	約6,600	約6,600	約6,400	約6,700
		県	約165,000	約163,000	約156,000	約169,000
液状化	全壊	市	約80	約80	約80	約80
		県	約1,800	約1,800	約1,800	約1,800
	半壊	市	約300	約300	約200	約300
		県	約6,400	約6,300	約6,100	約6,500
人工造成地	全壊	市	約2,400	約2,400	約2,400	約2,400
		県	約17,000	約17,000	約17,000	約17,000
	半壊	市	約7,100	約7,100	約7,100	約7,100
		県	約51,000	約51,000	約51,000	約51,000
津波	全壊	市	約10	約10	約10	約10
		県	約2,400	約2,400	約2,400	約2,400
	半壊	市	約100	約100	約100	約100
		県	約4,900	約4,900	約4,900	約5,000
山・崖崩れ	全壊	市	約40	約40	約40	約40
		県	約2,500	約2,500	約2,500	約2,500
	半壊	市	約80	約80	約80	約80
		県	約5,800	約5,800	約5,800	約5,800
火災	焼失	市	約1,300	約1,700	約3,500	約600
		県	約22,000	約28,000	約66,000	約2,500
建物棟数		市	51,245			
		県	1,418,505			
建物被害総数	全壊及び 焼失	市	約15,000	約16,000	約17,000	約14,000
		県	約217,000	約223,000	約260,000	約197,000
	半壊	市	約14,000	約14,000	約14,000	約14,000
		県	約233,000	約232,000	約224,000	約237,000
建物被害率	全壊及び 焼失	市	約29%	約31%	約33%	約27%
		県	約15%	約16%	約18%	約14%
	半壊	市	約27%	約27%	約27%	約27%
		県	約16%	約16%	約16%	約17%

(注) ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊

・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

(3) 人的被害に係る想定結果

(単位：人)

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち、屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		死者数	市	約500 (約60)	約200 (約30)	約400 (約40)	約100 (約10)	約70 (約10)	約100 (約10)
			県	約5,500 (約700)	約2,700 (約500)	約4,300 (約500)	約1,600 (約100)	約800 (約100)	約1,200 (約100)
		重傷者数	市	約1,400 (約200)	約1,900 (約200)		約400 (約40)	約500 (約30)	
			県	約19,000 (約2,600)	約30,000 (約2,100)	約19,000 (約1,600)	約5,300 (約600)	約8,700 (約500)	約5,500 (約400)
		軽傷者数	市	約3,000 (約800)	約3,800 (約600)		約900 (約200)	約1,100 (約100)	
			県	約49,000 (約9,700)	約52,000 (約7,800)	約42,000 (約7,600)	約14,000 (約2,100)	約15,000 (約1,700)	約12,000 (約1,700)
津波	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約80	約50	約70	約10	約10	約10
			県	約7,400	約2,500	約3,200	約1,000	約700	約800
		重傷者数	市	約10	－		－	－	
			県	約400	約100	約200	約60	約40	約50
		軽傷者数	市	約20	約10		－	－	
			県	約800	約300	約400	約100	約80	約100
	早期避難率 低	死者数	市	約90	約60	約70			
			県	約9,000	約5,700	約7,300	約1,000	約700	約800
		重傷者数	市	約10	約10				
			県	約500	約400	約400	約60	約40	約50
		軽傷者数	市	約20	約20				
			県	約1,000	約700	約900	約100	約80	約100
山・崖崩れ		死者数	市	－	－	－	－	－	－
			県	約200	約90	約200	約30	約10	約20
		重傷者数	市	－	－		－	－	－
			県	約100	約60	約100	約20	約10	約10
		軽傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約100	約60	約100	約20	約10	約10
火災		死者数	市	約70	約40	約200	約10	－	約10
			県	約800	約500	約2,100	約30	約10	約20
		重傷者数	市	約30	約40		約10	約10	
			県	約500	約600	約1,400	約50	約50	約50
		軽傷者数	市	約70	約90		約30	約30	
			県	約1,200	約1,600	約3,700	約100	約100	約100
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		死者数	市	－	－	－	－	－	－
			県	－	約10	約20	－	－	－
		重傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約10	約100	約200	－	約10	約10
		軽傷者数	市	－	約10		－	－	
			県	約10	約200	約400	－	約10	約20

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
死傷者数合計	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約700	約300	約600	約200	約80	約100
			県	約14,000	約5,900	約9,900	約2,700	約1,500	約2,100
		重傷者数	市	約1,400	約1,900		約400	約600	
			県	約20,000	約31,000	約21,000	約5,500	約8,800	約5,600
		軽傷者数	市	約3,100	約3,900		約900		
			県	約51,000	約54,000	約47,000	約14,000	約15,000	約12,000
	早期避難率 低	死者数	市	約700	約300	約600			
			県	約16,000	約9,100	約14,000	約2,700	約1,500	約2,100
		重傷者数	市	約1,400	約1,900				
			県	約20,000	約31,000	約21,000	約5,500	約8,800	約5,600
		軽傷者数	市	約3,100	約3,900				
			県	約51,000	約54,000	約47,000	約14,000	約15,000	約12,000
人口（平成22年10月1日現在）			市	143,249					
			県	3,765,007					

- （注） ・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。
・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（１９９９）による建物破壊パターンチャートのＤ５以上相当。全壊に含まれる。
・ 重傷者：１ヶ月以上の治療を要する負傷者
・ 軽傷者：１ヶ月未満の治療を要する負傷者

※「－」：被害わずか

※斜線箇所：静岡県第４次地震被害想定（第一次報告）に掲載されていない箇所

※夏・昼発災（予知なし）の場合、海水浴客の津波による県の死者数の増分は、約２，２００人（早期避難率高＋呼びかけ）～約９，２００人（早期避難率低）

※予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

※死傷者数合計の市の予知ありは、早期避難率高＋呼びかけと早期避難率低の区分が不明であるため、早期避難率高＋呼びかけに計上した。

３ 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル２の地震・津波（南海トラフ巨大地震）の被害想定の結果

（１）概説

この試算は、東側を駿河湾における南海トラフのトラフ軸（富士川河口断層帯を含む）とし、南西側（日向灘側）を九州・パラオ海嶺の北側でフィリピン海プレートが厚くなる領域までを震源域に、マグニチュード９程度の地震が発生した場合を想定して行ったものである。

試算に当たっては、地質や地盤、海岸現況等の基本データを利用し、中央防災会議（２０１１）等を参考に数値計算を行い、地震動・液状化等の各種危険度の想定をしている。

注）中央防災会議（２０１１）：「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告」

これらの結果を基に、地震動・液状化、人工造成地、津波、山・崖崩れ及び延焼火災に起因する建物被害とともに、ブロック塀・石塀及び屋外落下物等の物的被害や人的被害の試算をしている。また、地震予知がなく地震が発生した場合と警戒宣言が発せられた後に地震が発生した場合について、それぞれ試算している。（資料編（地震対策）１－３－１（２）、１－３－１（３）、１－３－１（５）、１－３－２（２）、（津波対策）１－３－３（１））

(2) 建物等被害に係る想定結果

【地震動：基本ケース、津波：ケース①】

(単位：棟)

項目	被害区分		予知なし			予知あり
			冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	市	約11,000	約11,000	約11,000	約11,000
		県	約171,000	約171,000	約171,000	約171,000
	半壊	市	約6,500	約6,500	約6,300	約6,600
		県	約161,000	約160,000	約152,000	約165,000
液状化	全壊	市	約80	約80	約80	約80
		県	約1,800	約1,800	約1,800	約1,800
	半壊	市	約200	約200	約200	約300
		県	約5,900	約5,800	約5,600	約6,000
人工造成地	全壊	市	約2,400	約2,400	約2,400	約2,400
		県	約17,000	約17,000	約17,000	約17,000
	半壊	市	約7,100	約7,100	約7,100	約7,100
		県	約51,000	約51,000	約51,000	約51,000
津波	全壊	市	約600	約600	約600	約600
		県	約28,000	約28,000	約28,000	約28,000
	半壊	市	約4,100	約3,900	約3,500	約4,300
		県	約31,000	約31,000	約29,000	約32,000
山・崖崩れ	全壊	市	約40	約40	約40	約40
		県	約2,500	約2,500	約2,500	約2,500
	半壊	市	約80	約80	約80	約80
		県	約5,800	約5,800	約5,800	約5,800
火災	焼失	市	約1,300	約1,600	約3,400	約600
		県	約22,000	約27,000	約64,000	約2,500
建物棟数		市	51,245			
		県	1,418,505			
建物被害総数	全壊及び 焼失	市	約16,000	約16,000	約18,000	約15,000
		県	約242,000	約248,000	約285,000	約223,000
	半壊	市	約18,000	約18,000	約17,000	約18,000
		県	約255,000	約253,000	約244,000	約260,000
建物被害率	全壊及び 焼失	市	約31%	約31%	約35%	約29%
		県	約17%	約17%	約20%	約16%
	半壊	市	約35%	約35%	約33%	約35%
		県	約18%	約18%	約17%	約18%

(注) ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。
 ・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
 ・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

【地震動：陸側ケース、津波：ケース①】

(単位：棟)

項目	被害区分		予知なし			予知あり
			冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	市	約2,300	約2,300	約2,300	約2,300
		県	約179,000	約179,000	約179,000	約179,000
	半壊	市	約6,700	約6,700	約6,500	約6,700
		県	約122,000	約121,000	約117,000	約123,000
液状化	全壊	市	約80	約80	約80	約80
		県	約1,600	約1,600	約1,600	約1,600
	半壊	市	約300	約300	約300	約300
		県	約5,700	約5,700	約5,500	約5,700
人工造成地	全壊	市	約30	約30	約30	約30
		県	約16,000	約16,000	約16,000	約16,000
	半壊	市	約90	約90	約90	約90
		県	約47,000	約47,000	約47,000	約47,000
津波	全壊	市	約800	約800	約800	約800
		県	約28,000	約28,000	約28,000	約28,000
	半壊	市	約5,300	約5,300	約5,100	約5,400
		県	約35,000	約35,000	約34,000	約35,000
山・崖崩れ	全壊	市	約20	約20	約20	約20
		県	約2,100	約2,100	約2,100	約2,100
	半壊	市	約50	約50	約50	約50
		県	約5,000	約5,000	約5,000	約5,000
火災	焼失	市	約100	約200	約1,000	約10
		県	約11,000	約14,000	約35,000	約4,500
建物棟数		市	51,245			
		県	1,418,505			
建物被害総数	全壊及び 焼失	市	約3,400	約3,500	約4,300	約3,300
		県	約238,000	約240,000	約262,000	約231,000
	半壊	市	約12,000	約12,000	約12,000	約13,000
		県	約214,000	約213,000	約208,000	約216,000
建物被害率	全壊及び 焼失	市	約7%	約7%	約8%	約6%
		県	約17%	約17%	約18%	約16%
	半壊	市	約23%	約23%	約23%	約25%
		県	約15%	約15%	約15%	約15%

(注) ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊

・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

【地震動：東側ケース、津波：ケース①】

(単位：棟)

項目	被害区分		予知なし			予知あり
			冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	市	約5,400	約5,400	約5,400	約5,400
		県	約191,000	約191,000	約191,000	約191,000
	半壊	市	約8,400	約8,300	約8,100	約8,400
		県	約178,000	約177,000	約168,000	約181,000
液状化	全壊	市	約80	約80	約80	約80
		県	約1,800	約1,800	約1,800	約1,800
	半壊	市	約300	約300	約300	約300
		県	約5,900	約5,800	約5,600	約6,000
人工造成地	全壊	市	約500	約500	約500	約500
		県	約17,000	約17,000	約17,000	約17,000
	半壊	市	約1,500	約1,500	約1,500	約1,500
		県	約50,000	約50,000	約50,000	約50,000
津波	全壊	市	約700	約700	約700	約700
		県	約26,000	約26,000	約26,000	約26,000
	半壊	市	約4,700	約4,700	約4,400	約4,800
		県	約30,000	約29,000	約27,000	約31,000
山・崖崩れ	全壊	市	約30	約30	約30	約30
		県	約2,700	約2,700	約2,700	約2,700
	半壊	市	約70	約70	約70	約70
		県	約6,300	約6,300	約6,300	約6,300
火災	焼失	市	約600	約700	約1,900	約100
		県	約19,000	約24,000	約66,000	約2,200
建物棟数		市	51,245			
		県	1,418,505			
建物被害総数	全壊及び 焼失	市	約7,400	約7,500	約8,700	約6,900
		県	約257,000	約262,000	約304,000	約240,000
	半壊	市	約15,000	約15,000	約14,000	約15,000
		県	約270,000	約268,000	約257,000	約274,000
建物被害率	全壊及び 焼失	市	約14%	約15%	約17%	約13%
		県	約18%	約18%	約21%	約17%
	半壊	市	約29%	約29%	約27%	約29%
		県	約19%	約19%	約18%	約19%

(注) ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊

・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

(3) 人的被害に係る想定結果

【地震動：基本ケース、津波：ケース①】

(単位：人)

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち、屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		死者数	市	約500 (約60)	約200 (約30)	約400 (約40)	約100 (約10)	約70 (約10)	約100 (約10)
			県	約5,500 (約700)	約2,700 (約500)	約4,300 (約500)	約1,600 (約100)	約800 (約100)	約1,200 (約100)
		重傷者数	市	約1,400 (約200)	約1,900 (約200)		約400 (約40)	約500 (約30)	
			県	約19,000 (約2,600)	約30,000 (約2,100)	約19,000 (約1,600)	約5,300 (約600)	約8,700 (約500)	約5,500 (約400)
		軽傷者数	市	約3,000 (約800)	約3,800 (約600)		約900 (約200)	約1,100 (約100)	
			県	約49,000 (約9,700)	約52,000 (約7,800)	約42,000 (約7,600)	約14,000 (約2,100)	約15,000 (約1,700)	約12,000 (約1,700)
津波	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約11,000	約7,400	約7,800	約1,300	約1,100	約1,200
			県	約65,000	約31,000	約35,000	約11,000	約7,200	約8,300
		重傷者数	市	約900	約500		約100	約90	
			県	約2,300	約900	約1,100	約500	約300	約300
		軽傷者数	市	約1,700	約1,000		約200	約200	
			県	約4,500	約1,800	約2,000	約900	約600	約600
	早期避難率 低	死者数	市	約11,000	約9,900	約10,000			
			県	約95,000	約62,000	約72,000	約11,000	約7,200	約8,300
		重傷者数	市	約900	約800				
			県	約4,000	約2,500	約2,900	約500	約300	約300
		軽傷者数	市	約1,800	約1,500				
			県	約7,700	約4,800	約5,500	約900	約600	約600
山・崖崩れ		死者数	市	－	－	－	－	－	－
			県	約200	約90	約200	約30	約10	約20
		重傷者数	市	－	－		－	－	－
			県	約100	約60	約100	約20	約10	約10
		軽傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約100	約60	約100	約20	約10	約10
火災		死者数	市	約60	約30	約100	約10	－	約10
			県	約800	約500	約2,000	約30	約10	約20
		重傷者数	市	約20	約30		約10	約10	
			県	約400	約600	約1,300	約50	約50	約50
		軽傷者数	市	約60	約70		約30	約30	
			県	約1,100	約1,500	約3,500	約100	約100	約100
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		死者数	市	－	－	－	－	－	－
			県	－	約10	約20	－	－	－
		重傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約10	約100	約200	－	約10	約10
		軽傷者数	市	－	約10		－	－	
			県	約10	約200	約400	－	約10	約20

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
死傷者数 合計	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約11,000	約7,700	約8,300	約1,400	約1,200	約1,300
			県	約72,000	約34,000	約42,000	約13,000	約8,000	約9,600
		重傷者数	市	約2,300	約2,400		約500	約600	
			県	約21,000	約32,000	約22,000	約5,900	約9,000	約5,900
		軽傷者数	市	約4,800	約4,900		約1,100	約1,300	
			県	約55,000	約55,000	約48,000	約15,000	約16,000	約13,000
	早期避難率 低	死者数	市	約11,000	約10,000	約11,000			
			県	約102,000	約65,000	約78,000	約13,000	約8,000	約9,600
		重傷者数	市	約2,300	約2,700				
			県	約23,000	約33,000	約24,000	約5,900	約9,000	約5,900
		軽傷者数	市	約4,900	約5,400				
			県	約58,000	約58,000	約52,000	約15,000	約16,000	約13,000
人口（平成22年10月1日現在）			市	143,249					
			県	3,765,007					

（注） ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（１９９９）による建物破壊パターンチャートのＤ５以上相当。全壊に含まれる。

・重傷者：１ヶ月以上の治療を要する負傷者

・軽傷者：１ヶ月未満の治療を要する負傷者

※「－」：被害わずか

※斜線箇所：静岡県第４次地震被害想定（第一次報告）に掲載されていない箇所

※夏・昼発災（予知なし）の場合、海水浴客の津波による県の死者数の増分は、約１３，０００人（早期避難率高＋呼びかけ）～約２９，０００人（早期避難率低）

※予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

※死傷者数合計の市の予知ありは、早期避難率高＋呼びかけと早期避難率低の区分が不明であるため、早期避難率高＋呼びかけに計上した。

【地震動：陸側ケース、津波：ケース①】

(単位：人)

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち、屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		死者数	市	約60 (約10)	約20 (一)	約40 (約10)	約20 (一)	約10 (一)	約10 (一)
			県	約7,800 (約700)	約4,100 (約600)	約6,200 (約600)	約2,200 (約200)	約1,200 (約100)	約1,800 (約100)
		重傷者数	市	約200 (約40)	約400 (約30)		約70 (約10)	約100 (約10)	
			県	約19,000 (約2,500)	約35,000 (約2,100)	約21,000 (約1,700)	約5,600 (約500)	約10,000 (約500)	約6,100 (約400)
		軽傷者数	市	約1,400 (約200)	約1,300 (約100)		約400 (約30)	約400 (約30)	
			県	約42,000 (約9,700)	約52,000 (約7,800)	約38,000 (約7,600)	約12,000 (約2,100)	約15,000 (約1,700)	約11,000 (約1,700)
津波	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約11,000	約7,300	約7,600	約1,200	約1,100	約1,200
			県	約66,000	約31,000	約36,000	約11,000	約7,200	約8,400
		重傷者数	市	約900	約500		約100	約90	
			県	約2,300	約900	約1,100	約500	約300	約300
津波	早期避難率 低	死者数	市	約11,000	約9,800	約10,000			
			県	約96,000	約62,000	約74,000	約11,000	約7,200	約8,400
		重傷者数	市	約1,000	約800				
			県	約4000	約2,500	約2,900	約500	約300	約300
山・崖崩れ		死者数	市	—	—	—	—	—	—
			県	約200	約80	約100	約20	約10	約20
		重傷者数	市	—	—		—	—	
			県	約100	約50	約90	約10	約10	約10
火災		死者数	市	—	—	—	—	—	—
			県	約1,500	約1,000	約3,400	約200	約100	約100
		重傷者数	市	—	—		—	—	
			県	約300	約400	約900	約100	約100	約100
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		死者数	市	—	—	—	—	—	—
			県	—	約10	約10	—	—	—
		重傷者数	市	—	—		—	—	
			県	—	約70	約100	—	—	約10
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		軽傷者数	市	—	—		—	—	
			県	約10	約200	約300	—	約10	約20

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
死傷者数 合計	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約11,000	約7,300	約7,600	約1,300	約1,100	約1,200
			県	約75,000	約36,000	約46,000	約14,000	約8,500	約10,000
		重傷者数	市	約1,100	約900		約200	約200	
			県	約22,000	約37,000	約23,000	約6,200	約11,000	約6,600
		軽傷者数	市	約3,100	約2,300		約600	約600	
			県	約47,000	約55,000	約43,000	約13,000	約16,000	約12,000
	早期避難率 低	死者数	市	約11,000	約9,800	約10,000			
			県	約105,000	約67,000	約82,000	約14,000	約8,500	約10,000
		重傷者数	市	約1,200	約1,200				
			県	約24,000	約38,000	約25,000	約6,200	約11,000	約6,600
		軽傷者数	市	約3,300	約2,800				
			県	約50,000	約58,000	約46,000	約13,000	約16,000	約12,000
人口（平成22年10月1日現在）			市	143,249					
			県	3,765,007					

（注） ・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（１９９９）による建物破壊パターンチャートのＤ５以上相当。全壊に含まれる。

・ 重傷者：１ヶ月以上の治療を要する負傷者

・ 軽傷者：１ヶ月未満の治療を要する負傷者

※「－」：被害わずか

※斜線箇所：静岡県第４次地震被害想定（第一次報告）に掲載されていない箇所

※夏・昼発災（予知なし）の場合、海水浴客の津波による県の死者数の増分は、約１３，０００人（早期避難率高＋呼びかけ）～約２９，０００人（早期避難率低）

※予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

※死傷者数合計の市の予知ありは、早期避難率高＋呼びかけと早期避難率低の区分が不明であるため、早期避難率高＋呼びかけに計上した。

【地震動：東側ケース、津波：ケース①】

(単位：人)

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち、屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		死者数	市	約100 (約20)	約50 (約10)	約80 (約10)	約30 (－)	約10 (－)	約20 (－)
			県	約6,000 (約700)	約3,000 (約500)	約4,700 (約500)	約1,700 (約200)	約900 (約100)	約1,400 (約100)
		重傷者数	市	約600 (約80)	約800 (約60)		約200 (約20)	約200 (約10)	
			県	約21,000 (約2,700)	約34,000 (約2,200)	約21,000 (約1,700)	約5,900 (約600)	約9,700 (約500)	約6,100 (約400)
		軽傷者数	市	約2,200 (約300)	約2,100 (約200)		約600 (約70)	約600 (約50)	
			県	約53,000 (約10,000)	約55,000 (約8,300)	約45,000 (約8,100)	約15,000 (約2,200)	約16,000 (約1,800)	約13,000 (約1,800)
津波	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約11,000	約7,300	約7,600	約1,200	約1,100	約1,200
			県	約65,000	約31,000	約36,000	約11,000	約7,200	約8,300
		重傷者数	市	約900	約500		約100	約90	
			県	約2,300	約900	約1,100	約500	約300	約300
		軽傷者数	市	約1,700	約1,000		約200	約200	
			県	約4,500	約1,800	約2,100	約900	約600	約600
	早期避難率 低	死者数	市	約11,000	約9,800	約10,000			
			県	約95,000	約62,000	約72,000	約11,000	約7,200	約8,300
		重傷者数	市	約1,000	約800				
			県	約4,000	約2,500	約2,900	約500	約300	約300
		軽傷者数	市	約1,800	約1,500				
			県	約7,700	約4,800	約5,500	約900	約600	約600
山・崖崩れ		死者数	市	－	－	－	－	－	－
			県	約200	約100	約200	約30	約10	約20
		重傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約200	約60	約100	約20	約10	約10
		軽傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約200	約60	約100	約20	約10	約10
火災		死者数	市	－	－	約10	－	－	－
			県	約600	約400	約1,600	約40	約20	約30
		重傷者数	市	約10	約10		－	－	
			県	約400	約500	約1,300	約50	約50	約50
		軽傷者数	市	約20	約20		約10	約10	
			県	約900	約1,300	約3,400	約100	約100	約100
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		死者数	市	－	－	－	－	－	－
			県	－	約10	約20	－	－	－
		重傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約10	約100	約200	－	約10	約10
ブロック塀の転倒、 屋外落下物		軽傷者数	市	－	－		－	－	
			県	約20	約200	約400	－	約10	約20

項目		被害区分		予知なし			予知あり		
				冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
死傷者数 合計	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	約11,000	約7,300	約7,700	約1,300	約1,200	約1,200
			県	約72,000	約34,000	約42,000	約13,000	約8,100	約9,700
		重傷者数	市	約1,500	約1,300		約300	約300	
			県	約23,000	約35,000	約24,000	約6,400	約10,000	約6,500
		軽傷者数	市	約3,900	約3,100		約900	約800	
			県	約58,000	約59,000	約51,000	約16,000	約17,000	約14,000
	早期避難率 低	死者数	市	約11,000	約9,900	約10,000			
			県	約102,000	約65,000	約78,000	約13,000	約8,100	約9,700
		重傷者数	市	約1,600	約1,500				
			県	約25,000	約37,000	約26,000	約6,400	約10,000	約6,500
		軽傷者数	市	約4,100	約3,600				
			県	約62,000	約62,000	約55,000	約16,000	約17,000	約14,000
人口（平成22年10月1日現在）			市	143,249					
			県	3,765,007					

（注） ・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（１９９９）による建物破壊パターンチャートのＤ５以上相当。全壊に含まれる。

・ 重傷者：１ヶ月以上の治療を要する負傷者

・ 軽傷者：１ヶ月未満の治療を要する負傷者

※「－」：被害わずか

※斜線箇所：静岡県第４次地震被害想定（第一次報告）に掲載されていない箇所

※夏・昼発災（予知なし）の場合、海水浴客の津波による県の死者数の増分は、約１３，０００人（早期避難率高＋呼びかけ）～約３０，０００人（早期避難率低）

※予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

※死傷者数合計の市の予知ありは、早期避難率高＋呼びかけと早期避難率低の区分が不明であるため、早期避難率高＋呼びかけに計上した。

４ 相模トラフ沿いで発生するレベル１の地震・津波（大正型関東地震）の被害想定の結果

（１）概説

この試算は、南関東地域直下の地震のうち、本県に大きな影響が想定される大正型関東地震が発生した場合を想定して行ったものである。

試算に当たっては、地質や地盤、海岸現況等の基本データを利用し、過去の地震被害例を参考に数値計算を行い、地震動・液状化危険度及び津波波高の想定をしている。

これらの結果を基に、地震動・液状化、人工造成地、津波、山・崖崩れ及び延焼火災に起因する建物被害とともに、ブロック塀・石塀及び屋外落下物等の物的被害や人的被害の試算をしている。

（２）建物等被害に係る想定結果

（単位：棟）

項目	被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
地震動	全壊	市	－	－	－
		県	約10,000	約10,000	約10,000
	半壊	市	約20	約20	約20
		県	約27,000	約27,000	約26,000

項目	被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
液状化	全壊	市	約20	約20	約20
		県	約800	約800	約800
	半壊	市	約100	約100	約100
		県	約3,100	約3,100	約3,100
人工造成地	全壊	市	—	—	—
		県	約40	約40	約40
	半壊	市	—	—	—
		県	約100	約100	約100
津波	全壊	市	—	—	—
		県	約900	約900	約900
	半壊	市	—	—	—
		県	約2,300	約2,300	約2,300
山・崖崩れ	全壊	市	—	—	—
		県	約500	約500	約500
	半壊	市	—	—	—
		県	約1,100	約1,100	約1,100
火災	焼失	市	—	—	—
		県	約200	約300	約1,600
建物棟数		市	51,245		
		県	1,418,505		
建物被害総数	全壊及び 焼失	市	約20	約20	約20
		県	約13,000	約13,000	約14,000
	半壊	市	約100	約100	約100
		県	約33,000	約33,000	約33,000
建物被害率	全壊及び 焼失	市	約0.04%	約0.04%	約0.04%
		県	約1%	約1%	約1%
	半壊	市	約0.2%	約0.2%	約0.2%
		県	約2%	約2%	約2%

「—」：被害わずか

(注) ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊

・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

(3) 人的被害に係る想定結果

(単位：人)

項目	被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち、屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	死者数	市	— (—)	— (—)	— (—)
		県	約100 (約40)	約50 (約20)	約90 (約30)
	重傷者数	市	— (—)	— (—)	約1,000 (約100)
		県	約1,100 (約200)	約1,400 (約100)	
	軽傷者数	市	— (—)	約20 (—)	約4,200 (約600)
		県	約5,100 (約800)	約4,600 (約700)	

項目		被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
津波	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	－	－	－
			県	約2,300	約600	約900
		重傷者数	市	－	－	／
			県	約100	約50	約70
		軽傷者数	市	－	－	／
			県	約200	約100	約100
津波	早期避難率 低	死者数	市	－	－	－
			県	約2,900	約1,700	約2,400
		重傷者数	市	－	－	／
			県	約200	約100	約200
		軽傷者数	市	－	－	／
			県	約400	約300	約400
山・崖崩れ		死者数	市	－	－	－
			県	約40	約20	約30
		重傷者数	市	－	－	／
			県	約30	約10	約20
		軽傷者数	市	－	－	／
			県	約30	約10	約20
火災		死者数	市	－	－	－
			県	－	－	約10
		重傷者数	市	－	－	／
			県	－	約10	約30
		軽傷者数	市	－	－	／
			県	約10	約10	約70
ブロック塀の転倒、屋 外落下物		死者数	市	－	－	－
			県	－	－	－
		重傷者数	市	－	－	／
			県	－	約20	約30
		軽傷者数	市	－	－	／
			県	－	約30	約50
死傷 者数 合計	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	－	－	－
			県	約2,500	約700	約1,000
		重傷者数	市	－	－	／
			県	約1,200	約1,500	約1,200
		軽傷者数	市	－	約20	／
			県	約5,400	約4,700	約4,500
	早期避難率 低	死者数	市	－	－	－
			県	約3,000	約1,800	約2,500
		重傷者数	市	－	－	／
			県	約1,300	約1,600	約1,300
		軽傷者数	市	－	－	／
			県	約5,600	約4,900	約4,700
人口（平成22年10月1日現在）			市	143,249		
			県	3,765,007		

（注） ・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（１９９９）による建物破壊パターンチャートのＤ５以上相当。全壊に含まれる。
- ・重傷者：１ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・軽傷者：１ヶ月未満の治療を要する負傷者

※「－」：被害わずか

※斜線箇所：静岡県第４次地震被害想定（第一次報告）に掲載されていない箇所

※夏・昼発災の場合、海水浴客の津波による県の死者数の増分は、約１,６００人（早期避難率高＋呼びかけ）～約４,６００人（早期避難率低）

５ 相模トラフ沿いで発生するレベル２の地震・津波（元禄型関東地震）の被害想定の結果

（１）概説

この試算は、南関東地域直下の地震のうち、本県に最も大きな影響が想定される元禄型関東地震が発生した場合を想定して行ったものである。

試算に当たっては、地質や地盤、海岸現況等の基本データを利用し、過去の地震被害例を参考に数値計算を行い、地震動・液状化危険度及び津波波高の想定をしている。

これらの結果を基に、地震動・液状化、人工造成地、津波、山・崖崩れ及び延焼火災に起因する建物被害とともに、ブロック塀・石塀及び屋外落下物等の物的被害や人的被害の試算をしている。

（２）建物等被害に係る想定結果

（単位：棟）

項目	被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
地震動	全壊	市	—	—	—
		県	約19,000	約19,000	約19,000
	半壊	市	約20	約20	約20
		県	約40,000	約39,000	約39,000
液状化	全壊	市	約20	約20	約20
		県	約1,000	約1,000	約1,000
	半壊	市	約100	約100	約100
		県	約3,700	約3,700	約3,700
人工造成地	全壊	市	—	—	—
		県	約80	約80	約80
	半壊	市	—	—	—
		県	約300	約300	約300
津波	全壊	市	約10	約10	約10
		県	約2,400	約2,400	約2,400
	半壊	市	約100	約100	約100
		県	約6,300	約6,300	約6,200
山・崖崩れ	全壊	市	—	—	—
		県	約600	約600	約600
	半壊	市	—	—	—
		県	約1,400	約1,400	約1,400
火災	焼失	市	—	—	—
		県	約400	約600	約3,700
建物棟数		市	51,245		
		県	1,418,505		

項目	被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物被害総数	全壊及び 焼失	市	約30	約30	約30
		県	約23,000	約24,000	約27,000
	半壊	市	約200	約200	約200
		県	約51,000	約51,000	約50,000
建物被害率	全壊及び 焼失	市	約0.06%	約0.06%	約0.06%
		県	約2%	約2%	約2%
	半壊	市	約0.4%	約0.4%	約0.4%
		県	約4%	約4%	約4%

「－」：被害わずか

- (注) ・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。
・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

(3) 人的被害に係る想定結果

(単位：人)

項目		被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち、屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		死者数	市	－ (－)	－ (－)	－ (－)
			県	約200 (約70)	約100 (約40)	約200 (約50)
		重傷者数	市	－ (－)	－ (－)	
			県	約1,900 (約300)	約2,300 (約200)	約1,800 (約200)
		軽傷者数	市	－ (－)	約30 (－)	
			県	約7,900 (約1,300)	約6,600 (約1,000)	約4,900 (約1,000)
津波	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	－	－	－
			県	約4,700	約1,400	約1,900
		重傷者数	市	－	－	
			県	約100	約60	約70
		軽傷者数	市	－	－	
			県	約300	約100	約100
	早期避難率 低	死者数	市	約10	－	－
			県	約5,700	約3,500	約4,700
		重傷者数	市	－	－	
			県	約300	約200	約300
		軽傷者数	市	－	－	
			県	約500	約400	約500
山・崖崩れ		死者数	市	－	－	－
			県	約50	約20	約40
		重傷者数	市	－	－	
			県	約30	約10	約20
		軽傷者数	市	－	－	
			県	約30	約10	約20

項目		被害区分		冬・深夜	夏・昼	冬・夕
火災	死者数	市	—	—	—	—
		県	約10	—	約20	約20
	重傷者数	市	—	—	—	—
		県	—	約10	約6	約6
	軽傷者数	市	—	—	—	—
		県	約20	約30	約200	約200
ブロック塀の転倒、屋外落下物	死者数	市	—	—	—	—
		県	—	—	—	—
	重傷者数	市	—	—	—	—
		県	—	約30	約40	約40
	軽傷者数	市	—	—	—	—
		県	—	約40	約90	約90
死傷者数合計	早期避難率 高 ＋呼びかけ	死者数	市	—	—	—
			県	約5,000	約1,500	約2,100
		重傷者数	市	—	—	—
			県	約2,100	約2,400	約2,000
		軽傷者数	市	—	約30	—
			県	約8,300	約6,800	約5,300
	早期避難率 低	死者数	市	約10	—	—
			県	約6,000	約3,600	約4,900
		重傷者数	市	—	—	—
			県	約2,200	約2,600	約2,200
		軽傷者数	市	—	約30	—
			県	約8,500	約7,200	約5,700
人口（平成22年10月1日現在）			市	143,249		
			県	3,765,007		

注）・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・重傷者：1 ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・軽傷者：1 ヶ月未満の治療を要する負傷者

※「—」：被害わずか

※斜線箇所：静岡県第4次地震被害想定（第一次報告）に掲載されていない箇所

※夏・昼発災の場合、海水浴客の津波による県の死者数の増分は、約2,400人（早期避難率高＋呼びかけ）～約6,500人（早期避難率低）

第4節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

焼津市を管轄する指定地方行政機関及び防災関係各機関、その他の防災上重要な施設の管理者は、それぞれの所掌事務又は業務を通じて、焼津市に係る地震防災に寄与すべきものである。それぞれが防災に関し処理すべき事務、又は業務の大綱は次のとおりである。

1 焼津市

処理すべき事務又は業務	
	(1) 地震対策計画の作成 (2) 地震防災に関する組織の整備 (3) 自主防災組織の育成指導、その他住民の地震対策の促進 (4) 防災思想の普及 (5) 防災訓練の実施 (6) 地震防災のための施設等の緊急整備 (7) 地震防災応急計画及び対策計画の作成指導及び届出の受理 (8) 南海トラフ地震臨時情報、地震情報、大津波警報、津波警報、津波注意報、その他地震・津波に関する情報の収集、伝達及び広報 (9) 避難の指示に関する事項 (10) 消防、水防、その他の応急措置 (11) 応急の救護を要すると認められる者の救護、その他保護に関する事項 (12) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における市町有施設及び設備の整備又は点検 (13) 緊急輸送の確保 (14) 食料、医薬品、その他の物資の確保、清掃、防疫、その他保健衛生活動の準備等災害応急対策の準備及び実施 (15) その他地震災害発生の防止又は拡大防止のための措置

2 消防機関

機 関 名	処理すべき事務又は業務
志太広域事務組合志太消防本部 (以下「志太消防本部」という。)	(1) 消防施設、消防本部体制の整備に関すること (2) 救助及び救急体制の整備に関すること (3) 危険物等施設の実態把握と防護の指導監督 (4) 消防知識の啓発、普及 (5) 火災発生時の消火活動 (6) 水防活動における救助、救急に関すること (7) 被災者の救助、救急 (8) 被害に関する情報の収集、伝達及び被害調査 (9) 市、関係機関との連絡調整に関すること (10) その他地震災害拡大防止のための措置

※ 平成25年3月31日 消防広域化に伴う組織統合

3 静岡県

処理すべき事務又は業務	
	(1) 地震対策計画の作成 (2) 地震防災に関する組織の整備 (3) 自主防災組織の育成指導、その他県民の地震対策の促進 (4) 防災思想の普及 (5) 防災訓練の実施 (6) 地震防災のための施設等の緊急整備 (7) 震度観測網及び震度情報ネットワーク等の維持・整備 (8) 地震防災緊急計画及び対策計画の作成指導及び届出の受理 (9) 南海トラフ地震臨時情報、地震情報、大津波警報、津波警報、津波注意報、その他地震・津波に関する情報の収集、伝達及び広報 (10) 緊急地震速報の意義と受信時にとるべき対応行動の広報・啓発 (11) 避難の指示に関する事項 (12) 水防その他の応急措置 (13) 応急の救護を要すると認められる者の救護、その他保護に関する事項 (14) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における県有施設及び設備の整備又は点検 (15) 犯罪の予防、交通の規制、その他社会秩序の維持 (16) 緊急輸送の確保 (17) 食料、医薬品、その他の物資の確保、清掃、防疫、その他保健衛生活動の準備等災害応急対策の準備及び実施 (18) 市町、指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関の地震防災緊急対策及び災害応急対策の連絡調整 (19) その他地震災害の発生の防止又は拡大防止のための措置

4 静岡県警察（焼津警察署）

機 関 名	処理すべき事務又は業務
静岡県警察 (焼津警察署)	(1) 南海トラフ地震臨時情報等の受理、伝達 (2) 南海トラフ地震臨時情報等の広報 (3) 危険区域への立入規制及び警備 (4) 避難の指示に関する事項 (5) 緊急道路確保のための交通規制 (6) 応急の救護を要すると認められる者の救護 (7) 犯罪の予防、混乱の防止等、社会秩序の維持

5 防災関係機関

(1) 指定地方行政機関

機 関 名	処理すべき事務又は業務
総務省東海総合通信局	ア 災害時に備えての電気通信施設（有線電気通信施設及び無線通信施設）の整備のための調整及び電波の監理 イ 災害時における電気通信及び放送の確保のための応急対策及び非常の場合の無線通信の監理 ウ 災害地域における電気通信施設、放送設備等の被害状況調査 エ 通信インフラに支障が発生した被災地の地方公共団体への衛星携帯電話等の災害対策用移動通信機器、災害対策用移動電源車及び臨時災害放送局用設備の貸与 オ 非常通信訓練の計画及びその実施についての指導に関すること カ 非常通信協議会の運営に関すること

機 関 名	処理すべき事務又は業務
総務省中部管区行政評価局（静岡行政監視行政相談センター）	ア 被災者への生活支援情報の提供 イ 専用電話を備えた相談窓口の開設 ウ 特別行政相談所の開設
財務省東海財務局（静岡財務事務所）	ア 災害時における財政金融の適切な措置並びに関係機関との連絡調整に関すること イ 災害時の応急措置のための国有財産の無償提供に関すること
厚生労働省静岡労働局（島田労働基準監督署）	ア 事業場に対する地震防災対策の周知指導 イ 事業場の被災状況の把握
農林水産省関東農政局 静岡県拠点	食料需給に関する情報収集及び災害時における関係機関、団体の被災状況の把握
農林水産省関東農政局	農林水産省各局庁、関東農政局企画調整室及び静岡県拠点地方参事官、森林管理局の指示により静岡県に連絡要員（リエゾン）を派遣し、以下の業務を実施する。 ア 農作物、営農施設、農地・農業用施設及び森林・林業施設等の被害状況や応急対策の措置状況等に関する、被災自治体が把握している情報の収集及び地方農政局又は森林管理局への報告 イ 応急用食料・物資の支援に係る静岡県担当者、内閣府リエゾン及び農林水産本省（食料・物資支援チーム事務局等）との連絡調整 ウ 静岡県の食料・物資支援拠点における応急用食料・物資の到着状況に関する、食料・物資支援チーム事務局及び関東農政局への報告 エ その他農林水産本省各局庁、関東農政局又は森林管理局が指示する業務
経済産業省 関東経済産業局	ア 生活必需品、復旧資材等防止関係物資の円滑な供給の確保に関すること イ 商工鉱業の事業者の業務の正常な運営の確保に関すること ウ 被災中小企業の振興に関すること
国土交通省 中部地方整備局 （静岡河川事務所、静岡 国道事務所、清水港湾事 務所）	管轄する河川、道路、港湾についての計画、工事及び管理を行うほか、次の事項を行うよう努める。 ア 災害予防 （ア）所管施設の耐震性の確保 （イ）応急復旧用資機材の備蓄の推進及び防災拠点施設等の充実 （ウ）機動力を生かした実践的な方法による防災訓練の実施 （エ）公共施設等の被災状況調査を行う防災エキスパート制度の運用 イ 初動対応 地方整備局災害対策本部等からの指示により、情報連絡員（リエゾン）及び緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）等を派遣し、被災地方公共団体等が行う、被災状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する支援を行うとともに、緊急車両の通行を確保するため、関係機関と調整を図りつつ、道路管理者等で構成する協議会で策定した道路啓開計画に基づき、道路啓開を実施する。 ウ 応急・復旧 （ア）防災関係機関との連携による応急対策の実施 （イ）路上障害物の除去等による緊急輸送路の確保 （ウ）所管施設の緊急点検の実施 （エ）海上の流出油災害に対する防除等の措置 （オ）県からの要請に基づく災害対策用建設機械等の貸与

機 関 名	処理すべき事務又は業務
国土交通省 中部運輸局 (静岡運輸支局)	ア 所管事務に係る災害情報の収集及び伝達 イ 海上における物資及び旅客の輸送を確保するための、船舶の調達のあっせん、特定航路への就航勧奨 ウ 港湾荷役が円滑に行われるよう必要な指導 エ 緊急海上輸送の要請に速やかに対応できるよう、船舶運航事業者等との連絡体制の強化、船舶動静の把握及び緊急時の港湾荷役態勢の確保 オ 特に必要と認めるときは、船舶運航事業者若しくは港湾運送事業者に対する航海命令又は公益命令を発する措置 カ 鉄道及びバスの安全運行の確保に必要な指導・監督 キ 自動車道の通行の確保に必要な指導・監督 ク 陸上における物資及び旅客輸送を確保するための、自動車の調達のあっせん、輸送の分担、う回輸送、代替輸送等の指導 ケ 緊急陸上輸送の要請に速やかに対応できるよう、関係運送事業者団体及び運送事業者との連絡体制の確立、緊急輸送に使用しうる車両等の把握及び緊急時の出動体制の整備 コ 特に必要があると認めるときは、自動車運送事業者に対する輸送命令 サ 大規模自然災害における被災状況の迅速な把握、被災地の早期復旧等に関する支援のため緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣する。
国土地理院 中部地方測量部	ア 災害応急対策の際、災害に関する情報の収集及び伝達における地理空間情報の活用を図る。 イ 災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興の際、国土地理院が提供及び公開する防災関連情報の利活用を図る。 ウ 災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興の際、地理情報システムの活用を図る。 エ 災害復旧・復興にあたっては、位置に関わる情報の基盤を形成するため、必要に応じて復旧測量等を実施する。
気象庁東京管区気象台 (静岡地方気象台)	ア 県知事に対して速やかに南海トラフ地震に関連する情報の通報を行うこと イ 気象庁が発表する地震動警報（緊急地震速報）の利用の心得などの周知・広報、大津波警報、津波警報及び津波注意報の通知、津波情報、地震情報（南海トラフ地震に関連する情報を含む。）等の発表又は通報並びに解説 ウ 地震観測施設の整備並びに観測機器の保守 エ 地震、津波に関する啓発活動並びに防災訓練に対する協力 オ 異常現象に関する情報が市町長から通報された場合、すみやかに気象庁本庁に報告し適切な措置を講ずること
海上保安庁 第三管区海上保安本部 (清水海上保安部)	ア 船舶等に対する南海トラフ地震に関連する情報に係る情報の伝達、船舶のふくそうが予想される海域において、必要に応じて船舶交通の整理・指導 イ 海水浴客等に対する南海トラフ地震に関連する情報の情報伝達 ウ 海難等の海上における災害に係る救助救出活動 エ 海上における治安の維持、海上交通の安全確保 オ 危険物及び油の排出等海上災害に対する応急措置
環境省 関東地方環境事務所	ア 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供 イ 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集 ウ 行政機関等との連絡調整、動物救護活動の状況等に関する情報収集、提供等
環境省 中部地方環境事務所	廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
防衛省 南関東防衛局	ア 所管財産使用に関する連絡調整 イ 災害時における防衛省本省及び自衛隊等との連絡調整 ウ 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援

(2) 指定公共機関

機 関 名	処理すべき事務又は業務
日本郵便株式会社東海支社（焼津郵便局）	ア 郵便事業の運営に関すること イ 災害の発生時又はそのおそれがある場合においては、可能な限り窓口業務を確保すること ウ 施設等の被災防止に関すること エ 利用者の避難誘導に関すること
日本赤十字社静岡県支部	ア 医療、助産、こころのケア及び遺体措置に関すること イ 血液製剤の確保及び供給のための措置 ウ 被災者に対する救援物資の配布 エ 義援金の募集 オ 災害救助の協力奉仕者の連絡調整 カ その他必要な事項
日本放送協会（静岡放送局）	ア 地震災害に関する解説、キャンペーン番組等の積極的な編成による視聴者の地震防災に関する認識の向上 イ 臨時ニュースの編成メディアを有効に活用し、南海トラフ地震臨時情報、地震情報及びその他の地震に関する情報の正確迅速な提供に努めること ウ 地方公共団体等の要請に基づき、予報、警報、警告等の放送を行うこと エ 放送施設、設備の災害予防のため、防災施設、設備の整備をすすめること
中日本高速道路株式会社（東京支社）	ア 交通対策に関すること イ 地震防災応急対策及び災害応急対策に関すること
東海旅客鉄道株式会社、 日本貨物鉄道株式会社	ア 南海トラフ地震臨時情報、地震情報等の伝達 イ 列車の運転規制措置 ウ 旅客の避難、救護 エ 南海トラフ地震臨時情報、列車の運行状況、旅客の避難実施状況等の広報 オ 地震発生後に備えた資機材、人員等の配備手配 カ 施設等の整備 キ 危険地域の駅、旅客等について市と協議した津波避難場所への避難
NTT西日本株式会社（静岡支店）、 株式会社NTTドコモ東海支社（静岡支店）	ア 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における重要通信の確保 イ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における通信疎状況等の広報 ウ 復旧用資機材等の確保並びに広域応援計画に基づく手配 エ 被害施設の早期復旧 オ 防災関係機関の重要通信の優先確保
岩谷産業株式会社、 アストモスエネルギー株式会社、 株式会社ジャパングスエナジー、 ENEOS グローブ株式会社、 シクシス株式会社	LPガスタンクローリー等によるLPガス輸入基地、2次基地から充填所へのLPガスの配送
日本通運株式会社（焼津支店）、 福山通運株式会社（焼津支店）、 佐川急便株式会社（大井川営業所）、 ヤマト運輸株式会社（大井川センター）、 西濃運輸株式会社（藤枝支店）	防災関係機関の要請に基づく緊急輸送車両の確保

機 関 名	処理すべき事務又は業務
中部電力株式会社、 中部電力パワーグリッド株式会社（藤枝営業所）	ア 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における電力の緊急融通等による電力供給の確保 イ 復旧用資材等の整備 ウ 電力施設の災害予防措置及び広報の実施
KDDI株式会社（静岡支店）、 ソフトバンク株式会社、 楽天モバイル株式会社	重要な通信を確保するために必要な措置の実施
一般社団法人日本建設業連合会中部支部、 一般社団法人全国中小建設業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
株式会社イトーヨーカ堂、 イオン株式会社、 ユニー株式会社、 株式会社セブン・イレブン・ジャパン、 株式会社ローソン、 株式会社ファミリーマート、 株式会社セブン&アイ・ホールディングス	ア 県からの要請による災害救助の実施に必要な物資の調達等の実施 イ 被災地の復旧・復興を支援するため事業活動を早期に再開する

(3) 指定地方公共機関

機 関 名	処理すべき事務又は業務
一般社団法人静岡県医師会、 一般社団法人静岡県歯科医師会、 公益社団法人静岡県看護協会、 公益社団法人静岡県病院協会、 公益社団法人静岡県薬剤師会	ア 医療救護施設における医療救護活動の実施 イ 検案（公益社団法人静岡県薬剤師会、公益社団法人静岡県看護協会及び公益社団法人静岡県病院協会を除く。） ウ 災害時の口腔ケアの実施（一般社団法人静岡県歯科医師会）
東海ガス株式会社	ア 需要家に対する都市ガスによる災害の予防広報 イ 南海トラフ地震臨時情報発表時におけるガス供給の確保 ウ 施設設備の耐震予防対策の実施 エ 南海トラフ地震臨時情報発表時における防災広報、施設の点検等災害予防措置 オ 災害応急復旧の早期実施
一般社団法人静岡県LPガス協会（藤枝地区会）	ア 需要家に対するLPガスによる災害の予防広報 イ 協会加入事業所による施設設備の耐震化等の予防対策の実施 ウ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における防災広報並びに協会加入事業所の施設の点検等災害防止措置の実施 エ 燃料の確保に関する協力 オ 協会加入事業所による被害状況調査及び応急復旧
静岡放送株式会社、 株式会社テレビ静岡、 株式会社静岡朝日テレビ、 株式会社静岡第一テレビ、 静岡エフエム放送株式会社	ア 地震防災に関するキャンペーン番組、地震防災メモのスポット、定時ニュース番組等による防災知識の普及 イ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時において特別番組を編成し、南海トラフ地震臨時情報、地震情報、その他地震に関する情報、国、県、市町、防災関係機関等の防災活動状況を放送すること ウ 放送施設、機器類等の整備の事前点検と災害予防のための設備の整備

機 関 名	処理すべき事務又は業務
一般社団法人静岡県トラック協会 (中部分室)、 一般社団法人静岡県バス協会、 商業組合静岡県タクシー協会 (志太榛原支部焼津地区)	防災関係機関の要請に基づく、協会加盟事業所からの緊急輸送車両等の確保
土地改良区 (大井川土地改良区)	ア 災害予防 所管施設の耐震性の確保 イ 南海トラフ地震臨時情報発表時 関係機関等に対する用水状況の情報提供 ウ 応急・復旧 (ア) 関係機関との連携による応急対策の実施 (イ) 所管施設の緊急点検 (ウ) 農業用水及び非常用水の確保
公益社団法人静岡県栄養士会	ア 要配慮者等への食料品の供給に関する協力 イ 避難所における健康相談に関する協力
一般社団法人静岡県建設業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
富士山静岡空港株式会社	ア 緊急事態を想定した訓練の実施 イ 緊急事態発生時の静岡空港現地対応本部の設置 ウ 空港利用者の安否情報、被災情報の集約等 エ 大規模な広域防災拠点としての応援部隊等の受入支援

(4) 自衛隊

機 関 名	処理すべき事務又は業務
陸上自衛隊東部方面隊 ほか	ア 災害時における人命又は財産保護のための救援活動 イ 災害時における応急復旧活動
海上自衛隊横須賀地方隊 ほか	ア 災害時における人命保護のための救助 イ 災害時における応急復旧活動
航空自衛隊第1航空団 (浜松基地) ほか	ア 災害時における人命保護のための救助 イ 災害時における応急復旧活動

(5) 地震防災応急計画及び対策計画の作成義務者

処理すべき事務又は業務
ア 地震防災訓練 イ 従業員及び施設利用者等に対する避難方法等の周知 ウ 従業員等に対する防災教育及び広報 エ 災害応急対策に必要な資機材等の確保措置 オ 防災組織の整備 カ 南海トラフ地震臨時情報等の収集及び伝達 キ 南海トラフ地震臨時情報発表時における従業員及び施設利用者等の避難誘導 ク 南海トラフ地震臨時情報発表時における火気の規制、施設・整備等の点検、仕掛工事の中止等安全措置 ケ 地震発生時における従業員及び施設利用者等の避難誘導 コ 上記の他、津波の危険が予想される避難対象地区内の地震防災応急計画及び対策計画の作成義務者が実施すべき防災対策は次のとおりである。 (ア) 従業員及び施設利用者等に対する津波避難方法等の周知 (イ) 津波警報等の収集及び伝達 (ウ) 地震発生時における津波からの円滑な避難を確保するための安全措置

(6) 公共的団体及び防災上重要な施設の管理者

公共的団体及び防災上重要な施設の管理者は、平素から災害予防体制の整備を図り、災害時には応急措置を実施するとともに、市の行う防災活動に協力するものとする。

団 体 名	処理すべき事務又は業務
焼津市消防団	ア 災害予防、警戒及び災害応急活動 イ 災害時における住民の避難誘導及び救助救出活動 ウ 予警報の伝達 エ その他災害現場の応急作業
一般社団法人焼津市医師会、 一般社団法人志太医師会、 一般社団法人焼津市薬剤師会、 一般社団法人藤枝薬剤師会	ア 医療救護施設等における医療救護活動の実施 イ 検案（一般社団法人焼津市薬剤師会、一般社団法人藤枝薬剤師会を除く。）
一般社団法人焼津市歯科医師会	ア 検視時の協力 イ 医療救護施設等における医療救護活動の実施 ウ 避難所での巡回歯科診療、口腔ケアの実施
焼津商工会議所、 大井川商工会	ア 市が行う商工業関係の被害調査についての協力 イ 災害時にける物価安定についての協力 ウ 救急用物資、復旧資材等の確保についての協力
大井川農業協同組合	ア 農産物の被害調査についての協力 イ 災害時における農産物の確保 ウ 農産物等の災害応急対策についての指導
焼津漁業協同組合、 小川漁業協同組合、 大井川港漁業協同組合、 焼津船主協会	ア 漁船の避難対策 イ 船員の救護及び保護 ウ 漁船、船員等の避難状況等に関する情報の収集報告
焼津市建設工業会、 大井川建設業協会	災害時における応急復旧対策についての協力
焼津市自主防災組織	ア 市の実施する被害調査、応急対策についての協力 イ 住民に対する情報の連絡、収受 ウ 避難誘導、避難場所の運営に関する協力 エ り災者に対する応急救護、炊き出し、緊急物資等の配分に関する協力
静岡県漁業無線協同組合	ア 漁業無線による南海トラフ地震臨時情報等の伝達 イ 漁船の避難状況等に関する情報の収集、報告
防災上重要な施設の 管理者	ア 所管に係る施設についての防火管理 イ 防災に関する保安措置、応急措置の実施 ウ 当該施設に係る災害復旧

第2章 平時対策

地震発生時及び南海トラフ地震臨時情報発表時に、的確な防災対策が講じられるようにするため、平時に行う防災思想の普及、防災訓練、自主防災活動等について定める。

第1節 防災思想の普及

（共通対策編 第2章 災害予防計画 第4節「防災知識の普及計画」に準ずる。）

第2節 自主防災活動

（共通対策編 第2章 災害予防計画 第8節「自主防災組織の育成」及び第9節「事業所等の自主的な防災活動」に準ずる。）

第3節 地震防災訓練の実施

南海トラフ地震臨時情報発表時及び地震災害発生時に的確な防災対策を実施するための訓練について定める。市民は、自主防災組織及び事業所等の防災組織の構成員として市や県の実施する訓練に積極的に参加し、的確な防災対応を体得するものとする。

なお、要配慮者に十分配慮した訓練を実施し、要配慮者の支援体制の整備に努めるとともに、被災時の男女のニーズの違い等男女双方の視点に十分配慮するよう努めるものとする。

1 焼津市

市は、総合防災訓練、地域防災訓練及び災害時初動訓練を実施する。そのほか、国、県、他の市町及び防災関係機関と共同して、又は単独で、県に準ずる各種の防災訓練を実施する。

訓練に当たっては、要配慮者の避難誘導、救出・救助、自主防災組織と事業所等との連携による防災活動など、地域の特性に配慮して実施するものとする。

訓練終了後は、評価を実施し、課題・問題点等を明確にし、必要に応じ体制等の改善を行うものとする。

区 分	内 容
総合防災訓練	(1) 職員の動員 (2) 南海トラフ地震臨時情報、地震情報、その他防災上必要な情報の収集及び伝達 (3) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害発生時の広報 (4) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害発生時の避難誘導、避難の指示及び警戒区域の設定 (5) 緊急地震速報を受けたときの適切な対応行動 (6) 食料、飲料水、医療その他の救援活動 (7) 消防、水防活動 (8) 救出・救助 (9) 避難生活 (10) 道路啓開 (11) 応急復旧

区 分	内 容
地域防災訓練	(1) 12月第1日曜日を「地域防災の日」と定め、自主防災組織を中心とした地域の実情にあった防災訓練を実施する。 (2) この訓練は、突然発生地震を想定するものとし、市が作成した訓練内容に関する指針を参考に、要配慮者等に配慮した訓練を実施する。
災害時初動訓練	(1) 津波対策推進旬間に県が実施する津波避難訓練にあわせ、災害発生直後の活動を訓練する災害時初動訓練を実施する。 (2) 沿岸部では、県が作成した訓練内容に関する指針を参考に、避難行動を訓練するとともに、要配慮者にも配慮した訓練を実施する。
個別防災訓練	総合防災訓練とは別に個別防災訓練を行う。その主要な事項は、次のとおりである。 (1) 情報の収集、伝達訓練 南海トラフ地震臨時情報発表時には、特に情報の正確かつ迅速な収集及び伝達が防災対策の基本となることに鑑み、防災関係機関、報道機関と協力して実施する。 (2) 職員の動員訓練 適宜交通機関又は交通用具の使用を制限又は禁止し、勤務時間外に実施する。 (3) 防災業務の訓練 各部、各課等は、それぞれ所掌する防災業務について単独又は関係機関と共同して各種の防災訓練を実施する。
防災訓練に対する協力等	(1) 市は、県及び防災関係機関に対し、市が実施する訓練に参加するよう要請する。 (2) 市は、県又は防災関係機関が実施する訓練に可能な限り参加、協力する。
防災訓練の実施回数	総合防災訓練 年1回以上 地域防災訓練 年1回以上 災害時初動訓練 年1回以上 個別防災訓練 年1回以上
防災訓練の広報	訓練に市民等の積極的参加を求めるとともに、訓練に伴う混乱を防止するため必要な広報を行う。

2 防災関係機関

防災関係機関は、それぞれ定めた地震防災強化計画又は地震防災応急計画並びに南海トラフ地震防災対策推進計画、又は対策計画に基づいて訓練を行う。

その主要な機関及び重点事項は次のとおりである。

機 関 名 等	重 点 事 項
国土交通省中部地方整備局 (静岡河川事務所、静岡国道事務所、清水港湾事務所)	(1) 組織動員 (2) 情報連絡 (3) 所管施設等の点検、状況把握、応急対策 (4) 関係機関との情報共有
海上保安庁第三管区海上保安本部(清水海上保安部)	救助活動及び船舶の安全措置の指示等
経済産業省関東経済産業局	(1) 組織動員 (2) 情報連絡 (3) 生活必需品等の防災関係物資の供給の確保など地震防災応急対策 (4) 生活必需品の調達、あっせんなど災害応急対策
東海旅客鉄道株式会社、 日本貨物鉄道株式会社	(1) 南海トラフ地震臨時情報の伝達 (2) 列車の運転規制方及び運転再開方 (3) 旅客の避難誘導
NTT西日本株式会社 (静岡支店)、 株式会社NTTドコモ東海支 社(静岡支店)	(1) 南海トラフ地震臨時情報の伝達 (2) 南海トラフ地震臨時情報発表を想定した通信ふくそう対策等の地震防災応急対策 (3) 地震発生を想定した通信設備の緊急復旧等の地震災害応急対策

機 関 名 等	重 点 事 項
日本赤十字社静岡県支部	(1) 医療救護実施のための救護資機材の点検確認、救護所の編成及び訓練等の実施 (2) 血液製剤の確保及び供給 (3) 赤十字奉仕団、自主防災組織などに対する救急法の講習等の指導
日本放送協会（静岡放送局）	(1) 組織動員 (2) 情報連絡 (3) 放送送出 (4) 視聴者対応等
中日本高速道路株式会社 （東京支社）	(1) 南海トラフ地震臨時情報等の伝達 (2) 地震発生に備えた資機材、人員等の配備手配 (3) 交通対策 (4) 緊急点検
中部電力株式会社、 中部電力パワーグリッド株式会社（藤枝営業所）	(1) 情報連絡、災害復旧資機材の整備点検及び復旧 (2) 地震防災応急対策 (3) 災害復旧
東海ガス株式会社	(1) ガス供給停止等非常態勢の確立 (2) 防災に関する整備、資材等の確保、点検 (3) 安全について需要家等に対する広報
静岡放送株式会社、 株式会社テレビ静岡、 株式会社静岡朝日テレビ、 株式会社静岡第一テレビ、 静岡エフエム放送株式会社	(1) 組織動員 (2) 情報連絡 (3) 視聴者対応等
地震防災応急計画及び対策 計画の作成義務者	(1) 情報の収集及び伝達 (2) 避難誘導 (3) 火災予防措置及び施設、設備等の点検 (4) その他施設、事業の特性に応じた事項

第4節 地震災害予防対策の推進

地震による火災や建築物等の倒壊等による災害の発生を予防し又は軽減するための対策、被災者を救出するための対策、被災後の生活を確保するための措置等平時における予防対策を定める。

市は、県が策定した「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013」に基づき、「焼津市地震・津波対策アクションプログラム2014」を策定し、ハード・ソフトの両面から地震・津波対策を推進してきた。引き続き、令和5年度から令和14年度までの10年間の行動計画として、県が新たに策定した「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023」に基づき、前計画の後継となる「焼津市地震・津波対策アクションプログラム2023」を策定し、これまでの10年間の進捗を踏まえ、可能な限り被害の最小化を図るための対策に加え、被災後の市民生活の健全化にも重点を置き、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を推進していく。また、その際、市民の参画を進め、国、県と連携し、効率的・効果的な地震対策を進める。地震災害対策の検討に当たっては、科学的知見を踏まえ、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を想定し、その想定結果に基づき対策を推進するものとする。

業務継続計画の策定などにより、業務継続性を図るものとする。また、実効性のある業務継続体制を確保するため、訓練等を通じた経験の蓄積や状況の変化に応じた体制の見直し、計画の改訂などを行う。

災害時に、地域において災害対策の拠点となる施設の整備に努めるものとする。

1 緊急消防援助隊の受援体制

志太消防本部は、大規模災害を想定した実践的な訓練等を通じて、緊急消防援助隊の受援体制の整備に努めるものとする。

2 消防用施設の整備

市及び県は、所掌する業務に応じ、災害時に地域における消防活動の拠点となる以下の施設の整備に努めるものとする。

- 消防団による避難誘導のための拠点施設
- 緊急消防援助隊による救助活動のための拠点施設
- 消防本部又は消防署若しくはその出張所の庁舎のうち耐震改修が必要であるもの又は津波対策の観点から移転が必要であるもの
- 消防の用に供する自家発電設備又は自家給油設備
- 地震災害時における救助活動等に係る機能強化を図るための消防用車両又は資機材
- 消防救急デジタル無線又は高機能指令センター
- その他、地震災害等に対応するために特に必要と認められる消防用施設

3 火災の予防対策

志太消防本部は、津波に対する安全性の確保、防災訓練の積極的実施等を促進するものとし、危険物関係施設、工場、事業所等の管理者及び市民に理解と協力を求め、地震による火災を未然に防止するために次の取組を進める。

区 分	内 容
危険物施設、少量危険物取扱所	別に作成した「危険物製造所等の地震対策指針」等に基づき、必要な安全対策を関係事業所に周知し、その実施を促進する。
高圧ガス（ＬＰガスを含む。）施設	高圧ガス貯槽に設けられている緊急遮断弁に感震装置を付設するよう指導するとともに、施設の耐震診断と補強の指針を作成し安全対策を促進する。 特に、可燃性ガス、毒性ガスのボンベについては、転倒防止措置の実施を徹底する。
ＬＰガス消費設備	ＬＰガス容器については、鎖等により転倒防止措置を徹底するとともに、ガス放出防止器等の取付を促進する。
都市ガスの安全対策	雑居ビル、建築物の地階及び地下等における点検の強化、ガス漏れ警報設備の設置、通報体制の整備、ガス遮断装置の設置等を指導する。
研究室、実験室等薬品類を保有する施設	次のような混合発火が生じないように予防措置を講ずることを指導する。 （１）可燃物と酸化剤の接触による発火 （２）黄りん、金属ナトリウム等の保護液の流出による発火 （３）金属粉、カーバイト、その他浸水による発火
不特定多数の者が出入りする施設	大型小売店舗、旅館、雑居ビル等、不特定多数の者が出入りする施設における出火防止対策について特に指導を強化する。
石油ストーブ	対震自動遮断装置付き石油ストーブの使用の徹底を図る。
家庭用小型燃料タンク	燃料タンクは、転倒防止措置を施すよう指導する。
その他の出火危険物	アルコール類、ベンジン、塗料用溶剤等の貯蔵、保管について安全な措置を講ずるよう指導するものとする。

防災関連設備等	住民等に対して消火器、ガスのマイコンメーター、感震ブレーカー等の普及に努めるものとする。
---------	--

4 建築物等の耐震対策

建築物等の耐震性を評価する方法及び耐震性が不十分と評価された建築物について補強工法、これから建築する建築物の耐震設計法、並びに家具の耐震対策等を示し、市民を始め関係行政機関、並びに建築士会等建築関係団体に対し啓発指導する。

区 分	内 容						
建築主等による耐震性の向上	建築主等は、次の事項を実施し、耐震性の向上を図る。 (1) 軟弱地盤対策及び瓦等の落下物対策を講ずる。 (2) 所有する建築物等の適正な維持管理に努め、必要に応じて耐震診断及び耐震補強を実施する。						
市による耐震性の向上	市は、次の事項を実施し、耐震性の向上を図る。 (1) 市民向けの耐震相談窓口を設置し、耐震診断や耐震補強に対する必要性を啓発する。 (2) 自主防災組織活動等と連携して耐震補強等の説明会等を実施する。 (3) 建築主及び建築設計者等への下記についての啓発 <table border="1"> <tr> <td>新 築 建築物</td><td>「静岡県建築基準条例」、「静岡県建築構造設計指針」及び「建築設備耐震設計・施工指針」等による設計及び工事監理等の徹底</td></tr> <tr> <td>既 存 建築物</td><td>「木造住宅の耐震診断と補強方法」、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準、改修設計指針」及び「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針」等による耐震診断及び耐震補強</td></tr> <tr> <td>建 築 設備</td><td>「建築設備・昇降機耐震診断基準及び改修指針」等による既存の電気設備、空調設備、給排水設備等耐震診断及び耐震補強</td></tr> </table> (4) 耐震診断及び耐震補強に対する補助制度の活用促進 プロジェクト「TOUKAI-O」総合支援事業により、昭和 56 年 5 月以前に建築した木造住宅、店舗・事務所ビル等の建築物の耐震化を図る。また、危険なブロック塀等の撤去を促す。	新 築 建築物	「静岡県建築基準条例」、「静岡県建築構造設計指針」及び「建築設備耐震設計・施工指針」等による設計及び工事監理等の徹底	既 存 建築物	「木造住宅の耐震診断と補強方法」、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準、改修設計指針」及び「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針」等による耐震診断及び耐震補強	建 築 設備	「建築設備・昇降機耐震診断基準及び改修指針」等による既存の電気設備、空調設備、給排水設備等耐震診断及び耐震補強
新 築 建築物	「静岡県建築基準条例」、「静岡県建築構造設計指針」及び「建築設備耐震設計・施工指針」等による設計及び工事監理等の徹底						
既 存 建築物	「木造住宅の耐震診断と補強方法」、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準、改修設計指針」及び「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針」等による耐震診断及び耐震補強						
建 築 設備	「建築設備・昇降機耐震診断基準及び改修指針」等による既存の電気設備、空調設備、給排水設備等耐震診断及び耐震補強						
公共建築物の耐震化	市は、所有する公共建築物について、耐震診断及び耐震補強の実施結果に基づいて耐震性能を把握するとともに、その公表に努める。また、防災拠点となる公共施設等の耐震化について、数値目標を設定するなど、計画的かつ効果的な実施に努めるものとする。						
コンピュータの安全対策	市は、自ら保有するコンピュータシステムについて、「行政情報システムの安全対策に関するガイドライン」などの各種安全対策基準に基づき、引き続き所要の対策を推進するとともに、コンピュータを扱う企業に対し、安全対策の実施についての啓発を行う。						
家具等の転倒防止	市は、タンス、食器棚、ピアノ、テレビ、冷蔵庫等の転倒による事故の防止のため、家具等の転倒防止について、市民に対する啓発指導に努める。また、事業所などのスチール製の書棚、ロッカー等について安全対策の実施を指導する。						
ブロック塀等の倒壊防止	(1) 市有施設においては、原則として新たにブロック塀を使用しない。または、60 cm 以下の高さとする。 (2) 市有施設の既存のブロック塀等については、建築基準法第 12 条に基づく定期点検等の結果により、必要に応じて改善を行う。 (3) 市は民間のブロック塀等について、自治会や自主防災組織の協力を得ながら、避難路などの道路沿いにある危険なブロック塀等を把握するための点検を実施するなど安全確保に向けた取組を進める。						
ガラスの飛散防止	市は、多数の人が通行する市街地の道路等に面する建物のガラス、家庭内のガラス戸棚等の安全対策の実施を指導する。						
耐震化以外の命を守る対策	市は、耐震化による対策が困難な住宅については、防災ベッドや耐震シェルターの設置などの、耐震化以外の命を守る対策の実施を周知する。						

供給ラインの耐震化	(1) ライフライン事業者及び施設管理者は、ライフライン関連施設の耐震性の確保を図るとともに、系統多重化、非常用電源の確保、拠点の分散等による代替性の確保を進める。 (2) 災害拠点病院等の人命に関わる重要施設への供給ラインの重点的な耐震化を進める。 (3) ライフライン収容施設としての共同溝・電線共同溝の整備を図る。
-----------	---

5 被災建築物等に対する安全対策

区 分	内 容				
応 急 危 険 度 判 定	市は、「静岡県地震対策推進条例」に基づき応急危険度判定を円滑に実施するための体制を整備するとともに、市民に対する啓発を行う。				
災 害 危 険 区 域 の 指 定	市長又は知事は、地震、津波等により著しい危険が生ずるおそれのある区域を、必要に応じて、建築基準法第39条に基づき災害危険区域に指定する。 <table border="1"> <tr> <td>指定の目的</td><td>災害から住民の生命を守るために、危険の著しい区域を指定して、住居の用に供する建築物の建築の禁止、その他建築物の建築に関する制限を定める。</td></tr> <tr> <td>指定の方法</td><td>条例により区域を指定し、周知する。</td></tr> </table>	指定の目的	災害から住民の生命を守るために、危険の著しい区域を指定して、住居の用に供する建築物の建築の禁止、その他建築物の建築に関する制限を定める。	指定の方法	条例により区域を指定し、周知する。
指定の目的	災害から住民の生命を守るために、危険の著しい区域を指定して、住居の用に供する建築物の建築の禁止、その他建築物の建築に関する制限を定める。				
指定の方法	条例により区域を指定し、周知する。				

6 橋りょうの改良

橋りょうの点検を実施し、地震による地震動に対しての耐震性能を確保するため、橋りょうの補強を推進する。

7 地盤災害の予防対策

市は、地盤や地形の特性から生ずる災害の発生を事前に防止するため、市民に対して災害の防止について啓発及び指導を行い、必要な対策を講ずる。

区 分	内 容
山・がけ崩れ防止対策の推進	山・がけ崩れのおそれのある箇所について、地域住民への土砂災害ハザードマップの配布やインターネットによる土砂災害警戒区域等の公表等により、当該地域の危険性を広報する。
軟弱地盤対策の推進	軟弱地盤が広く分布する地域においては、地震により大きな被害を受けやすいこと等を周知させるとともに、必要な対策を講ずるよう指導する。
液状化対策の推進	液状化被害の危険性を示した液状化ハザードマップを作成・公表するとともに、地盤の液状化が予想される地域では、地震により大きな被害を受けやすいこと等、液状化に関する知識の普及と液状化対策の必要性の周知に努める。
大規模盛土造成地対策の推進	地震時に滑動崩落の恐れがある大規模盛土造成地については、宅地の安全性の把握に努めるよう周知する。

8 落下倒壊危険物対策

地震の発生により道路上及び道路周辺の構築物等が落下、倒壊することによる被害の予防、特に避難路、緊急輸送路を確保するため、当該構築物等の設置者、所有者、管理者等は、点検、補修、補強を行うものとする。また、市は当該構築物等の設置者等に対し、必要な措置等を実施するよう指導する。

物 件 名	措 置 等
横断歩道橋、 跨線橋	耐震診断等を行い、落橋防止を図り、道路の安全確保に努める。
道路標識、 交通信号機等	施設の点検等を行い、速やかに改善し、危険の防止に努める。
街路樹	枯死樹木の除去等適切な管理に努める。
電柱・街路灯	施設の点検等を行い、倒壊等の防止に努める。
アーケード、 バス停上屋等	新設については、安全性を厳密に審査する。 既存のものは、各施設管理者による点検、補強等を進める。 設置者又は管理者は、これらの対策・措置に努める。
屋外広告物	設置者若しくは管理者は、屋外広告物を適切に管理し、良好な状態を保持する。
ブロック塀等	既存のブロック塀等の危険度を目視等で点検し、危険なものについては、改良等をする。 新設するものについては、静岡県発行「ブロック塀の点検と改善」を参考に安全なブロック塀を設置する。 焼津市生け垣づくり補助金交付要綱（資料編（地震対策）２－４－８）
天井	脱却防止等の落下物対策を図る。
ガラス窓等	破損、落下により通行人に危害を及ぼさないよう補強する。
自動販売機	転倒により道路の通行及び安全上支障のないよう措置する。
樹木、煙突	倒壊等のおそれがあるもの、不要なものは除去に努める。

９ 危険予想地域における災害の予防

（１）避難計画の策定

市は、下記の事項及び県が作成する「大規模地震対策『避難計画策定指針』」に留意して、避難計画の策定に努めるものとする。

区 分	内 容
要避難地区の指定	市長は、第４次地震被害想定の結果等から判断して、地震防災強化計画において明らかにした、山・がけ崩れ及び延焼火災の発生の危険が予想され、避難対策を推進する必要がある地域を要避難地区として指定する。 （資料編（地震対策）２－４－９（１）①）
避難対象地区の指定	市長は、避難の指示の対象とする地域として、要避難地区のうち、山・がけ崩れの発生の危険が予想される地域を避難対象地区として指定する。 （資料編（地震対策）２－４－９（１）②）
津波避難場所の指定	市長は、要避難地区の状況に応じ、住民の避難のための津波避難場所、避難路等の指定を行う。 ア 避難対象地区の住民の避難のため、津波避難場所を指定する。 イ 突発地震発生時の緊急避難の用に供する避難ビル等の施設を指定する。 （資料編（津波対策）２－４－１（１））
避難所の指定	市長は、要避難地区の状況に応じ、災害によって居住場所を確保できなくなった者の一時的な生活支援のため、避難所を指定する。

（２）平時に実施する災害予防措置

区 分	内 容
避難誘導 体制整備	市長は、要避難地区の住民に対し、危害の様相、情報伝達手段、情報伝達内容、津波避難場所、避難路、避難施設等に関する留意すべき事項を周知するとともに、要配慮者を適切に避難誘導するため、地域住民、自主防災組織等の協力を得ながら、平時からこれらの者に係る避難誘導体制の整備に努めるものとする。

区 分	内 容
山・がけ崩れ危険予想地域	要避難地区については次の予防措置を講ずる。
	山・がけ崩れ危険予想地域図 市は県と協力して、過去の山・がけ崩れ災害事例及び現況調査等を参考に、山・がけ崩れ危険予想地域図を作成し、住民に適切な方法で広報するとともに、危険箇所について巡回監視に努める。
	住民への危険性の周知 市は、地域の実情に即した方法により当該地域を避難対象地区として指定するとともに、当該地域の住民に対しその危険性の周知に努める。
	地震発生時 市は、当該地域において立ってられないほどの強い地震が起こった場合には、即刻危険箇所から離れ、避難施設や津波避難場所（耐震性を有する屋内施設を含む）へ避難する等地域の実情に応じ住民のとりべき行動について周知徹底に努める。

10 被災者の救出活動対策

建物の倒壊による被災者等に対する救出活動が迅速的確に行えるよう、平時から次の措置を行う。

実施主体	内 容
市	(1) 自主防災組織、事業所等及び市民に対する地域における相互扶助による救出活動についての意識啓発 (2) 自主防災組織の救出活動用資機材の配備の推進 (3) 救出技術の教育、救出活動の指導 (4) 大規模・特殊災害に対応するための高度な技術・資機材を有する救助隊の整備
自主防災組織、事業所等	(1) 救出技術、救出活動の習得 (2) 救出活動用資機材の点検及び訓練の実施 (3) 地域における自主防災組織と事業所等との連携体制の確立と訓練の実施

11 要配慮者の支援

要配慮者に対し、その障害の内容、程度、能力等に応じ、迅速で的確な支援を実施するための体制を整備することとし、その内容は、共通対策編 第2章 第12節 「要配慮者支援計画」に準ずる。

12 生活の確保

南海トラフ地震臨時情報発表期間が長期化した場合及び地震災害が発生した場合の生活を確保するため、平時から次の措置を行う。

(1) 食料及び生活必需品の確保

実施主体	内 容
市	ア 非常持出しができない被災住民や旅行者等に対する食料の最低限の備蓄 イ 市内における緊急物資流通在庫調査の実施 ウ 流通在庫方式による確保が困難な物資の一部備蓄 エ 市内における緊急物資調達及び配分計画の策定 オ 緊急物資の集積所の選定及び運営管理等の検討 カ 市民が実施する緊急物資確保対策の指導 キ 給食計画の策定 ク 非常用備蓄食料、飲料水、毛布及び非常排便袋の分散配置状況は、資料編（地震対策）2-4-12(1)のとおり。

実施主体	内 容
市民	ア 7日間程度の最低生活を確保できる緊急物資の備蓄 イ 避難が必要な場合に備え、最低限必要な食料、飲料水、日用品等の非常持出品の準備 ウ 自主防災組織等を通じての助け合い運動の推進 エ 緊急物資の共同備蓄の推進

(2) 飲料水の確保

実施主体	内 容
市	ア 水道の基幹施設の耐震化と復旧資材の備蓄を行う。 イ 日本水道協会等からの応援給水、大型貯水槽を持つ民間企業の協力を含む応急給水体制を整備する。 ウ 給水タンク、給水車等応急給水及び応急復旧に必要な資機材を整備する。 エ 工事業者等との協力体制を確立する。
市民	ア 家庭における貯水 (ア) 貯水すべき水量は、1人1日3リットルを基準とし、世帯人数の7日分を目標とする。 (イ) 貯水する水は、水道水等衛生的な水を用いる。 (ウ) 貯水に用いる容器は、衛生的で、安全性が高く、地震動により水もれ、破損しないものとする。 イ 自主防災組織を中心とする飲料水の確保 (ア) 応急給水を円滑に実施するために、給水班の編成を準備しておく。 (イ) 災害発生時に利用予定の井戸、泉、河川、貯水槽の水は水質検査を実施して、市の指導のもとに利用方法をあらかじめ検討しておく。 (ウ) ろ水器、ポンプ、水槽、ポリタンク、次亜塩素酸ナトリウム、燃料等応急給水に必要とされる資機材等を整備する。

(3) 医療救護

実施主体	内 容
市	ア 直接地域住民の生命、健康を守るため、焼津市医療救護計画（資料編（地震対策）2－4－12（3））を策定し、大規模災害時に地域住民の協力の下、医療救護活動を実施する。 イ 医療救護用の資機材の備蓄及び調達の計画を作成する。 ウ 救護班（DMA T等医療チーム）の要請、重症患者の広域医療搬送等の対応策を作成する。 エ 家庭救護の普及を図る。
自主防災組織	ア 応急救護活動を行う救出救護班を編成する。 イ 医療関係団体等の協力を得て、応急手当等救護に関する講習会を開催する。 ウ 担架、救急医療セット等の応急救護資機材等を整備する。
市民	ア 軽度の傷病については、自分で手当てを行える程度の医薬品を準備する。 イ 医療救護を受けるまでの応急措置及び救急看護等の技術を習得する。 ウ 献血者登録に協力する。

(4) 清掃、環境保全、防疫及び保健衛生活動

実施主体	内 容
市	ア 被害想定に基づき、災害廃棄物処理計画を定める。 イ 防疫用薬剤の備蓄及び消毒用機器を整備する。 ウ 市民が実施するし尿及びごみ処理などの防疫計画の指導 エ 防疫活動に必要な薬剤の調達計画を作成する。 オ 被災動物の保護等、救護活動の計画を作成する。 カ 市民及び自主防災組織に対し廃棄物の応急処理方法及び廃棄物を処理する上での役割分担を明示し、協力を求める。 キ 災害時の環境保全に関すること。 ク 避難所等における健康支援活動に係る体制整備を図る。
市民	ア し尿・ごみ等の自家処理に必要な資材器材の準備 イ ペット動物の飼育に必要な餌及び水を確保し、逃亡を防ぐ処置を講じておく。

(5) 避難所の設備及び資機材の配備又は準備

市は、避難所に必要な次の設備及び資機材をあらかじめ配備し、又は必要なとき直ちに配備できるように準備しておくものとする。

なお、要配慮者にも配慮した配備又は準備に努めるものとする。

必要な設備及び資機材	
ア 通信機材	キ 仮設の小屋又はテント
イ 放送設備	ク 仮設トイレ、ポータブルトイレ、携帯トイレ
ウ 照明設備（非常用発電機を含む。）	ケ 防疫用資機材
エ 炊き出しに必要な機材及び燃料	コ 清掃用資機材
オ 給水用機材	サ 工具類
カ 物資の集積所	

(6) 救援・救護のための標示

区 分	内 容
公共建築物・病院の屋上への番号標示	市は、地震発生後のヘリコプター等による空からの救援・救護活動を迅速かつ的確に行うため小学校等の公共建物及び指定した病院の屋上に番号を標示する。
孤立予想地域	市は、孤立するおそれがある地域について地名標示シート、無線施設等の整備を実施、促進する。

(7) 応急住宅

区 分	内 容
供給体制の整備	市は、災害に対する安全性に配慮しつつ、応急建設住宅の用地に関し、建設可能な用地を把握するなど、あらかじめ供給体制を整備しておくものとする。
体制の整備	市は、災害時における被災者用の住居として利用可能な公営住宅や民間賃貸住宅の把握に努め、災害時に迅速に対応できるよう、あらかじめ体制を整備するものとする。

1 3 緊急輸送活動体制の準備

道路管理者、港湾管理者、漁港管理者は、発災後の道路、港湾、漁港の障害物除去（路面変状の補修や迂回路の整備を含む）、応急復旧等に必要な人員、資機材等の確保について、道路管理者は道路管理者等で構成する協議会で策定した道路啓開等の計画も踏まえて、建設業者等との協定の締結に努めるものとする。障害物除去、応急復旧等を迅速に行うため、あらかじめ応急復旧計画を立案するものとし、必要に応じてその見直しを行うものとする。また、災害時に緊急輸送ルートや避難路の通行を確保するため、安全性・信頼性の高い道路整備のほか、障害となる可能性がある沿道建築物等の耐震化を促進する。

1 4 災害廃棄物の処理体制の整備

(1) 市は、災害廃棄物処理計画を定める。

(2) 市は、災害時に発生するがれき・残骸物の処理体制の整備及び仮集積場の確保に努める。

1 5 燃料の確保

（市及び重要施設の管理者等の行う措置は共通対策編第2章 第15節「重要施設・ライフラインの機能確保等に関する計画」に準ずる。）

16 公共土木施設等の応急復旧

市は、それぞれの所管する施設、設備の被害状況の把握及び応急復旧を行うために、あらかじめ体制・資機材の整備に努める。特に、人命に関わる重要施設に対しては、早期に復旧できるよう体制を強化するものとする。

17 情報システムの整備

災害時において情報を迅速かつ的確に把握し、的確な防災対策を実施できるよう情報システムの高度化及び多重化を図る。また、関係機関の利用の促進が円滑に実施されるよう情報のデータベース化、オンライン化、ネットワーク化について、その促進に努めるものとする。

18 緊急輸送用車両等の整備

災害時において緊急輸送及び情報収集を迅速に行うため、車両及び航空機の整備を図る。

19 文化財等の耐震対策

文化財建築物、文化財所蔵施設及び彫刻、石碑その他これらに類する文化的な物件（以下「文化財等」という。）の所有者等は、その耐震性の向上並びに地震による人的被害を防止するための安全性の確保に努めるために必要な対策を講ずるものとする。

必 要 な 対 策
(1) 文化財等の耐震措置の実施 (2) 安全な公開方法、避難方法の設定 (3) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び地震発生時における連絡体制の事前整備 (4) 地震発生後の文化財等の被害状況調査及び関係機関への通報体制の整備 (5) 文化財等の救出、復旧のための総合支援体制の整備 (6) 地震発生後の火災発生防止のための防災設備の整備

20 津波避難対策緊急事業計画の基本となるべき事項

市は、南海トラフ地震に伴い発生する津波から避難するため緊急に実施すべき事業に関する計画（津波避難対策緊急事業計画）を作成することができる。なお、市はその計画の基本となるべき事項として、津波避難対策の推進に関する基本的な方針並びに津波避難対策の目標およびその達成期間について、南海トラフ地震防災対策推進計画に定めておくものとする。

21 地震防災応急計画の作成

大規模地震対策特別措置法第7条で地震防災応急計画の作成を義務づけられている施設又は事務所は、当該計画を作成し、所管官庁に届け出るとともに、その写しを市長に送付する。

第3章 地震防災施設緊急整備計画

この計画は「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（昭和55年法律第63号）」に基づく地震対策緊急整備事業、「地震防災対策特別措置法（平成7年法律第111号）」に基づく地震防災緊急事業及びその他の地震対策事業により、地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備の方針を示す。

第1節 地震防災施設整備方針

南海トラフ地震等による災害から市域並びに市民等の生命、身体及び財産を保護するため、次の事項を目的に、地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備を行い、地震に強いまちづくりを進める。

- 多数の人的被害が発生するおそれのある地域における被害要因をあらかじめ除去又は軽減すること。
- 地震発生後の被災地域住民等の生活を確保すること。
- 地震発生後の混乱を緩和し、救援活動を中心とする災害応急対策を確保すること。

各施設等の整備にあたっての基本的な考え方は次のとおりであるが、各施設等の整備について相互の整合性を図り総合的に推進するものとする。

1 防災業務施設の整備

区 分	内 容
消防用施設の整備及び消火用水対策	地震発生時に予想される火災から、人命、財産を守るため、多様な災害にも対応する消防ポンプ自動車、防火水槽、耐震性貯水槽、可搬式小型動力ポンプ等の消防用施設の整備を図る。また、河川、農業用排水施設等（大井川用水）の流水を消火活動に活用するなど多角的な水源の確保に必要な施設の整備を図る。
通信施設及び情報処理体制の整備	地震発生時及び南海トラフ地震臨時情報発表時に予想される電話のふくそう、途絶に対応する情報体制の整備を図る。このため、防災関係機関が災害情報等を迅速かつ的確に把握し、防災対策を円滑に実施するために必要な無線通信施設を整備するとともに、地域衛星通信ネットワークと市防災行政無線を接続すること等により、災害情報等を瞬時に伝達するシステムを構築するよう努める。また、情報を集約、分析するための情報システムの高度化を図る。さらに、住民等の混乱を防止し、生活を支援するための情報提供システムの整備を図る。

2 地域の防災構造化

区 分	内 容
津波避難場所の整備	避難困難地区の解消、避難者の受入能力の増強等、避難の阻害要因を解消するため、津波避難場所の整備を図る。
避難路の整備	避難路について、所要避難時間の短縮、避難有効幅員の拡大、避難路の安全性の向上等避難の円滑化を図る。
消防活動用道路の整備	人口密集地等で人家が連担し、それに比して道路が十分整備されていないため、十分な消防活動を行うことができないおそれがある区域においては、道路の拡幅、直線化等により消防活動の円滑化を図る。
電線共同溝等の整備	地震発生時における電柱等の倒壊による交通の遮断を回避し、電気供給施設の耐震性を高めるため、電線類の地中化を図る。
密集住宅市街地地震防災対策	建物の倒壊や延焼火災の危険性が高い密集住宅市街地内の老朽住宅の解消のため、市街地の面的な整備、建築物の耐震・不燃化等により地震に強い都市構造の形成を図る。

3 緊急輸送路の整備

区 分	内 容
道路の整備	緊急輸送ルートの確保を早期に図るため、安全性、信頼性の高い道路網の整備を図るものとする。 地震発生時に予想される陸路の寸断に備え、緊急輸送活動のためにルートの多重化や代替性を考慮し、海路、空路を含めた緊急輸送ネットワークを構築する。 県が指定した第1次緊急輸送路（高規格幹線道路、一般国道等広域的な重要道路及びアクセス道路で、輸送の骨格をなす道路）、第2次緊急輸送路（第1次緊急輸送路と重要な指定拠点とを連絡する道路）及び第3次緊急輸送路（第1次又は第2次緊急輸送路と指定拠点とを連絡する道路）並びに、焼津市が指定する緊急輸送路の道路を、道路管理者は、人員、物資の輸送に支障のないように整備する。（資料編（地震対策）4-5-1）
港湾・漁港施設の整備	人員・緊急物資・復旧用資機材等の輸送の機能を確保するために、県は防災拠点港湾、防災港湾（焼津漁港・大井川港）を指定し、施設管理者は、耐震強化岸壁等の整備を図る。
ヘリポートの整備	緊急輸送、救援活動等において空路を有効に利用するためにヘリポート及びその付帯設備の整備を図る。

4 防災上重要な建物・施設の整備

区 分	内 容
医療救護施設の整備	在院患者の安全と医療救護機能を維持するために必要な病院施設の耐震化の促進を図る。
社会福祉施設の整備	社会福祉施設の入所者等を地震災害から守るため施設の耐震化を図る。
公立幼稚園・学校等施設の整備	園児、児童、生徒の生命の安全を確保するとともに、円滑な避難等の災害応急対策を実施するため、学校等の施設の耐震化を図る。
不特定多数が利用する公的建物の整備	教養文化施設、集会施設、スポーツレクリエーション施設等不特定多数の者が利用する公共施設の耐震化を図る。
庁舎、消防施設等の整備	市庁舎、消防施設、緊急物資集積所に指定されている施設等災害対策の拠点となる施設の耐震化を図る。
地域防災拠点施設	地域の防災活動を円滑に実施するため、また平時には防災に関する広報・訓練を実施するための拠点となる施設の整備を図る。また、地震災害時に道路施設復旧等の災害応急対策及び応急復旧工事の拠点として、自動車駐車場、交通広場等オープンスペースの整備を図る。市の拠点施設は、資料編（共通対策）3-7-4③のとおり。

5 災害防止事業

区 分	内 容
山・がけ崩れ、地すべり等の防止	地震による災害の発生を防止するため、土砂災害警戒区域（土石流、地すべり、急傾斜地の崩壊）及び保安林又は保安施設地区について、防災施設の整備を図る。
津波による災害の防止	津波により著しい被害が生じるおそれのある地域における住民の生命・身体・財産を保護し、避難の円滑化を図るために、河川・海岸・港湾・漁港施設の整備を図る。 国土交通省、静岡県と連携を図り、海岸堤防を粘り強い構造に改良するとともに、浜山川から大井川港までの間について、潮風グリーンウォークの整備を進めるものとする。

6 災害応急対策用施設等の整備

区 分	内 容
飲料水・電源等を確保するための施設又は設備の整備	飲料水を確保するため、配水池等上水道施設の耐震化並びに緊急連絡管、緊急遮断弁及び非常用電源の整備を図るとともに、応急対策、避難対策などの拠点施設等に飲料水・電源等を確保するための施設・設備、トイレ施設の整備を図る。
備蓄倉庫の整備	食料、生活必需品等の物資及び防災資機材の備蓄のため、備蓄倉庫の整備を図る。
応急救護設備等の整備	負傷者の応急救護等の救護機能を確保・強化するため、救護設備その他の応急的な措置に必要な設備又は資機材の整備を図る。
緊急輸送用車両等の整備	緊急輸送及び情報収集を迅速に行うため、車両の整備を図る。

第2節 地震対策緊急整備事業計画

南海トラフ地震等による災害から市域並びに市民の生命、身体及び財産を保護するため、地震防災上緊急に整備すべき施設等について「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（昭和55年法律第63号）」に基づく地震対策緊急整備事業を実施する。事業の実施期間は昭和55年度から令和6年度までの45年間である。

防災業務施設の整備

消防用施設の整備

区 分	内 容				
事業の目的	地震の発生時に予想される火災から、人命、財産を守るため、消防ポンプ自動車、防火水槽、耐震性貯水槽、可搬式小型動力ポンプ等の消防用施設の整備を図る。				
整備の水準	「消防力の整備指針」及び「消防水利の基準」に基づき消防ポンプ自動車、100m ³ 耐震性貯水槽、60m ³ 耐震性貯水槽、40m ³ 級防火水槽、可搬式小型動力ポンプ等を整備する。 特に建築物の密集地域には、耐震性貯水槽と移動が容易な可搬式小型動力ポンプを重点的に整備する。				
事業総括表	<table> <tr> <th>事業名</th><th>事業概要</th></tr> <tr> <td>消防防災施設整備事業</td><td>消防ポンプ自動車、はしご車、可搬式小型動力ポンプ、防火水槽等</td></tr> </table>	事業名	事業概要	消防防災施設整備事業	消防ポンプ自動車、はしご車、可搬式小型動力ポンプ、防火水槽等
事業名	事業概要				
消防防災施設整備事業	消防ポンプ自動車、はしご車、可搬式小型動力ポンプ、防火水槽等				

第3節 地震防災緊急事業五箇年計画

南海トラフ地震等による災害から市域並びに市民の生命、身体及び財産を保護するため、地震防災対策特別措置法の規定に基づく、地震防災対策の実施に関する目標として「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013」及び「焼津市地震・津波対策アクションプログラム2014」を位置づけ、地震防災上緊急に整備すべき施設等についてこの目標に即した地震防災緊急事業第6次五箇年計画を作成した。

新たに、前計画の後継となる「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023」及び「焼津市地震・津波対策アクションプログラム2023」を位置づけ、第6次五箇年計画を実施している。

なお、平成8年度から平成12年度までの第1次五箇年計画、平成13年度から平成17年度までの第2次五箇年計画、平成18年度から平成22年度までの第3次五箇年計画、平成23年度から平成27年度までの第4次五箇年計画、平成28年度から令和2年度までの第5次五箇年計画に続き、令和3年度から令和7年度までの第6次

五箇年計画を策定し、実施している。

1 地域の防災構造化

(1) 避難路の整備

区 分	内 容			
事業の目的	避難路について、避難所要時間の短縮、避難有効幅員の拡大、避難路の安全性の向上等避難の円滑化を図る。			
整備の水準	人口の集中した地域において、避難地等へ至る避難路について拡幅改良を行う。			
事業総括表	事業名	事業主体	事業概要	
	会下ノ島石津土地区画整理事業	市	会下ノ島石津地区	1箇所 0.158km

第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応

国の南海トラフ地震防災対策推進基本計画において、地方公共団体が南海トラフ地震防災対策推進計画で明示するものとされた南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応について、市は、国の南海トラフ地震防災対策推進基本計画の内容を踏まえて、市の対応の概要を以下のとおり定める。

市は、防災対応の概要を定めた後、引き続いて防災対応の詳細を検討し、地域防災計画またはその他の計画に位置付けるものとする。

I 南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表された場合における災害応急対策に係る措置

第1節 南海トラフ地震臨時情報（調査中）の伝達等

南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表された場合、「焼津市災害対策本部等運営規程」に基づき、「事前配備体制」をとり、事態の推移を踏まえ、以下のとおり、関係所属間で情報収集及び連絡活動を行うものとする。

関係所属における情報の収集・伝達に係る役割分担は、「共通対策編 第2章 災害予防計画 第1節 通信施設等整備改良計画 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画 第4節 通信情報計画」及び「地震対策編 別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策 第1節 防災関係機関の活動」に準ずる。

区 分	内 容
南海トラフ地震臨時情報（調査中） 発表時	事前配備体制 事態の推移を踏まえ、関係所属間で情報収集及び連絡活動を行い、警戒活動等実施する体制をとる。 その他に次の措置を講ずる。 - 情報の伝達 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表時」、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時」に記載しているイ～カの措置については、速やかに対応できるよう準備・検討等を開始する。

II 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合における災害応急対策に係る措置

第1節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の伝達等

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合、「焼津市災害対策本部等運営規程」に基づき「災害対策本部」を設置し、全庁的な情報共有体制のもと、大規模な災害の発生に備える体制をとるものとする。

市の情報共有体制、組織体制、情報伝達方法は、「共通対策編 第2章 災害予防計画 第1節 通信施設等整備改良計画 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画 第4節 通信情報計画 第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策 第2節 情報活動 第3節 広報活動」に準ずる。

区 分	内 容
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表時	災害対策本部（第1 配備体制） 本部長である市長の指揮のもと、全庁的な情報共有及び大規模な災害の発生に備える体制をとる。 災害対策本部にて、必要な対応について検討を行う。 その他に次の措置を講ずる。 ア 情報の伝達 イ 必要な事業を継続するための措置 ウ 日頃からの地震への備えの再確認等警戒レベルを上げる措置 エ 施設及び設備等の点検 オ 地震に備えて普段以上に警戒する措置 カ 防災対応実施要員の確保等 キ 職員等の安全確保 ※本体制は1 週間継続することから、一定規模参集後にローテーションによる体制を構築する。

第2節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された後の周知

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報など住民に密接に関係のある事項について周知するものとする。

市は、地域住民に対し、日頃からの地震への備えを再確認する等、防災対応をとる旨を呼びかけるものとする。

周知及び呼びかけの方法は、「共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画 第4節 通信情報計画 第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 別紙 地震防災応急対策 第2節 情報活動 第3節 広報活動」に準ずる。

第3節 災害応急対策をとるべき期間等

市は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満又はプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震（ただし、太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く）が発生するケースの場合は、1週間、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりが観測されたケースの場合はプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりの変化が収まってから、変化していた期間と概ね同程度の期間が経過するまでの期間、後発地震に対して注意する措置をとるものとする。

第4節 市のとるべき措置

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合において、地域住民等に対し、日頃からの地震への備えを再確認する他すぐに避難を行える態勢を維持する等の防災対応をとる旨を呼びかけるものとする。

市は、施設・設備等の点検等日頃からの地震への備えを再確認するものとする。

Ⅲ 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合における災害 応急対策に係る措置

第1節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）の伝達、災害対策本部等の 設置等

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合、「焼津市災害対策本部等運営規程」に基づき、「災害対策本部」を設置し、全庁的な情報共有体制のもと、大規模な災害の発生に備える体制をとるものとする。

市の情報共有体制、組織体制、情報伝達方法は、「共通対策編 第2章 災害予防計画 第1節 通信施設等整備改良計画 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画 第4節 通信情報計画 第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策 第2節 情報活動 第3節 広報活動」に準ずる。

区 分	内 容
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時	災害対策本部（第1 配備体制） 本部長である市長の指揮のもと、全庁的な情報共有及び大規模な災害の発生に備える体制をとる。 災害対策本部にて、必要な対応について検討を行う。 その他に次の措置を講ずる。 ア 情報の伝達 イ 必要な事業を継続するための措置 ウ 日頃からの地震への備えの再確認等警戒レベルを上げる措置 エ 施設及び設備等の点検 オ 地震に備えて普段以上に警戒する措置 カ 防災対応実施要員の確保等 キ 職員等の安全確保 ※本体制は1 週間継続することから、一定規模参集後にローテーションによる体制を構築する。

第2節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された後の周知

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報など住民に密接に関係のある事項について周知するものとする。

市は、地域住民等に対し、日頃からの地震への備えを再確認する等防災対応をとる旨を呼びかけるものとする。

周知及び呼びかけの方法は、「共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画 第4節 通信情報計画 第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 第4章 地震防災応急対策 第2節 情報活動 第3節 広報活動」に準ずる。

第3節 災害応急対策をとるべき期間等

市は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界におけるM8.0以上の地震の発生から1 週間、後発地震（南海トラフの想定震源域及びその周辺で速報的に解析されたM6.8以上程度以上の地震が発生、またはプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべり等を観測した後に発生する可能性が平時に比べて相対的に高まったと評価された南海トラフ地震）に対して警戒する措置をとるものとする。また、当該期間経過後1 週間、後発地震に対して注意する措置をとるものとする。

第4節 避難対策等

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表され、国から指示が発せられた場合に、直ちに避難対策等を実施するため、後発地震が発生してからの避難では、津波からの緊急避難が間に合わない地域（以下、「事前避難対象地域」という）の設定や、事前避難対象地域内の住民等への避難の呼びかけ及び事前避難先等についてあらかじめ定める。

なお、当該計画は津波避難施設の整備状況、避難訓練の実施状況等を踏まえ、見直していくものとする。

1 地域住民等の避難行動等

（１）基本方針

市長は、津波避難施設等の整備状況や避難訓練の実施状況等の地域の特性を踏まえて定めた事前避難対象地域内の住民等に対して、後発地震に備え１週間、事前避難を継続するよう呼びかけるものとする。

（２）事前避難対象地域の設定

国の「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」において、すべての住民等が後発地震に備え避難を継続すべきとされている「住民事前避難対象地域」は、市の津波避難施設等の整備状況や避難訓練実施状況等を踏まえて設定しないものとする。ただし、避難に一定の時間が必要な要配慮者については、事前に避難することで安全性を高めることができることから、市は、高齢者等事前避難対象地域を設定するものとし、津波による被害の発生が予想される地区等を参考に以下の地域を明示するものとする。

- ・ 高齢者等事前避難対象地域

事前避難対象地域のうち、要配慮者に限り後発地震に備え１週間避難を継続すべき地域とし、静岡県第４次地震被害想定における最大浸水想定区域を高齢者等事前避難対象地域とする。

（３）高齢者等避難発令の基準

市長は、国から指示が発せられた後、高齢者等事前避難対象地域内の住民等に対して、以下のとおり発令するものとする。

- ・ 高齢者等事前避難対象地域

高齢者等避難

なお、市は、高齢者等避難を発令する地区等について、あらかじめ定めるものとする。

（４）避難情報の伝達方法

市長は、高齢者等避難を発令したときは、直ちに事前避難対象地域内の住民等に対して、同時通報用無線等により広報し、その旨の周知徹底を図る。

（５）避難に関する情報の平時からの周知

南海トラフ地震臨時情報が発表された際に、社会が混乱することなく防災対応を行うためには、住民等が、事前に南海トラフ地震臨時情報そのものを理解している必要がある。

このため、市は、あらゆる機会を捉え、南海トラフ地震臨時情報の内容や情報が発表された場合にとるべき以下の事項について広報に努め、住民等が正しく理解し、あらかじめ検討した対応を確実に実施できるよう努める。

ア 高齢者等事前避難対象地域の地区名等

イ 家具の固定、備蓄物資の確認、非常持出品の確認等の日頃からの備えの再確認

ウ 安全な避難場所・避難経路等の確認

エ 避難行動における注意事項

（６）避難計画の作成

市は、事前避難対象地域の住民等が一定期間避難生活する避難所の選定、避難経路の選定等の避難実施に係る計画をあらかじめ定めるものとする。

2 避難所の運営

(1) 基本方針

事前避難先は、避難を必要とする住民の親類・知人宅等を基本とするが、市は、親類・知人宅等への避難が困難な住民等のために、あらかじめ定めた施設に避難所を設置するものとする。

また、市は、住民等と避難所の運営方法などについて、あらかじめ具体的に検討・調整するものとする。

(2) 避難所の設置及び避難生活

ア 避難生活者

事前避難対象地域の住民等のうち、親類・知人宅等への避難が困難な住民等とする。

イ 設置場所

市があらかじめ定めた施設に設置するものとする。

ウ 設置期間

国が「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」において、後発地震に備え避難を継続すべきとした1週間とする。

エ 避難所の運営

避難者が自ら行うことを基本とし、市は、あらかじめ避難所を運営する際の体制や役割等について、住民等と検討・調整を行うものとする。

第5節 消防機関等の活動

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時の消防機関等が講ずる措置を示す。

(1) 津波警報時の情報の的確な収集及び伝達

共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第4節「通信情報計画」及び地震対策編 別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策 第2節「情報活動」、第3節「広報活動」に準ずる。

(2) 高齢者等事前避難対象地域における地域住民等の避難誘導、避難路の確保

共通対策編 第2章 災害予防計画 第6節「住民の避難体制」及び地震対策編 別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策 第7節「避難活動」に準ずる。

第6節 警備対策

警察は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、犯罪及び混乱の防止等に関して、次の事項を重点として、措置をとるものとする。

(1) 正確な情報の収集及び伝達

(2) 不法事案等の予防及び取締り

(3) 地域防犯団体、警備業者等の行う民間防犯活動に対する指導・支援

第7節 水道、電気、ガス、通信、放送関係

1 水道

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、必要な飲料水を供給する体制を確保するものとする。

2 電気

電気事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、必要な電力を供給する体制を確保するものとする。

3 ガス

ガス事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、必要なガスを供給する体制を確保するものとする。

4 通信

電気通信事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、通信の維持に関する必要な体制の確保に加え、災害用伝言サービスの運用、周知等の措置をとるものとする。

5 放送

放送事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）の正確かつ迅速な報道に努めるとともに、後発地震の発生に備えて、事前に関係機関等と密接な連携をとり、実態に即した体制の整備を図るものとする。

また、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合には、関係機関と協力して、地域住民等に対して冷静な対応を呼びかけるとともに、後発地震に備えて、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報、火災防止等の被害軽減のための取組みなど、地域住民等が防災行動等をとるために必要な情報の提供に努めるものとする。なお、情報の提供に当たっては、聴覚障害のある人等の情報入手に資するよう、テレビにおける字幕等の活用にも努めるものとする。

第8節 金融

金融機関は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合及び後発地震の発生に備え、金融業務の円滑な遂行を確保するための要員の配置計画等、事前の準備措置としてとるべき内容を定めておくものとする。

第9節 交通

1 道路

警察は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の運転者のとるべき行動について、地域住民等に周知するものとする。

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の交通対策等の情報についてあらかじめ情報提供するものとする。また、高齢者等事前避難対象地域内における車両の走行自粛の呼びかけ等を道路利用者に対し行うものとする。

2 海上

海上保安本部及び港湾管理者は、在港船舶の避難等対策について、津波に対する安全性に留意し、必要な措置を講ずる。

港湾管理者は、津波による危険が予想される地域に係る港湾の対策について、津波に対する安全性に留意し、必要な措置を講ずる。

3 鉄道

鉄道事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合、安全性に留意しつつ、運行するために必要な対応を行うものとする。

鉄道事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表される前の段階から、当該情報が発表された場合の運行規制等の情報について、あらかじめ情報提供するものとする。

第 10 節 市自らが管理等を行う施設等に関する対策

1 防災上重要な施設に対する措置

防災上重要な施設について、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合に、市が行う点検、整備等について以下のとおり定め、防災対応の円滑な実施を確保する。

区 分	内 容
港湾	- 海上交通の安全を確保するために、在港船舶の避難等対策について、津波に対する安全性に留意し、必要な措置を講ずる。 - 津波による危険が予想される場合の対策について、津波に対する安全性に留意し、必要な措置を講ずる。 - 港湾が管理する陸閘について、閉鎖状況及び閉鎖手順の確認等、津波の発生に備えた措置を講ずる。
河川及び海岸保全施設	水門・陸閘について、操作規則等を確認し、津波の発生に備えて各管理者と閉鎖に向けた操作手段を確認する。
用水路	農業用水路について、あらかじめ定めた者に対して所要の措置に関する情報連絡を行い、必要に応じて用水路の断水又は減水を行えるよう、施設点検や操作方法の確認等の準備的措置を講ずる。
道路	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の交通対策等の情報についてあらかじめ情報提供するものとする。
砂防、地すべり、急傾斜地、治山等	- 土砂災害発生時における迅速な情報収集・伝達のための国・県等の連絡体制を整える。 - 巨大地震発生時の土砂災害警戒情報の発表に伴う対応について、県と確認する。
工事中の公共施設、建築物、その他	地震関連情報の収集に努め、状況に応じて工事中断等の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全措置を講ずる。
本庁、消防防災センター及びその他災害応急対策上重要な庁舎	本庁、消防防災センター及びその他災害応急対策上重要な庁舎について、非常用発電装置の確認、落下倒壊防止措置、食料及び燃料の準備、飲料水の緊急貯水等の措置を行う。
水道水供給施設及び工業用水道施設	溢水等による災害の予防措置の準備を行いながら送水を継続する。

2 不特定かつ多数の者が出入りする施設に対する措置

市が管理し、不特定かつ多数の者が出入りする施設について、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合に、市が行う防災対応を以下のとおり定め、防災対応の円滑な実施を確保する。

なお、市以外が管理する施設等の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の防災対応については、下記内容を参考にしてそれぞれ施設の管理者が定めるものとする。

区 分	内 容
各施設が共通して定める事項	ア 情報の伝達 イ 必要な事業を継続するための措置 ウ 日頃からの地震への備えの再確認等警戒レベルを上げる措置 エ 施設及び設備等の点検 オ 地震に備えて普段以上に警戒する措置 カ 防災対応実施要員の確保等 キ 職員等の安全確保

施設の特性に応じた主要な個別事項	病院	- 耐震性等、建物の安全が確保されている施設においては、原則、営業を継続するものとする。 - また、入院患者等に対し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等を伝達する方法をあらかじめ定める。 - 入院患者等の状況に応じて、安全確保に向けた転院や院内の上層階への垂直避難等の準備を検討する。 - 入院患者等に対する避難誘導の方法及び避難誘導実施責任者等、安全確保のための措置をあらかじめ定める。
	学校	児童生徒等の安全確保のために必要な具体的措置について、指定避難所、避難経路、登下校路の安全確認など後発地震に備えた再確認を実施する。
	社会福祉施設	- 情報の伝達や避難等に当たって特に配慮を必要とする者が入所又は利用している場合が多いことから、入所者等の保護及び保護者への引き継ぎの方法については、施設の種類や性格及び個々の施設の安全性を十分に考慮して、その内容を定めるものとする。 なお、要配慮者の事前避難に当たっては、避難先までの移動や、生活環境の変化などにより体調を崩すことも想定されることから、社会福祉施設に入所している要配慮者については、浸水しない上層階が同一施設にあり、かつ安全が確保される場合は垂直避難も検討するよう努める。 - 高齢者等事前避難対象地域内にある施設は、避難経路、避難誘導方法、避難誘導実施責任者等をあらかじめ定める。この場合において、要配慮者等の避難誘導について、配慮するものとする。

第11節 滞留旅客等に対する措置

市は、多くの公共交通機関の運行に支障が生じ、滞留旅客等が多数発生した場合は、保護等のため避難所を設置するほか、関係機関と連携して避難所への誘導、交通情報等の提供などの支援対策をとるよう努めるものとする。

第5章 災害応急対策

地震災害が発生した場合の市及び防災関係機関、事業所及び市民等の災害応急対策について定める。

海溝型巨大地震が発生した場合、甚大かつ広域的な被害が予想されると同時に、東日本大震災で見られたような広域的な停電や断水の発生、防災拠点の被災、市町等の行政機能の喪失、交通インフラの被災による応急対策活動への支障の発生、ガソリン等の燃料を含む各種物資の著しい不足などを含め、事前の想定を超える事態が発生するおそれがあることに十分に留意しつつ、災害応急対策を行う必要がある。

第1節 防災関係機関の活動

地震災害発生時の市及び防災関係機関の災害応急対策の組織、要員の確保及び活動の概要並びに警戒本部との関連について定める。

1 計画の内容

区分	内 容																	
焼津市災害対策本部	焼津市災害対策本部の設置	(1) 市長は、地震災害が発生し災害応急対策を実施する必要があると認めた時は、焼津市災害対策本部（以下「災害対策本部」という。）を焼津市消防防災センター1階に設置する。 (2) 警戒本部から災害対策本部への移行に当たっては、事務の継続性の確保に配慮するものとする。 (3) 本部長（市長）は、防災関係機関との緊密な連携のもとに、各機関が行う災害応急対策を把握し、適切な措置を講ずるものとする。																
	焼津市災害対策本部の組織及び事務所掌	焼津市災害対策本部条例（昭和55年12月26日焼津市条例第34号）（資料編（共通対策）3－2－1⑤）及び焼津市災害対策本部等運営規程（昭和58年7月19日訓令第6号）（資料編（共通対策）3－2－1⑥）の定めるところによる。																
	組織体制	地震災害が発生した場合は、初期段階でとるべき緊急措置と時間の経過とともに変化する状況に応じて求められるべき対策を機能的に行うため、以下に例示する活動区分に留意しつつ焼津市災害対策本部を組織する。 <table><tr><th>段階</th><th>区分</th><th>期間</th><th>活動の要旨</th></tr><tr><td>第1段階</td><td>混乱期</td><td>発災～3日間程度</td><td>市民の生命及び財産を保護し、消火・救出救護・避難等に総力を注ぐ活動を行う。</td></tr><tr><td>第2段階</td><td>収拾期</td><td>4～10日目程度</td><td>市民の安全を確保し、かつ民心の安定を図るための救済活動を行う。</td></tr><tr><td>第3段階</td><td>回復期</td><td>11日目程度</td><td>市民の日常生活への復旧に向けた応急復旧活動を行う。</td></tr></table>	段階	区分	期間	活動の要旨	第1段階	混乱期	発災～3日間程度	市民の生命及び財産を保護し、消火・救出救護・避難等に総力を注ぐ活動を行う。	第2段階	収拾期	4～10日目程度	市民の安全を確保し、かつ民心の安定を図るための救済活動を行う。	第3段階	回復期	11日目程度	市民の日常生活への復旧に向けた応急復旧活動を行う。
	段階	区分	期間	活動の要旨														
第1段階	混乱期	発災～3日間程度	市民の生命及び財産を保護し、消火・救出救護・避難等に総力を注ぐ活動を行う。															
第2段階	収拾期	4～10日目程度	市民の安全を確保し、かつ民心の安定を図るための救済活動を行う。															
第3段階	回復期	11日目程度	市民の日常生活への復旧に向けた応急復旧活動を行う。															
移行型	警戒本部	南海トラフ地震臨時情報が発せられてから南海トラフ地震が発生した場合は、あらかじめ設置した警戒本部から、ただちに災害対策本部体制に移行する。																

区分	内 容		
焼津市災害対策本部	組織体制	職員の配備体制	(1) 職員の動員については、焼津市災害対策本部等運営規程（昭和58年7月19日訓令甲第6号）の別表第3「災害時の配備体制基準」による。 (2) 消防団員は、別に定める計画により配備し、消防団長の指揮の下に所轄地域の災害応急対策にあたる。 (3) 所属長は、地震発生後できるだけ速やかに職員の配備状況を把握するものとする。
	所掌事務		災害対策本部が所掌する事務の主なものは、次のとおりである。 (1) 地震情報その他災害応急対策に必要な情報の収集及び伝達 (2) 災害応急対策の実施又は民心安定上必要な広報 (3) 消防、水防その他の応急措置 (4) 「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」による応援部隊等の受入及び調整 (5) 被災者の救助、救護、その他の保護 (6) 施設及び設備の応急の復旧 (7) 防疫その他の保健衛生 (8) 避難の指示又は警戒区域の設定 (9) 緊急輸送の実施 (10) 被災者等に対する食料、飲料水及び日用品の確保、配給 (11) 県への要請、報告等、県との災害応急対策の連携 (12) 自主防災組織との連携及び指導 (13) ボランティアの受入れ
消防、水防機関の措置	消防団、水防団		(1) 被害状況等の情報の収集と伝達 (2) 消火活動、水防活動及び救助活動 (3) 津波避難場所の安全確保及び避難路の確保 (4) 地域住民等の津波避難場所への誘導 (5) 危険区域からの避難の確認 (6) 自主防災組織との連携、指導、支援

2 消防機関

機 関 名	災害応急対策として講ずる措置
志太消防本部	災害対策本部及び防災関係機関と緊密な連携をとるものとする。 (1) 消防本部体制に関すること (2) 救助及び救急体制に関すること (3) 地域住民等への避難の指示の伝達 (4) 危険物等施設の実態把握と防護の指導監督 (5) 火災発生時の消火活動 (6) 水防活動における救助、救急に関すること (7) 被災者の救助、救急 (8) 被害に関する情報の収集、伝達及び被害調査 (9) 志太消防本部職員は、志太消防本部消防計画に基づき配備する (10) その他地震災害拡大防止のための措置

3 防災関係機関

（共通対策編 第1章 総則 第2節「防災上重要な機関の処理すべき事務又は業務の大綱」に準ずる。）

第2節 情報活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第4節「通信情報計画」に準ずる。）

第3節 広報活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第5節「災害広報計画」に準ずる。）

第4節 緊急輸送活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第19節「輸送計画」に準ずる。）

なお、南海トラフ地震発生時における広域応援の受入に係る緊急輸送活動については、別に定める「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」による。

第5節 広域応援活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第3節「応援・受援計画」に準ずる。）

なお、南海トラフ地震発生時における広域応援の受入は、別に定める「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」による。

相互応援協定の締結に当たっては、大規模な地震災害等による同時被災を避ける観点から、遠方に所在する地方公共団体との間の協定締結も考慮する。

第6節 災害の拡大及び二次災害防止活動

1 消防活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第24節「消防計画」に準ずる。）

2 水防活動

市の水防計画の定めるところによる。

3 人命の救出活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第7節「避難救出計画」に準ずる。）

4 被災建築物等に対する安全対策

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第12節「被災建築物等に対する安全対策、災害危険区域の指定、応急仮設住宅及び住宅応急修理計画」に準ずる。）

5 災害危険区域の指定

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第12節「被災建築物等に対する安全対策、災害危険区域の指定、応急仮設住宅及び住宅応急修理計画」に準ずる。）

第7節 避難活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第7節「避難救出計画」に準ずる。）

第8節 社会秩序を維持する活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第18節「社会秩序維持計画」に準ずる。）

第9節 交通の確保対策

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第20節「交通応急対策計画」に準ずる。）

第10節 地域への救援活動

日常生活に支障をきたした、り災者等に対して行う食料、飲料水及び生活必需品等の緊急物資及び燃料の確保、医療救護活動、保健、衛生等の確保活動、遺体搜索、応急住宅の確保並びにボランティア活動への支援について実施する対策を示す。

なお、南海トラフ地震発生時における広域応援の受入に係る地域への救援活動については、別に定める「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」による。

1 食料及び生活必需品等の緊急物資の確保

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第9節「食料供給計画」及び第10節「衣料、生活必需品、その他の物資及び燃料供給計画」に準ずる。）

2 給水活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第11節「給水計画」に準ずる。）

3 燃料の確保

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第10節「衣料、生活必需品その他の物資及び燃料供給計画」に準ずる。）

4 医療救護活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第13節「医療・助産計画」に準ずる。）

5 し尿処理

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第15節「清掃及び災害廃棄物処理計画」に準ずる。）

6 廃棄物（生活系）処理

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第15節「清掃及び災害廃棄物処理計画」に準ずる。）

7 災害廃棄物処理

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第15節「清掃及び災害廃棄物処理計画」に準ずる。）

8 防疫活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第14節「防疫計画」に準ずる。）

9 遺体の搜索及び措置

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第16節「遺体の搜索及び措置埋葬計画」に準ずる。）

10 応急住宅の確保

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第12節「被災建築物等に対する安全対策、災害危険区域の指定、応急仮設住宅及び住宅応急修理計画」に準ずる。）

11 ボランティア活動への支援

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第26節「ボランティア活動支援計画」に準ずる。）

第11節 学校における災害応急対策及び応急教育活動

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第21節「応急教育計画」に準ずる。）

第12節 被災者の生活再建等への支援

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第22節「社会福祉計画」に準ずる。）

第13節 市有施設及び設備等の対策

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第34節「市有施設及び設備等の対策計画」に準ずる。）

第14節 防災関係機関等の講ずる災害応急対策

市民生活に密接な関係のある防災関係機関等が実施する災害応急対策の概要を示す。

区 分		内 容
水道（市水道事業）		(1) 災害の発生状況に応じて送水を停止する等、必要な措置を講ずる。 (2) 応急復旧に必要な資機材及び車両を確保し、応急復旧工事を行う。 (3) 配管の仮設等による応急給水に努める。 (4) 医療機関、避難所等への優先的な応急給水に努める。
電力 （中部電力株式会社、中部電力パワーグリッド株式会社（藤枝営業所））		(1) 電力供給設備に支障のない限り供給を継続するが、状況によって危険防止のため送電を停止する。 (2) 電力が不足する場合は、電力広域的運営推進機関と協調し、電力供給の確保に努めるとともに、必要に応じて他電力会社へ資機材や要員派遣等の依頼を行う。 (3) 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を行う。 (4) 電力の供給再開までに長期間を要する場合は、緊急に電力を供給すべきところから必要な措置を講じ、応急復旧工事を行う。 (5) 水力、原子力の各発電所は、直ちに各種装置及び施設を巡回点検し安全確保の応急措置を講ずる
ガス （東海ガス株式会社、一般社団法人静岡県LPGガス協会藤枝地区会）		(1) 都市ガスは、ガス事業者が設置する地震計により各社が定める停止基準値を超えた場合は、ガスの供給を停止する。 (2) 都市ガス及びLPガスは、安全が確認されるまで使用しないよう広報する。 (3) 都市ガス及びLPガスの施設の安全点検を実施する。 (4) 都市ガスは供給の安全が確認された区域から順次供給を再開する。 (5) 避難所等に臨時に必要な燃料供給を行う。 (6) 応急復旧に必要な資機材及び車両を確保し、応急復旧工事を行う。
通 信	N T T 西 日 本 株 式 有 限 公 司（静岡支店）	(1) 通信のふくそう緩和及び重要通信を確保するため次により必要な措置をとる。 ア 臨時回線の設定、中継回路の変更等疎通確保の措置をとるほか、必要に応じ災害応急復旧用無線電話等を運用し、臨時公衆電話を設置する。 イ 通信の疎通が著しく困難となり、重要通信を確保するため必要があるときは、一般利用の制限等の措置をとるほか、災害用伝言ダイヤル171、災害用伝言板web171サービスを提供する。 (2) 防災関係機関が設置する通信網と連携協力する。 (3) 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を行う。 (4) 通信の早期疎通を図るため工事業者に出動を求める等必要な措置を講じ応急復旧工事を行う。
	株式会社NTTドコモ東海支社（静岡支店）	(1) 通信のふくそう緩和及び重要通信を確保するため、次により必要な措置をとる。 ア 臨時回線の設定をするほか、必要に応じ携帯電話の貸出しに努める。 イ 通信の疎通が著しく困難となり、重要通信を確保するため必要がある時は一般利用の制限等の措置をとるほか、災害用伝言板を提供する。 (2) 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を行う。 (3) 通信の早期疎通を図るために工事業者に出動を求める等必要な措置を講じ応急復旧工事を行う。
放送（日本放送協会静岡放送局、静岡放送株式会社、株式会社テレビ静岡、株式会社静岡朝日テレビ、株式会社静岡第一テレビ、静岡エフエム放送株式会社）		(1) 放送機器の障害及び中継回線の途絶等により放送が不可能となった場合は、常置以外の必要機器を仮設し、無線その他の中継回線を利用し放送の継続確保を図る。 (2) 応急復旧に必要な資機材の確保及び機器、設備等の機能回復の措置を講ずる。 (3) 臨時ニュース、特別番組の編成等、各メディアを有効に活用し、地震情報等、被害状況、復旧状況、生活関連情報等の正確、迅速な放送に努め、社会的混乱の防止を図る。

区 分	内 容
市中金融	(1) 被災金融機関は営業の早期再開のために必要な措置を講ずる。 (2) 災害復旧に必要な資金の融通のための迅速適切な措置を講ずる。 (3) 財務省東海財務局静岡財務事務所は、日本銀行静岡支店と協議のうえ相互の申合わせを行い次の措置を講ずる。 ア 必要に応じての営業時間延長、休日臨時営業等 イ 預貯金の便宜払戻し、預貯金担保貸出の実行等についての特別取扱い ウ 被災関係手形の支払呈示期間経過後交換持出し、不渡処分猶予等
鉄道 (東海旅客鉄道株式会社、日本貨物鉄道株式会社)	(1) 不通区間が生じた場合は迂回線区に対する輸送力の増強及び自動車等による代替輸送の確保に努めるとともに、併行社線との振替輸送等の措置を講ずる。 (2) 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を図る。 (3) 早期運転再開を期するため、工事業者に出動を求める等必要な措置を講じ応急復旧工事を行う。
道路(国、県、市)	(1) 道路管理者相互に連携し道路施設の点検巡視を行い被害箇所を迅速に把握する。 (2) 道路管理者相互に連携し緊急輸送路の早期確保に努める。 (3) 道路管理者は、道路の応急復旧のため建設業協会等の協力を求め必要な措置を講ずる。 (4) 県警察は、交通信号機が倒壊、断線等により機能を失った場合は、応急復旧工事を実施する。
漁港 (静岡県焼津漁港管理事務所)	(1) 被害情報の収集、施設の点検、情報連絡 パトロール等により漁港施設(岸壁等)の被害情報の収集、施設機能の点検を行うとともに、漁港施設の占有者に対し、被害状況の調査及び点検の実施を要請する。また、関係機関に情報を伝達する。 (2) 陸閘の操作 津波の危険のある地域においては、陸閘の閉鎖操作を行う。 (3) 応急措置の実施、2次災害の防止 ア 危険箇所の立入り禁止措置をとる。 イ 陸閘の機能欠損箇所における応急修繕等の応急措置を講ずる。 (4) 緊急輸送岸壁の確保、資機材の確保、応急復旧工事の実施 緊急輸送岸壁の早期確保を最優先し、必要に応じ「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき、建設業協会等に協力を求め、資機材を確保し、必要な応急工事を実施する。また、漁港施設の占有者に対し、漁港機能の障害となるもの等への早期対策を要請する。

第15節 地震防災応急計画及び対策計画を作成すべき施設・事業所の災害応急対策

地震防災応急計画及び対策計画を作成すべき者が講ずる災害応急対策の概要を示す。

計画の内容

計画に定める必要のある災害応急対策の主な内容は、前2節に定めるものの他、次のとおりとするが、平時対策との整合性の確保に留意する。また、津波に関する具体的な安全対策、避難対策等に関する事項については、津波避難対象地区内の地震防災応急計画及び対策計画の作成義務者に適用するものとする。

1 各施設・事業所に共通の事項

各施設・事業所に共通する事項として、次の点に留意する。

- (1) 災害応急対策を実施する組織の確立に関する事項
 - ア 災害応急対策の実施に必要な防災要員及び組織体制
 - イ 防災要員の参集連絡方法、参集手段等
- (2) 津波からの円滑な避難の確保に関する事項
 - ア 津波に関する情報収集、伝達
 - イ 利用者、顧客、従業員等の安全な避難誘導方法
- (3) 出火防止措置、消防用施設等の点検
- (4) その他必要な災害応急対策に関する事項

2 各施設・事業所の計画において定める個別の事項

各施設又は事業所の特殊性、公益性、地理的特性等を考慮の上、次の点に留意して計画に定める。

津波からの円滑な避難のための安全確保措置については、津波に関する情報を把握し、従業員等の避難に要する時間に配慮して実施する。

施設・事業所	計画において定める個別の事項	
病院、診療所、スーパー等	(1) 患者、利用者、顧客等への情報伝達手段を確保する。 (2) 地震及び津波に関する情報並びに津波避難場所、避難路等に関する情報を的確に伝達し、適切な避難誘導を実施する。 (3) 病院、診療所においては、移動が不可能又は困難な患者の安全確保に必要な措置等に配慮する。	
石油類、高圧ガス、毒物・劇物等の製造、貯蔵、処理又は取扱いを行う施設	火災、流出、爆発、漏洩その他周辺地域に対して影響を与える現象の発生を防止するために必要な緊急点検・巡視の実施、充填作業・移し替え作業等の停止、落下・転倒その他施設の損壊防止等のために必要な応急的保安措置を実施する。	
鉄道事業その他一般旅客運送に関する事業	(1) 利用者、顧客等への情報伝達手段を確保する。 (2) 鉄道においては、津波による被害が予想される区間がある場合、運行停止等の必要な措置を講ずる。	
学校・幼稚園・保育所、社会福祉施設	津波避難場所、避難路、避難誘導方法等を定める。保護を必要とする生徒等の保護、移動が不可能又は困難な避難行動要支援者の安全確保に必要な措置等に配慮する。	
水道、電気及びガス事業	水道 (市水道事業)	水道管の破損等による二次災害を防止、軽減するための措置を講ずる。
	電気	火災等の二次災害を防止、軽減するため、ブレーカースイッチの操作等についての利用者への広報に配慮する。
	ガス	火災等の二次災害を防止、軽減するため、ガス栓の閉止等の措置についての利用者への広報に配慮する。
道路	津波による被害が予想される区間及び避難者としての使用が予定される区間がある場合、交通規制等の必要な措置を講ずる。	

第6章 復旧・復興対策

大規模地震災害発生後の緊急に実施すべき災害応急対策に一定の目途が立った後、引き続き推進する被災者の生活再建及び施設の復旧整備等を通じ、災害に対して強い地域づくりや振興のための基礎的な条件づくりを目指す復旧・復興対策について定める。

第1節 防災関係機関の活動

市の復旧・復興対策の組織の設置、職員の確保並びに活動及び防災関係機関の活動については災害対策本部と調整を図りながら迅速に実施する。

1 焼津市

区 分	内 容
焼津市 震災復興本部	設 置 市長は、地震災害が発生し、災害応急対策に一定の目途が立った後、復旧・復興対策を実施する必要があると認めたときは、焼津市震災復興本部（以下「復興本部」という。）を設置する。
	規 模 災害の規模に応じて別に定める。
	市災害対策本部との併設 市復興本部は焼津市災害対策本部と併設できる。市復興本部の運営に当たっては、市災害対策本部が実施する事務との整合性の確保に配慮するものとする。
	組織及び所掌事務 （１）復興本部の編成及び運営は、別に定める。 （２）市復興本部が所掌する事務の主なものは、次のとおりである。 ア 焼津市震災復興計画の策定 イ 震災復興状況その他復旧・復興対策に必要な情報の収集及び伝達 ウ 県その他の防災関係機関に対する震災復興対策の実施又は支援の要請 エ 静岡県震災復興基金への協力 オ 被災者の経済的再建の支援及び雇用の確保と相談窓口等の運営 カ 民心安定上必要な広報 キ その他の震災復興対策
焼津市災害対策本部との調整	災害応急対策との調整を図りながら、円滑な震災復興対策を推進するため、必要に応じ、焼津市災害対策本部との連絡調整会議を開催する。
防災会議の開催等	（１）市復興本部が設置された場合、必要に応じ、焼津市防災会議を開催し、情報の収集伝達及び復旧・復興対策に係る連絡調整などを行う。 （２）招集される焼津市防災会議の委員は、復旧・復興対策の内容に応じて焼津市防災会議の会長が必要と判断した範囲のものとする。 （３）焼津市防災会議は、市復興本部との調整を図るものとする。
震災復興対策会議	（１）本部長は、復旧・復興対策を協議するため、必要に応じ震災復興対策会議を設置する。 （２）震災復興対策会議の構成及び運営は別に定める。
他市等に対する応援要請	市長は、復旧・復興対策を策定するために必要があると認めたときは、他の市長とあらかじめ締結した災害時相互応援に関する協定に基づき応援を要請する。

2 静岡県警察（焼津警察署）

社会秩序を維持する活動	第5章 第8節に規定する「社会秩序を維持する活動」に準じた活動を行う。
交通の確保対策	第5章 第9節「交通の確保対策」に準じた活動を行う。

3 防災関係機関

防災関係機関が、復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項は次のとおりである。

(1) 指定地方行政機関

機 関 名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
総務省東海総合通信局	ア 災害時における電気通信及び放送の確保のための応急対策及び非常通信の監理 イ 災害地域における電気通信施設、放送設備等の被害状況の調査 ウ 通信インフラに支障が発生した被災地の地方公共団体への衛星携帯電話等の災害対策用移動通信機器、災害対策用移動電源車及び臨時災害放送局用設備の貸与
総務省中部管区行政評価局（静岡行政監視行政相談センター）	ア 被災者への生活支援情報の提供 イ 専用電話を備えた相談窓口の開設 ウ 特別行政相談所の開設
財務省東海財務局（静岡財務事務所）	ア 被災者の資金の需要状況等に応じ、適当と認められる機関又は団体と緊密な連絡を取りつつ、民間金融機関、保険会社及び証券会社等に対して、災害関係の融資、預貯金の払戻し、保険金の支払い、預り金の払戻し等の業務に関し適切な措置を講ずるよう要請 イ 地方公共団体において国有財産（普通財産）を復旧・復興対策の実施の用に供するときは、当該公共団体に対する無償貸付の適切な措置
厚生労働省静岡労働局（島田労働基準監督署）	ア 復旧・復興事業等における労働災害防止対策の強化 イ 労災保険給付等に関する措置、雇用保険の失業等給付に関する措置 ウ 離職者の早期再就職等の促進（職業相談、雇用維持の要請等）
農林水産省関東農政局 静岡県拠点	農林水産省各局庁、関東農政局企画調整室及び静岡県拠点地方参事官、森林管理局の指示により静岡県に連絡要員（リエゾン）を派遣し、以下の業務を実施する。 ア 農作物、営農施設、農地・農業用施設及び森林・林業施設等の被害状況や応急対策の措置状況等に関する、被災自治体が把握している情報の収集及び地方農政局又は森林管理局への報告 イ 応急用食料・物資の支援に係る静岡県担当者、内閣府リエゾン及び農林水産本省（食料・物資支援チーム事務局等）との連絡調整 ウ 静岡県の食料・物資支援拠点における応急用食料・物資の到着状況に関する、食料・物資支援チーム事務局及び関東農政局への報告 エ その他農林水産本省各局庁、関東農政局又は森林管理局が指示する業務
農林水産省関東農政局	ア 農業関係、卸売市場及び食品産業事業者等の被害状況の把握に関すること イ 応急用食料・物資の支援に関すること ウ 食品の需給・価格動向の調査に関すること エ 飲食料品、油脂、農畜産物等の安定供給対策に関すること オ 飼料、種子等の安定供給対策に関すること カ 病虫害防除及び家畜衛生対策に関すること キ 営農技術指導及び家畜の移動に関すること ク 被害農業者及び消費者の相談窓口に関すること ケ ダム・ため池、頭首工、地すべり防止施設等、防災上重要な施設の点検・整備事業の実施又は指導に関すること コ 農地・農業用施設及び公共土木施設の被害復旧に関すること サ 被害農業者に対する金融対策に関すること
経済産業省 関東経済産業局	ア 商工鉱業の事業者の被災状況の把握、情報の収集 イ 中小企業の復旧・復興資金の融通 ウ 生活関連物資の安定供給を行うための小売事業者等の指導

国土交通省 中部地方整備局 (静岡河川事務所、静岡 国道事務所)	ア 管轄する基盤施設(河川、道路など)が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で、原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を行うかを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、関係機関と調整を図り実施する。 ウ 復旧・復興事業に関する広報を実施する。
国土交通省 中部運輸局 (静岡運輸支局)	ア 陸上輸送に関すること (ア) 緊急輸送の必要性があると認める場合は、自動車輸送事業者に対する輸送力の確保に關しての措置 (イ) 県からの要請に対する車両等の調達のあつせん イ 海上輸送に関すること (ア) 県内海上輸送事業者に対する緊急海上輸送の協力要請 (イ) 県内船舶が使用できない場合の他県に対する支援要請
機 関 名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
国土地理院 中部地方測量部	ア 国土地理院が提供及び公開する防災関連情報の活用を図る。 イ 地理情報システムの活用を図る。 ウ 位置に関わる情報の基盤を形成するため、必要に応じて復旧測量等を実施する。
気象庁東京管区气象台 (静岡地方气象台)	大津波警報、津波警報及び津波注意報の通知、津波情報、地震情報(南海トラフ地震に関連する情報を含む。)等の発表又は通報並びに解説
海上保安庁第三管区海上 保安本部 (清水海上保安部)	ア 船舶がふくそうすることが予想される海域において、必要に応じて船舶交通の整理・指導 イ 広範囲かつ同時に多数の工事関係者により工事が施行される場合は、事故防止に必要な指導
環境省 関東地方環境事務所	ア 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供 イ 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集 収集、提供等
環境省 中部地方環境事務所	廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
防衛省 南関東防衛局	ア 所管財産使用に関する連絡調整 イ 災害時における防衛省本省及び自衛隊等との連絡調整 ウ 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援

(2) 指定公共機関

機 関 名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
日本郵便株式会社東海支社 (焼津郵便局)	ア 被災地あて救助用郵便物の料金免除 イ 被災者救助団体に対するお年玉葉書等寄附金の配分 ウ 被災者に対する郵便はがき等の無償交付 エ 被災者が差し出す郵便物の料金免除 オ 災害の発生時又はそのおそれがある場合においては、可能な限り窓口業務を確保する。そのため、警察、消防、その他の関係行政機関、ライフライン事業者、関連事業者並びに報道機関等と密接に連携し、迅速・適切な対応に努める。また、平時においても関係機関等と連携し、災害予防に努める。
日本赤十字社静岡県支部	ア 義援金の募集・義援金配分委員会への参加 イ 協力奉仕者の連絡調整

機 関 名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
日本放送協会 (静岡放送局)	ア 復旧・復興時の時節に応じた混乱防止、民心の安定及び復旧・復興対策に資するための有効適切な関連番組の編成 イ 復旧・復興状況に関する迅速かつ的確な放送の実施 ウ 生活再建支援策等を広報・PRする番組の的確な放送の実施 エ 県外疎開者を対象とした震災関連情報番組の放送の実施
中日本高速道路株式会社 (東京支社)	ア 管轄する基盤施設が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということ迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、県及び関係市町と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗等に関する広報を実施する。
東海旅客鉄道株式会社、 日本貨物鉄道株式会社	ア 災害の復旧について、応急復旧工事の終了後速やかに本復旧計画をたて、これを実施することとする。 イ 本復旧計画の実施にあたっては、被害原因の調査分析の結果に基づく必要な改良事項を考慮して、その適正を期することとする。
NTT西日本株式会社(静岡支店)、 株式会社NTTドコモ東海支社 (静岡支店)	ア 施設が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということ迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、市及び県と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗等に関する広報を実施する。
岩谷産業株式会社、 アストモスエネルギー株式会社、 株式会社ジャパングスエナジー、 ENEOS グローブ株式会社、 ジクシス株式会社	LPガスタンクローリー等によるLPガス輸入基地、2次基地から充填所へのLPガスの配送
日本通運株式会社 (焼津支店)、 福山通運株式会社 (焼津支店)、 佐川急便株式会社 (大井川営業所)、 ヤマト運輸株式会社 (大井川センター)、 西濃運輸株式会社 (藤枝支店)	復旧・復興事業に関連する車両の確保及び運行
中部電力株式会社、 中部電力パワーグリッド株式会社(藤枝営業所)	ア 変電所や配電施設等の設備が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということ迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、市及び県と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗状況や公衆感電防止及び漏電防止に関する広報を実施する。
一般社団法人日本建設業連合会中部支部、 一般社団法人全国中小建設業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力

機 関 名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
株式会社イトーヨーカ堂、 イオン株式会社、 ユニー株式会社、 株式会社セブン・イレブ ン・ジャパン、 株式会社ローソン、 株式会社ファミリーマ ート、 株式会社セブン&アイ・ホ ールディングス	被災地の復旧・復興を支援するため事業活動を早期に再開する

(3) 指定地方公共機関

機 関 名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
東海ガス株式会社	ア ガス管等の設備が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、市及び県と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗等に関する広報を実施する。
一般社団法人静岡県ＬＰ ガス協会	必要に応じ代替燃料の供給に協力する。
静岡放送株式会社、 株式会社テレビ静岡、 株式会社静岡朝日テレビ、 株式会社静岡第一テレビ、 静岡エフエム放送株式会社	ア 復旧・復興時の時節に応じた混乱防止、民心の安定及び復旧・復興対策に資するための有効適切な関連番組の編成 イ 復旧・復興状況に関する迅速かつ的確な放送の実施 ウ 生活再建支援策等を広報・ＰＲする番組の的確な放送の実施 エ 県外疎開者を対象とした震災関連情報番組の放送の実施
一般社団法人静岡県トラック協会 (中部分室)、 一般社団法人静岡県バス協会、 商業組合静岡県タクシー協会 (志太榛原支部焼津地区)	復旧・復興事業に係わる車両の確保及び運行
土地改良区 (大井川土地改良区)	ア 管轄する施設(用水路、取水門、頭首工等)が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で、原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、国・県及び市との調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者とも調整する。 ウ 復旧・復興事業の進捗状況等に関する広報を実施する。
公益社団法人静岡県栄養 士会	ア 要配慮者等への食料品の供給に関する協力 イ 避難所における健康相談に関する協力
一般社団法人静岡県建設 業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
富士山静岡空港株式会社	ア 管理する施設が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえたうえで、迅速に復旧・復興事業を行う イ 復旧・復興事業の実施に当たっては必要に応じて県と調整を行う

第２節 激甚災害の指定

(共通対策編 第４章 復旧・復興対策 第３節「激甚災害の指定」に準ずる。)

第3節 震災復興計画の策定

被災地の復興に当たっては、単に震災前の姿に戻すことにとどまることなく、総合的かつ長期的な視野に立ち、より安全で快適な空間創造を目指し、発災後、市民各層の意見を踏まえた震災復興計画を策定する。また、その際は、女性や要配慮者などの多様な主体の参画が図られるよう努めるものとする。

区 分	内 容
計画策定の体制	(1) 市長は、必要があると認めたときは、副市長を本部長とする計画策定本部を設置し、震災復興計画を策定する。 (2) 計画策定本部には、関係部局長により構成する策定委員会を置き、この下部組織として所管課長で構成するワーキンググループ、地域ワーキンググループ及び部会を設置する。
計画の構成	計画は、基本方針（ビジョン）と、都市・農山漁村復興、住宅復興、産業復興などからなる分野別復興計画により構成する。
計画の基本方針	計画策定に当たっては、市の総合計画や都市計画マスタープラン等との調整を図るものとする。
計画の公表	計画策定後は、新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関を通じ速やかに公表するとともに、臨時刊行物等を配布し、住民に周知し、被災地の復興を促進するものとする。
国・県との調整	計画策定に当たっては、国や県等と調整を行う。

第4節 復興財源の確保

復旧・復興対策が円滑に実施できるように被災後できるだけ早い時期に財政需要見込額を把握し、復興財源の確保を図る。

1 予算の編成

(1) 基本方針

復旧・復興事業を迅速に実施するため、予算の執行方針及び編成方針等を定める。

(2) 予算の執行方針及び編成方針等

区 分	内 容
財政需要見込額の算定	被災状況調査を基に、次の財政需要見込額を算定する。 ア 復旧・復興事業 イ 震災復興基金への出捐金及び貸付金 ウ その他
発災年度の予算の執行方針の策定	緊急度が高い復旧・復興事業を滞りなく実施するため、優先的に取り組むべき対策と執行を当面凍結すべき事業を抽出し、予算執行方針を策定する。
予算の編成方針の策定	復旧・復興対策を迅速かつ的確に実施するため、当初予算、補正予算を通じた編成方針を策定する。

2 復興財源の確保

(1) 基本方針

災害後の復旧・復興対策実施のための事業費は莫大になることが予想され、災害の影響による税収の落ち込み、財政状況の悪化が懸念される。復旧・復興対策を迅速かつ的確に実施していくため、財源確保に関する適切な措置を講ずる。

(2) 財源確保

区 分	内 容
国・県への要望	復旧・復興対策実施に係る財政需要に対応するため、財源確保に関する特例措置や宝くじ発行等について被災自治体が連携して国・県に要望する。
地方債の発行	復旧・復興対策に係る莫大な財政需要と大幅な税収減に対応するため、県と調整を図りながら次の措置を講じ、財源を確保する。 ア 災害復旧事業債 イ 歳入欠かん等債 ウ その他
その他の財源確保策	復興を目的とした宝くじの発行等による復興財源の確保を検討する。

第5節 震災復興基金の設立

被災者を一日も早く救済し、円滑な自立を支援するとともに、総合的な復旧・復興対策を長期的かつ安定的に進め、被災地域全体の復興を図るため、発災後、必要に応じて県が設立する震災復興基金に協力する。

震災復興基金の設立

- (1) 市長は、復旧・復興対策を円滑に実施するため、県の震災復興基金の設立に協力する。
- (2) 市長は、基金の運用に関して、県と所要の調整を図る。

第6節 復旧事業の推進

基盤施設（道路・河川・港湾及び漁港・農業用施設など公共施設等）の管理者は、必要に応じ再度災害防止の観点をも踏まえた、速やかな復旧事業の推進を図る。

1 復旧計画の策定

(1) 基本方針

被災者の一日も早い復興のためには、これらの活動を支える基盤施設の迅速な復旧が必要不可欠である。そのため、関連する他の基盤施設の被災状況・応急復旧状況及び既存の計画、都市・農山漁村復興計画の動向等を踏まえ、関連する部署や他機関との調整を図った上で迅速かつ計画的な復旧計画を策定する。

(2) 被害状況の把握及び復旧計画の策定

実施主体	内 容	
市	被害調査の報告	各基盤施設の管理者は、管理施設の被害について調査し、円滑な復旧のための措置を講ずる。
	復旧計画の策定	各基盤施設の管理者は、被害の状況、地域の特性等を勘案しながら、県の復旧計画と整合を図り、必要に応じ再度災害防止の観点をも踏まえた復旧計画を作成する。
防災関係機関	状況の把握	管理施設の円滑な復旧のための処置を講ずるため、その被害について調査する。
	復旧計画の策定	被害の状況、地域の特性等を勘案しながら、必要に応じ関係機関と調整を図り、復旧計画を作成する。

2 基盤施設の復旧

(1) 基本方針

基盤施設の管理者は、災害による地域の社会経済活動の低下を最小限にとどめるため、可能な限り迅速かつ円滑な復旧を図るものとする。

(2) 復旧事業の実施及び復旧完了予定時期の明示

実施主体	内 容	
市	復旧事業の実施	復旧計画に基づき、県及び防災関係機関と調整の上、迅速かつ円滑な復旧を図る。
	復旧完了予定時期の明示	基盤施設の管理者は、復旧完了予定時期の明示に努める。
	地籍調査の実施	平時から地籍調査を実施し、被災後の円滑な復旧・復興事業の基礎資料を整備する。
防災関係機関	復旧事業の実施	復旧計画に基づき、必要に応じて関係機関と調整し、迅速かつ円滑な復旧を図る。
	復旧完了予定時期の明示	復旧完了予定時期の明示に努める。

第7節 都市の復興

被災した市街地等の復興を迅速かつ円滑に進め、災害に強く快適で利便性の高い地域の構造的基盤の形成を図るとともに、環境に配慮し、高齢者、障害のある人にきめ細かく配慮した安全で魅力ある地域づくりを行う。

1 都市復興計画の策定

(1) 基本方針

被災者の生活確保及び生活再建のために、これらの活動を支える基盤施設の迅速な復興が必要不可欠である。このため、地域としての面的な被災状況や関連する他の基盤施設の被災状況・応急復旧状況・既存の計画・復旧計画等を踏まえ、必要に応じ新設を含む既存基盤施設の見直しを行い、都市復興計画を策定する。

(2) 都市の復興方針を定めた都市復興計画を策定する。

2 市街地等の復興

(1) 基本方針

ア 都市計画区域内の市街地が被災した場合、都市機能の向上が必要と判断した区域については、合理的かつ健全な市街地の形成を図るため、「震災復興都市計画行動計画」に基づき復興計画を作成し、その計画に基づき市街地を復興する。

イ 市街化区域以外の地域が被災した場合、居住環境の向上等を図る必要がある区域については、災害に強く健全な居住環境の形成を図るため、単なる原状復旧ではなく復興を計画的に実施する。

(2) 市の実施事項

区 分	内 容
被害状況の把握	市は、各機関と協力し被害状況調査を行い、県に報告する。
緊急復興地区の抽出 (市街化区域)	県と連絡調整を図り、緊急に面的整備が必要と判断される区域を緊急復興地区として抽出する。

区 分	内 容
建築基準法第84条による建築制限の実施 (市街化区域)	ア 特定行政庁となる市は、緊急復興地区を対象に「建築基準法」第84条による建築制限区域を必要に応じ、指定する。 イ 必要に応じ、建築制限期間を延長する。
被災市街地復興推進地域の都市計画案作成	都市計画区域について、被災市街地復興推進地域の都市計画案を作成し、都市計画決定を行う。
都市復興基本計画の策定	県の都市復興基本計画を踏まえ、また県と連絡調整を図り、復興の目標、土地利用方針、都市施設の整備方針及び市街地復興基本方針等を示した都市復興基本計画を策定する。
復興都市計画案等の作成及び事業実施	ア 都市計画区域における被災地域全域について、実施する事業制度、活用する補助事業等を検討する。 イ 都市計画事業を実施する場合には、都市計画案の作成・決定を行い事業を実施する。
復興まちづくり支援事業の実施	住民主体の復興まちづくりを行うために、応急危険度判定士の中から建築復興アドバイザーを養成し、住民組織やまちづくり活動への支援・助成等を行う。
集落復興計画案の作成及び実施	土木・農業・林業・漁業関係等の基盤整備事業を活用し復興を行うとした地区については、活用する事業制度等を検討し集落復興計画を作成し実施する。

第8節 被災者の生活再建支援

被災者が新たな生活への意欲を持つことに重点を置き、市民生活の安定を図るための施策を講ずるとともに、自力による生活再建を支援する。

1 恒久住宅対策

(1) 基本方針

被災者の生活再建を支援するため、生活基盤である住宅については、被災者による自力再建を基本とした住宅再建支援を行うとともに、公的住宅の供給を行う。

(2) 公的住宅の供給等

区 分	内 容
住宅復興計画の策定	県の住宅復興計画を踏まえ、また県と連絡調整を図り、住宅復興方針等を定めた市町住宅復興計画を策定する。
県との協議	公的住宅に関する事項等について県と協議を行う。
災害公営住宅等の供給	ア 公有地等のオープンスペースを建設用地として確保し、災害公営住宅等を供給する。 イ 買取り・借上げ方式による災害公営住宅等の供給を推進する。 ウ 特定優良賃貸住宅のストックの活用を図る。
住宅に関する情報提供	相談窓口等において自力再建支援及び公的住宅の入居等に関する情報等を提供する。

2 災害弔慰金等の支給

(1) 基本方針

震災により死亡した者の遺族に対し災害弔慰金を、精神又は身体に著しい障害を受けた者に対し災害障害見舞金を支給する。

(2) 支給対象者及び支給方法

区 分	内 容
支給対象者の把握	「災害救助法」の適用のための調査結果等を活用し、災害弔慰金と災害障害見舞金の支給対象者を把握する。
支給方法の決定及び支給	災害弔慰金と災害障害見舞金の支給方法を定め、「災害弔慰金の支給等に関する法律」に基づき支給する。

3 被災者の経済的再建支援

(共通対策編 第4章 復旧・復興対策 第4節 「被災者の生活再建支援」に準ずる。)

4 雇用対策

(1) 基本方針

県は、静岡労働局、公共職業安定所と連携して、雇用状況を把握し、被災者の経済的な生活基盤を確保するため、雇用維持対策を実施する。また、震災により離職を余儀なくされた被災者の生活再建を図るため、再就職支援策を実施する。

(2) 再就職支援

区 分	内 容
雇用維持の要請	市は、県とともに市内の事業主や業界団体等に対し、雇用の維持を要請するとともに、雇用調整助成金制度の内容等を事業主に迅速に周知し、制度の積極的な活用を促す。
離職者に対する生活支援の要望	雇用保険給付対象者の拡大、給付日数の延長及び手続きの弾力的措置の実施等を県に要望する。
再就職の支援制度の周知	離職者の再就職を促進させるため、各制度の周知を図り活用を促す。 ア きめ細かな職業相談の実施 イ 職業訓練、能力開発の実施 ウ 合同就職説明会等の開催 エ 求人開拓の実施 オ 公共事業を通じた雇用の場の確保
相談業務の実施	雇用に関する相談があった場合には、公共職業安定所に伝達する。

5 要配慮者の支援

(1) 基本方針

要配慮者は、震災による生活環境の変化等に対応することが一般の被災者よりも困難であることから、速やかに安定した生活を回復できるよう積極的な支援を行う。また、生活環境の変化や心理的不安等の理由から身体的及び精神的に変調をきたした被災者が震災から早期に立ち直れるよう、精神的支援策を実施する。

(2) 支援方法等

区 分	内 容
被災状況の把握	「災害救助法」の適用のための調査結果等を活用し、次の事項を把握し県に報告する。また、情報が不足している地域には補足調査を行う。 ア 要配慮者の被災状況及び生活実態 イ 被災地内外の社会福祉施設の被災状況及び再開状況
一時入所の実施	震災により新たに社会福祉施設への入所が必要となった要配慮者に対し、市有施設への一時入所を実施する。

区 分	内 容
福祉サービスの拡充	ア 定員以上の入所者及び通所者を受け入れている市有施設を対象に、人員確保や必要となる設備の導入を行うとともに、民間の施設を対象に支援を行う。 イ 緊急通報システムの整備、巡回の実施といった在宅福祉サービスの充実を図る。 ウ 被災児童等については、学校巡回相談等を実施する。
健康管理の実施	応急住宅に居住する被災住民に対する健康管理体制を確立するとともに、保健管理・栄養指導等を実施する。
民間社会福祉施設の再建支援	社会福祉法人の設置する施設等の民間社会福祉施設の再建を支援する。
メンタルヘルスケアの実施	精神相談窓口を開設するとともに巡回相談を実施し、被災住民に対する相談体制を確立する。

6 生活再建支援策等の広報・PR

(1) 基本方針

被災直後の応急復旧期から復興期にかけて継続的に生じる生活再建関連施策に関する情報提供のニーズに対応し、被災者の一日も早い生活再建を促進するため、生活再建に関する支援施策等の情報提供を積極的に行う。

(2) 広報・PRの実施

区 分	内 容
生活再建支援策等の広報・PRの実施	ラジオ・テレビ等のマスメディア等を用い、次のような生活情報等を整理し、広報・PRする。 ア 義援金の募集等 イ 各種相談窓口の案内 ウ 災害弔慰金の支給等に関する情報 エ 公営住宅への入居や住宅再建支援策等に関する情報 オ 被災者（自立）生活再建支援金に関する情報 カ ボランティアに関する情報 キ 雇用に関する情報 ク 融資・助成情報 ケ その他生活情報等
外国につながる人への広報	外国につながる人を対象とした外国語の情報誌等を作成し配付する。
県外疎開者への広報・PRの実施	全国紙や全国版のテレビ・ラジオや県外の地方公共団体の広報紙等を活用し、県外疎開者に対し震災関連情報を提供する。

7 相談窓口の設置

(1) 基本方針

被災者が速やかに安全で安心できる生活を送れるよう、様々な問題解決への助言や情報提供等の各種生活相談を実施する総合的な相談窓口を設置する。

(2) 相談窓口業務

区 分	内 容
相談窓口等の開設	ア 発災後の生活再建に関する相談ニーズに応じ相談窓口等を設置するとともに、相談担当職員等を動員する。 イ 相談員等の設置に当たり、必要に応じ、県に対して相談員の派遣を要請する。
相談窓口等の業務の遂行	ア 電話や面接等により、必要とされる情報を的確に提供し、様々な生活相談に対応する。 イ 県と十分な連携を図り、相談体制の一層の充実を図る。

区 分	内 容
相談窓口等の閉鎖	相談状況に応じ、相談窓口等の役割が終了したと判断される場合には、これを閉鎖する。

8 保険の活用（地震保険の普及促進）

地震保険は、地震等による被災者の生活安定に寄与することを目的とした公的保険制度であり、被災者の生活再建にとって有効な手段の一つであることから、その制度の普及促進に努めるものとする。

第9節 地域経済復興支援

被災地域の活性化を図り、県内に活力ある経済社会を実現するため、総合的できめ細かな経済支援策を実施する。

1 産業復興計画の策定

基本方針	経済復興を迅速に行うため、市と民間が緊密に連携し、各々の役割分担を着実に実施するため、産業復興方針等を定めた産業復興計画を策定する。計画策定にあたっては、計画策定本部に設置される策定委員会の下部組織として、必要に応じて産業復興計画部会を設置する。
------	---

2 中小企業を対象とした支援

被災した中小企業の自立再建を図るため、中小企業を対象とした事業の場の確保及び資金の調達に関する支援等を実施する。

区 分	内 容
中小企業の被災状況の把握	各機関と協力し、県が行う中小企業の被害状況調査に協力する。
支援制度・施策内容の周知	（１）中小企業を対象とした支援制度・施策の内容を商工団体・業界団体等を通じ、県と連携し、周知する。 （２）次の施策を必要に応じ、実施する。 ア 相談所の設置 イ 電話相談の実施 ウ パンフレットの作成・配布
資金需要の把握	中小企業の被害状況を基に、再建資金等の需要を把握する。
事業の場の確保	中小企業の事業の場を確保するため、共同仮設工場・店舗等の建設の支援等を行う。
金融面での支援	（１）中小企業の経営基盤等の復旧・復興を支援するため、災害融資の手続きを支援する。 （２）融資を円滑に実施するため、信用保証協会に対し協力を求める。
金融機関等への協力の要請	中小企業を対象とする資金貸付手続きの簡易・迅速化・既借入金の償還条件の緩和及び貸付金利の低減等の特例措置を信用保証協会や金融機関等に要請し協力を求める。
新たな支援制度の検討	被災中小企業の融資に対する利子補給制度や助成制度等の新たな支援制度を検討する。

区 分	内 容
国・県への要望	中小企業信用保険法の特別措置及び政府系金融機関による災害特別融資枠の確保等について、県を通じて国に要請する。

3 農林漁業者を対象とした支援

被災した農林漁業関連施設の迅速な災害復旧を図り経営・生活の維持・安定を図るため、農林漁業者を対象とした支援を実施する。

区 分	内 容
農林漁業者の被災状況の把握	各機関と協力し、農林漁業者の被災状況調査を行い、県に報告する。
支援制度・施策内容の周知	(1) 協同組合等を通じ、支援制度・施策の内容を県と連携し周知する。 (2) 次の施策を必要に応じ実施する。 ア 相談所の設置 イ 電話相談の実施 ウ パンフレットの作成・配布
天災融資法に関する措置の実施	天災による被害農林漁業者に対する資金の融通に関する暫定措置法の地域指定を受けるため必要な措置を講ずる。
自作農維持資金に関する事務処理	自作農維持資金に関する事務処理を、迅速かつ的確に実施する。
金融面での措置	市独自の災害対策に関する融資制度を創設し対応する。
金融機関への協力の要請	資金貸付手続きの簡易・迅速化・既借入金の償還条件の緩和・貸付金利の低減等の農林漁業者を対象とした特例措置を農林漁業金融公庫、融資機関等に要請し協力を求める。

4 地域全体に影響を及ぼす支援

地域経済の復興を迅速に軌道に乗せ、地域をより発展させるため、地域全体に影響を及ぼす支援策を実施する。

区 分	内 容
イベント・商談会等の実施	地域全体の経済活動を活性化させるため、次の施策を実施する。 (1) イベント及びプロジェクトの実施 (2) 企業誘致促進のためのセミナー及びイベントの開催 (3) 商談会の開催等
誘客対策の実施	被災観光地のイメージアップ、復興等をPRするため、必要に応じ県や関係団体等と連携し、次の施策を実施する。 (1) 観光地での復興、誘客イベント等の実施 (2) マスコミを活用したPR

別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策

以下は、東海地震に関連する情報が発表された場合における県、市町、住民、自主防災組織、民間事業所、防災関係機関等の防災対応を定めており、従前は第4章として位置付けていたものであるが、現在、気象庁による東海地震に関連する情報の発表は行われていないことから、当面の間地震対策編の別紙として位置付けるものとする。

第1節 防災関係機関の活動

東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時の市及び防災関係機関の防災活動組織、要員の確保及び防災活動の概要について定める。

1 焼津市

【東海地震注意情報発表時等】

区分	内 容	
事前配備体制	事前配備体制の設置	東海地震に関連する調査情報（臨時）が発表されたときは、必要な職員を参集し、情報収集・伝達及び連絡体制を確保する。
焼津市地震災害警戒本部設置準備体制	地震災害警戒本部設置準備体制の設置	東海地震注意情報が発表されたときは、必要な職員を参集して焼津市地震災害警戒本部設置準備体制（以下「警戒本部準備体制」という。）を確保し、焼津市地域防災計画において定める東海地震注意情報発表時の応急対策を的確に実施する。
	組織体制 職員の動員（配備）	ア 警戒本部準備体制の配備体制は、配備基準の第二配備とし、本部員及び本部職員の動員を行う。 イ 本部員及び本部職員は、東海地震注意情報発表の報道に接したときは、動員の命令を待つことなく所定の場所に参集するものとする。

区分	内 容
応急対策の内容	東海地震注意情報発表時に実施する応急対策は、次のとおりである。 (1) 東海地震注意情報の住民等への伝達、地震防災上必要な情報の収集及び伝達並びに県や防災関係機関との情報の共有化 (2) 東海地震注意情報発表時の応急対策上必要な事項、公共交通機関の運行状況、交通情報、生活関連情報、冷静な行動等の広報 (3) 備蓄物資・資機材の確認・点検、必要に応じて施設等の点検・安全措置の準備 (4) 交通渋滞、帰宅困難者の発生等の社会的混乱の防止措置 (5) 県及び防災関係機関が実施する応急対策の連絡調整 (6) 物資等の調達協定締結者との連絡体制の確保、物資調達の準備要請 (7) 志太消防本部消防職員の参集等防災体制の確保、消防団員の連絡体制の確保 (8) 必要に応じて要配慮者の避難のための津波避難場所の開設 (9) 必要に応じて地震災害警戒本部の設置準備 (10) 県への要請・報告等県との応急対策活動の連携 ア 必要に応じ、応急対策の円滑な実施のため県職員の派遣等必要な事項を要請する。 イ 必要に応じ、交通規制その他社会秩序の維持を焼津警察署に要請する。 ウ 市民等の避難の状況及び応急対策の実施状況を県へ報告する。 (11) その他地震防災応急対策の円滑な実施のための準備
消防機関の措置	(1) 消防団は、団員の連絡体制の確保 (2) 必要に応じて市民等の避難誘導

【警戒宣言発令時】

区分	内 容
焼津市地震災害警戒本部	(1) 焼津市地震災害警戒本部の設置 市長は、警戒宣言が発せられたときは、焼津市地震災害警戒本部（以下「焼津市警戒本部」という。）を焼津市消防防災センター1階に設置する。 (2) 焼津市警戒本部組織及び所掌事務 焼津市警戒本部の組織及び所掌事務は、焼津市地震災害警戒本部条例（昭和54年焼津市条例第23号）（資料編（地震対策）別紙－1－1①）及び焼津市災害対策本部等運営規定（昭和58年訓令甲第6号）（資料編（共通対策）3－2－1⑥）の定めるところによるが、その主な概要は次のとおりである。

区分	内 容	
焼津市地震災害警戒本部	組 織	焼津市警戒本部に、本部長、副本部長、本部員及び本部職員を置く。 ア 本部長 （ア）本部長は、市長をもって充てる。 （イ）本部長は、焼津市警戒本部の事務を統括し、本部員及び本部職員を指揮監督する。 イ 副本部長 （ア）副本部長は、副市長をもって充てる。 （イ）副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、その職務を代理する。 ウ 本部員 （ア）市長がその部内の職員のうちから指名する者 （イ）教育長及び教育委員会の事務局の長 （ウ）市議会の事務局長 （エ）志太消防本部職員のうちから市長が委嘱する者及び消防団長 （オ）静岡県警察のうちから市長が委嘱する者 （カ）焼津市の区域において業務を行う指定公共機関又は指定地方公共機関の役員又は職員のうちから市長が任命する者 エ 本部職員は、市の職員から市長が任命する。本部職員は本部員を補佐する。 オ 部及び班 （ア）本部に部を置き、それぞれの部に本部長が定める班を置く。 （イ）部に部長を置き、本部員のうちから本部長が命ずる。 （ウ）班に班長を置き、本部職員のうちから本部員が命ずる。 カ 警戒本部会議 （ア）本部長は、災害対策の重要事項を協議するため、必要と認めたときは本部会議を招集する。 （イ）本部会議は、本部長のもとに副本部長及び本部員をもって構成する。
	所 掌 事 務	焼津市警戒本部は、概ね次の事項を実施する。 ア 警戒宣言、東海地震予知情報の市民等への伝達並びに地震防災上必要な情報の収集及び伝達 イ 県への報告、要請等県との地震防災活動の連携 （ア）必要に応じ、地震防災応急対策の実施に関し、県職員の派遣等必要な事項を要請する。 （イ）必要に応じ、交通規制その他社会秩序の維持を焼津警察署に、また、地震防災応急対策を実施すべき者に対する指示等を県・県警察本部等にそれぞれ要請する。 （ウ）市民等の避難の状況及び地震防災対策の実施状況を県へ報告する。 ウ 避難の指示又は警戒区域の設定 エ 志太消防本部職員、消防団員及び水防団員の配備等、災害が発生した場合の応急措置の準備 オ 消防、水防等の応急措置 カ 避難者等の救護 キ 緊急輸送の実施 ク 活動拠点の施設管理者に対する開錠等の依頼及び自衛隊先遣部隊の受入 ケ 災害発生に備えた食料、医薬品、救助用資機材等の確保準備 コ 自主防災組織活動の指導、連携 サ その他地震防災上の措置
	職 員 の 動 員 （ 配 備 ）	ア 警戒本部設置時の配備体制は、配備基準の第三配備とし、市長は、市職員全員の動員を行う。 （資料編（地震対策）別紙－１－１②） イ 市職員は、判定会招集及び警戒宣言の発令の報道に接したときは、動員の命令を待つことなく所定の場所に参集する。

区分	内 容
その他地震防災上の措置	消防団、水防団 ア 情報の収集と伝達 イ 消火活動、水防活動、救助活動の出動体制の確立 ウ 火気使用の自粛を住民へ伝達するためのパトロールの実施 エ 水利の確保（流水の堰止め等を含む。） オ 市民等の避難誘導 カ 資機材の点検、配備及び確保準備 キ 警戒区域からの避難確保のパトロール ク 救助用資機材の確保準備 ケ その他状況に応じた防災、水防活動

2 消防機関

区 分	内 容
志太消防本部	焼津市警戒本部、防災関係機関と緊密な連携をとり、次の措置を講ずる。 （１）情報の収集と伝達 （２）消火活動、救助活動の出動体制の確立 （３）地域住民への避難の指示の伝達 （４）出火防止のための広報 （５）消防職員の参集等防災体制の確保 （６）消防職員の配備等、災害が発生した場合の応急措置の準備

3 静岡県警察（焼津警察署）

区 分	内 容
静岡県警察 （焼津警察署）	（１）地震関連情報の収集伝達 （２）民心安定等のための広報 （３）避難指示の伝達、退去の確認及び津波避難場所の安全確保・秩序維持等 （４）社会秩序維持のための取締等 （５）交通路、避難路、緊急輸送路の確保

4 防災関係機関

【東海地震注意情報発表時】

区 分	内 容
防災体制の確保	東海地震注意情報が発表されたときは、平常の業務を継続しつつ、各機関の防災業務計画等に定める東海地震注意情報発表時の応急対策及び警戒宣言発令時の地震防災応急対策を迅速・円滑に実施するために、必要に応じて職員の参集や連絡体制の確保を行う。
応急対策	東海地震注意情報発表時の応急対策として、概ね次の措置を講ずるものとし、その具体的内容については各々の防災業務計画等に定める。 ア 東海地震注意情報その他防災上必要な情報の収集・伝達、県や市町との情報の共有 イ 利用者に対する東海地震注意情報の伝達及び応急対策上必要な事項等の広報 ウ 備蓄物資・資機材等の確認・点検、施設等の点検、必要に応じて安全措置の実施 エ 利用者等の社会的混乱を防止する活動 オ 県及び市町が実施する応急対策の連絡調整 カ 東海地震応急対策活動要領等に基づく広域的な応援の受入れ準備 キ その他地震防災応急対策の円滑な実施のための準備

【警戒宣言発令時】

防災関係機関は、地震防災応急対策として、概ね次の措置を講ずるものとする。

(1) 指定地方行政機関

機 関 名	地震防災応急対策として講ずる措置
総務省東海総合通信局	災害時に備えての電気通信施設（有線電気通信施設及び無線通信施設）の整備のための調整及び電波の監視
総務省中部管区行政評価局（静岡行政監視行政相談センター）	被災者への情報提供及び行政相談等を実施するための準備
財務省東海財務局（静岡財務事務所）	金融業務の円滑な遂行の確保を図るための準備
農林水産省関東農政局 静岡県拠点	農林水産省各局庁、関東農政局企画調整室及び静岡県拠点地方参事官、森林管理局の指示により静岡県に連絡要員（リエゾン）を派遣し、以下の業務を実施する。 ア 農作物、営農施設、農地・農業用施設及び森林・林業施設等の被害状況や応急対策の措置状況等に関する、被災自治体が把握している情報の収集及び地方農政局又は森林管理局への報告 イ 応急用食料・物資の支援に係る静岡県担当者、内閣府リエゾン及び農林水産本省（食料・物資支援チーム事務局等）との連絡調整 ウ 静岡県の食料・物資支援拠点における応急用食料・物資の到着状況に関する、食料・物資支援チーム事務局及び関東農政局への報告 エ その他農林水産本省各局庁、関東農政局又は森林管理局が指示する業務
農林水産省関東農政局	ア 情報収集 イ 関係機関との連絡調整 ウ 農地、農業用施設（ダム、堤防、ため池、農道等）の管理、指導
経済産業省 関東経済産業局	ア 防災関係物資の適正な価格による円滑な供給の確保 イ 商工鉅業事業者の業務の正常な運営の確保
国土交通省 中部地方整備局 （静岡河川事務所、静岡国道事務所、清水港湾事務所）	ア 施設対策等 （ア）河川管理施設等の対策等 （イ）道路施設対策等 （ウ）港湾施設対策等 （エ）営繕施設対策等 （オ）電気通信施設等対策等 イ 災害対策用建設機械等の出動及び管理 ウ 他機関との協力 エ 広報
国土地理院 中部地方測量部	関係機関とさらなる情報の共有を図り、密接な連携をとりながら、全力をあげて実態に即応した効果的な措置を図る。
気象庁東京管区气象台 （静岡地方气象台）	ア 県知事に対する東海地震予知情報の通報 イ 東海地震予知情報等の照会に対する応答と解説 ウ 異常現象に関する情報が市町長から通報された場合、すみやかに気象庁本庁に報告し、適切な措置を講ずること。
海上保安庁 第三管区海上保安本部 （清水海上保安部）	ア 港内在泊船舶に対する東海地震予知情報及び警戒宣言発令の伝達 イ 湾内における船舶交通の入港制限、禁止 ウ マリンレジャー等を行っている者に対する情報伝達 エ 海上における治安の維持、海上交通の安全確保 オ 中部運輸局と協力して海運事業者の応急措置の実施指導

(2) 指定公共機関

機 関 名	地震防災応急対策として講ずる措置
日本郵便株式会社東海支社 (焼津郵便局)	ア 利用者に対する警戒宣言の伝達及び避難誘導 イ 郵便業務の取り扱い及び郵便局における窓口業務等の取り扱いを一時停止する旨の広報 ウ 郵便物、施設等の被災防止
日本赤十字社静岡県支部	ア 医療救護班の派遣準備 イ 血液製剤の確保及び供給の準備 ウ 救援物資の配布準備 エ 災害救助の協力奉仕者の連絡調整
日本放送協会（静岡放送局）	ア 地震に関する情報の迅速な伝達 イ 市及び防災関係機関の依頼によるテレビ、ラジオによる防災放送
中日本高速道路株式会社 (東京支社)	ア 警戒宣言等の伝達 イ 地震発生後に備えた資機材、人員等の配備手配 ウ 交通対策 エ 緊急点検
東海旅客鉄道株式会社、 日本貨物鉄道株式会社	ア 列車の運行状況、旅客の避難実施状況等の広報 イ 列車の運転規制 ウ 旅客の避難、救護 エ 発災後に備えた資機材、人員等の配備手配
NTT西日本株式会社 (静岡支店)、 株式会社NTTドコモ東海支社 (静岡支店)	ア 通信の異常ふくそうが起きないように広報の実施 イ 防災関係機関の重要通信の優先接続 ウ 地震発生後に備えた資機材、人員の確保及び配置
岩谷産業株式会社、 アストモスエネルギー株式会 社、 株式会社ジャパングスエナジ ー、 ENEOSグローブ株式会社、 ジクシス株式会社	LPガスタンクローリー等によるLPガス輸入基地、2次基地から充填所へのLPガスの配送
日本通運株式会社(焼津支店)、 福山通運株式会社(焼津支店)、 佐川急便株式会社(大井川営業所)、 ヤマト運輸株式会社 (大井川センター)、 西濃運輸株式会社(藤枝支店)	防災関係機関の要請に基づく緊急輸送の確保
中部電力株式会社、 中部電力パワーグリッド株式 会社(藤枝営業所)	ア 支店及び各事業場等に地震災害警戒本部(非常災害対策本部)の設置 イ 動員体制を確立するとともに、状況に応じ他支店並びに協力会社等に対し動員準備を要請 ウ 地震防災応急措置の実施状況を支店で掌握し対策を促進 エ 電気による災害の予防広報の実施 オ 電力施設について、必要に応じ特別巡視、点検、応急安全措置等の実施 カ 工具、車両、発電機車、変圧器車並びに食料等を整備確認して緊急出動に備えるとともに、手持資機材の数量の確認及び緊急確保
KDDI株式会社、 ソフトバンク株式会社	重要な通信を確保するために必要な措置の実施
一般社団法人日本建設業連合 会中部支部、 一般社団法人全国中小建設業 協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力

(3) 指定地方公共機関

機 関 名	地震防災応急対策として講ずる措置
一般社団法人静岡県医師会、 一般社団法人静岡県歯科医師会、 公益社団法人静岡県薬剤師会、 公益社団法人静岡県看護協会、 公益社団法人静岡県病院協会	ア 救護所等への医療従事者の派遣又は派遣準備 イ 救護班の派遣又は派遣準備
東海ガス株式会社	ア 需要家に対する都市ガスによる災害予防広報 イ 施設の点検等災害予防措置
一般社団法人静岡県ＬＰガス協会（藤枝地区会）	ア 需要家に対するＬＰガスによる災害の予防の広報 イ 協会加盟事業所による施設及び設備の点検等災害予防措置
静岡放送株式会社、 株式会社テレビ静岡、 株式会社静岡朝日テレビ、 株式会社静岡第一テレビ、 静岡エフエム放送株式会社	ア 報道特別番組の編成 イ 東海地震予知情報、国、県、市町、防災関係機関等の地震防災応急対策実施状況の放送 ウ 知事の呼びかけ、県内各地の状況、防災措置の状況等の放送
一般社団法人静岡県トラック協会（中部分室）、 一般社団法人静岡県バス協会、 商業組合静岡県タクシー協会（志太榛原支部焼津市区）	防災関係機関の要請に基づき、協会加盟事業所からの緊急輸送車両の確保
土地改良区 （大井川土地改良区）	ア 地震発生に備えた資機材、人員等の配置の手配 イ 緊急点検

(4) 自衛隊

【東海地震注意情報発表時】

自衛隊は、東海地震注意情報が発表されたときは、次の措置を講ずるものとする。

機 関 名	地震防災応急対策として講ずる措置
陸上自衛隊東部方面隊 ほか	ア 非常勤務態勢への移行 イ 指揮所の開設 ウ 各部隊の災害派遣準備 エ 情報組織の展開 オ 県庁等への連絡班の派遣 カ 通信組織の編成等
海上自衛隊横須賀地方隊 ほか	ア 指揮所の設置準備 イ 各部隊の災害派遣準備 ウ 県庁等への連絡班の派遣等 エ 県及び防災関係機関との連絡体制の強化
航空自衛隊第１航空団 （浜松基地）ほか	ア 非常勤務態勢への移行 イ 指揮所の開設 ウ 情報組織の展開 エ 県庁等への連絡班の派遣 オ 偵察機の待機及び航空機の避難準備等

【警戒宣言発令時】

自衛隊は、警戒宣言が発せられたときは、次の措置を講ずるものとする。

機 関 名	地震防災応急対策として講ずる措置
陸上自衛隊東部方面隊 ほか	ア 県庁等への方面現地調整所の開設 イ 地震防災派遣及び発災後の災害派遣の準備 ウ 地震防災派遣命令による航空機を主体とする避難・交通状況の把握及び人員・物資の緊急輸送等の支援
海上自衛隊横須賀地方隊 ほか	ア 指揮所の設置（防災派遣命令後） イ 災害派遣部隊を編成し即応態勢を確立 ウ 地震防災派遣を開始 エ 東部方面総監部への連絡員の派出 オ 災害派遣部隊の前進拠点への事前派遣等
航空自衛隊第1航空団 （浜松基地）ほか	ア 地震防災派遣及び災害派遣の準備命令に基づく航空機等の待機強化 イ 地上部隊の災害派遣の準備 ウ 浜松基地等の練習機の域外基地への避難 エ 救難機の周辺基地への集中 オ 地震防災派遣命令に基づく航空救難団及び偵察航空隊の一部をもってヘリコプターによる情報収集・伝達、人員・物資の緊急輸送、偵察機による上空撮影・解析

第2節 情報活動

東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時における情報の収集、伝達を迅速かつ的確に実施するため、市、県及び防災関係機関の連携の強化、情報の一元化を図ることを基本として、情報の収集及び伝達体制の整備を推進することを目的とする。

1 焼津市、志太消防本部

区 分	内 容						
東海地震注意情報、警戒宣言及び東海地震予知情報の受理、伝達、周知	(1) 県から通知される東海地震注意情報、警戒宣言、東海地震予知情報の受理については、勤務時間内においては防災担当課、勤務時間外及び休日等においては、志太消防本部情報指令課において行うものとする。 なお、焼津市警戒本部設置後においては、焼津市警戒本部において受理するものとする。 (2) 警戒宣言が発せられたことを知ったときは、直ちに地震防災信号（サイレン、警鐘）を用いて、地域住民等に伝達するものとする。						
	防災信号の吹鳴パターン <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">サイレン</td><td>吹鳴（約45秒） 休止（約15秒）</td></tr> <tr> <td>—————</td></tr> <tr> <td rowspan="2">警鐘</td><td>5点連打</td></tr> <tr> <td>○—○—○—○—○</td></tr> </table> (3) 東海地震注意情報、東海地震予知情報は、同時通報用無線、電話、広報車、自主防災組織・消防団等を通じての個別連絡により周知徹底を図るものとする。 (4) 職員に対する伝達は、勤務時間内は主に庁内放送で行い、勤務時間外、休日等については、資料編（地震対策）別紙－1－1②に定める情報伝達系統により行う。	サイレン	吹鳴（約45秒） 休止（約15秒）	—————	警鐘	5点連打	○—○—○—○—○
サイレン	吹鳴（約45秒） 休止（約15秒）						
	—————						
警鐘	5点連打						
	○—○—○—○—○						

区 分	内 容
地震防災活動に関する情報の収集及び伝達	東海地震注意情報発表時の応急対策及び地震防災応急対策を迅速かつ円滑に実施するための措置として、あらかじめ収集及び伝達すべき情報について、その種類、優先順位、取扱い部局等を定めておくものとする。また、消防団員、自主防災組織の構成員の中から地域における情報収集責任者をあらかじめ定め、迅速・的確な情報の収集にあたるものとする。 (1) 警戒本部設置前における措置は次のとおりである。 ア 各所属の長は、地震に関する情報を受けたときは、防災担当筆頭課に通報する。 イ 防災担当筆頭課長は、通報又は直接収集した情報をとりまとめ、庁内各部課長に通報し重要事項と認めたときは市長等に報告する。 ウ 警戒本部が設置されたときは全ての情報及び資料を警戒本部に引き継ぐものとする。 (2) 警戒本部における措置は次のとおりである。 ア 警戒本部は災害に関する全ての情報を接受し、情報処理にあたる。 イ 自主防協力班員は、災害に関する情報を全て警戒本部に通報する。 (3) 情報の種類の主なものは、次のとおりである。 ア 避難の状況 イ 交通機関の運行及び道路交通の状況 ウ 防災関係機関の東海地震注意情報発表時の応急対策及び地震防災応急対策の実施状況 エ ガス、水道、電気等生活関連施設の運営状況 オ 情報の変容、流言等の状況 カ 住民生活、社会・経済活動等の状況 キ 避難の指示又は警戒区域の設定（地震防災応急対策実施時のみ） ク 志太消防本部職員・消防団員等の配備命令（地震防災応急対策実施時のみ） ケ 地域内事業所等に対する地震防災応急対策の実施の指示等（地震防災応急対策実施時のみ）
県地震災害警戒本部に対する報告	東海地震注意情報発表時から東海地震注意情報が解除されるまで又は警戒宣言が発令されてから東海地震が発生するまで若しくは警戒宣言が解除されるまでの間において、県警戒本部等への報告は、中部方面本部を通じて「情報広報実施要領」に定める項目について、速やかに行うものとする。 その主なものは、次のとおりである。 (1) 避難の状況 (2) 市において東海地震注意情報発表時に実施する応急対策及び地震防災応急対策の実施状況

2 防災関係機関

区 分	内 容
東海地震予知情報等の収集及び伝達	県から伝達される東海地震注意情報、東海地震予知情報の受理については、受信方法、受領者を別に、あらかじめ県に届けるものとする。
地震防災活動に関する情報の収集及び伝達	(1) 収集方法 各機関においては、東海地震注意情報発表時の応急対策及び地震防災応急対策の実施に必要な情報を自らの責任において収集するものとする。 (2) 警戒本部への報告 「情報広報実施要領」に定める項目について、速やかに報告するものとする。

第3節 広報活動

東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時において正しい情報を正確かつ迅速に提供し、民心の安定を図るとともに市民等が的確な応急対策ができるよう必要な広報について定める。

広報の際には、要配慮者に配慮するものとする。

1 焼津市

区 分	内 容
広 報 事 項	市は、東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時において、正しい情報を迅速に提供し民心の安定を図るとともに、住民等が的確な応急対策ができるよう必要な事項について広報する。広報すべき事項は県に準ずるものとし、特に重要な広報事項については、広報文案をあらかじめ作成しておくものとする。 なお、広報事項はおおむね次のとおりである。 (1) 東海地震注意情報、警戒宣言及び東海地震予知情報の内容と意味 (2) 避難対象地区に対する避難指示等 (3) 交通機関運行状況及び道路情報 (4) 家庭において実施すべき防災対策 (5) 自主防災組織に対する防災活動の要請
広報実施方法	(1) 同時通報用無線、コミュニティFM、CATV、広報車等 (2) 自主防災組織を通じての連絡 (3) 県に対する広報の要請 市が防災応急対策等の必要な広報を県へ要請する場合は、県が定める様式により広報文を添えて要請する。

2 防災関係機関

区 分	内 容
広 報 事 項	防災関係機関は、東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時において、正しい情報を迅速に提供し民心の安定を図るとともに、住民等が的確な応急対策ができるよう必要な事項について広報する。広報する事項は県が定める「情報広報実施要領」による。 なお、その主なものは、次のとおりである。 (1) 電気、ガス、水道、電話、交通等生活関連施設の運営状況 (2) 東海地震注意情報発表時に実施する応急対策及び地震防災応急対策の実施状況
広報実施方法	広報は、各防災関係機関の責任において報道機関等の協力を得て行う。この場合、市と連携を密にするものとする。

3 市民等が地震防災活動上必要な情報を入手する方法

市民等に対しては、次の方法により、それぞれ情報が伝達されるので、各人がそれぞれ正確に情報を把握し、的確な防災活動を行うものとする。

情 報 源	情 報 内 容
緊急警報放送受信機付きラジオ	警戒宣言
ラジオ、テレビ	東海地震注意情報、警戒宣言、東海地震予知情報、交通機関運行状況、地域の情報・指示・指導等
同時通報用無線、コミュニティFM、CATV、広報車	主として市域内の情報、指示、指導等

情 報 源	情 報 内 容
携帯電話、スマートフォン	緊急地震速報、地域の情報・指示・指導等
自主防災組織を通じての連絡	主として市からの指示、指導、救助措置等
インターネット	地域の情報・指示・指導等
サイレン、半鐘	警戒宣言が発せられたことの伝達

第4節 自主防災活動

東海地震注意情報発表時から東海地震注意情報が解除されるまで又は警戒宣言が発令されるまでの間及び警戒宣言発令時から地震が発生するまで又は警戒宣言が解除出されるまでの間において、市が東海地震注意情報発表時の応急対策及び地震防災応急対策を迅速、的確に実施し、かつ、市民の生命と財産を市民自らの手で守るため、各自主防災組織が行う対策活動を定める。

【東海地震注意情報発表時】

警戒宣言発令時の地震防災応急対策を迅速・的確に実施するため、必要に応じて次の準備的措置を実施する。

準備的措置	(1) 自主防災組織の役員等の所在確認等の連絡体制の確保 (2) 警戒宣言発令時の自主防災組織本部の設営のための資機材、備蓄食料等の確認 (3) 災害発生時の医療救護体制を確保するため、救急の場合を除き、病院・診療所での外来診療の受診を控えるよう呼びかけ (4) 住民等に東海地震注意情報の発表を周知するとともに、冷静な行動の呼びかけ (5) 東海地震注意情報発表時に、津波・山・がけ崩れの危険が予想される避難対象地区内の災害時要援護者が避難を開始する場合にあっては、警戒宣言発令時の地震防災応急対策における避難行動及び避難生活に準じて避難対策を実施する。 なお、避難の実施にあたっては、市や津波避難場所の施設管理者等と十分な連携を確保する。
-------	---

【警戒宣言発令時】

区 分	内 容
自主防災組織本部の設営	自主防災組織の会長は、警戒宣言の発令とともに各班のリーダーを招集し、防災活動拠点として、自主防災組織の本部を設営する。(資料編(地震対策)別紙-4-1)
市職員の派遣	市長は、各自主防災組織の本部へ市職員(自主防協力班員)を派遣し、災害情報・避難状況等を自主防災組織を通じて収集し、警戒本部へ伝達する。
情報の収集・伝達	(1) 市からの警戒宣言及び東海地震予知情報等が、正確に全家庭に伝達されているか確認に努める。 (2) 東海地震予知情報等をテレビ、ラジオで入手するように努める。 (3) 応急対策の実施状況について、必要に応じ市へ報告する。
初期消火の準備	可搬ポンプ等の初期消火機材の点検及び準備を行い、初期消火活動に必要な態勢をとる。
防災用資機材等の配備・活用	防災倉庫等に保管中の資機材を点検し、必要な場所に配備するとともに、担当要員を確認する。

区 分	内 容	
家庭内対策の徹底	次の事項について、各家庭へ呼びかける。	
	家具の転倒防止	家具類の固定状況を確認する。
	落下等防止	タンス、食器戸棚、本棚等の上部の整理及び窓ガラスにガムテープを貼る等安全対策を施す。
	出火防止	火気危険物の除去、消火器の確認及び水のくみおき等出火の防止対策を講ずるとともに、火はできる限り使わない。避難時にはブレーカーを落としてから避難する。
	備蓄食料・飲料水の確認	備蓄食料及び飲料水を確認する。
	病院・診療所の外来診療	災害発生時の医療救護体制を確保するため、救急の場合を除き、病院・診療所での外来診療の受診を控える。
避難活動	避難行動	(1) 津波、山・がけ崩れ等危険予想地域の住民等に対して市長等の避難指示を伝達し、危険予想地域外の津波避難場所へ避難させる。避難状況を確認後、市に報告する。 (2) 自力避難の困難な避難行動要支援者については、必要な場合には、自主防災組織において津波避難場所まで搬送する。 (3) 山間地で津波避難場所までの距離が遠く、徒歩による避難が著しく困難な避難対象地区（警戒宣言が発せられた時に市長の避難の指示の対象となる地域）で、避難行動の実効性を確保するためにあらかじめ車両を活用することを市長が認めた地区においては、定められた避難計画に基づき速やかに津波避難場所まで避難する。
	避難生活	(1) 避難生活を行うに際し、あらかじめ定めた「避難生活計画書」等に基づき、避難所等における役割分担を行うとともに、避難生活に必要な天幕、テント、ビニールシート等の準備を行い、秩序ある避難所等の運営が迅速に行われるように努める。 (2) 医療救護活動及び防疫、清掃等の保健活動に必要な資機材を準備する。 (3) 飲料水、食料等の生活必需品に不足が生じた場合は、市町等と連絡を取り、その確保に努める。
社会秩序の維持	(1) ラジオ、テレビ、同時通報用無線等による正確な情報の伝達に努め、流言ひ語発生を防止して、社会秩序を乱すことがないように努める。 (2) 生活物資買い占め等の混乱が生じないように、住民に対して呼びかけをして、物資の公平で円滑な供給に協力する。	

第5節 緊急輸送活動

警戒宣言発令時の緊急輸送を円滑に行うため、必要な車両、人員、機材等の確保について定める。また、地震発生後の緊急輸送を円滑に行うための準備について定める。

なお、東海地震注意情報発表時においては、警戒宣言発令時の緊急輸送を円滑に実施するために必要な輸送手段や人員・資機材の点検や確認、連絡体制の確保などの準備的措置を実施する。

1 焼津市

区 分	内 容								
緊急輸送対象の基本方針	(1) 市の地震防災応急対策を実施するために必要な緊急輸送は、市が行うことを原則とする。 (2) 市は、自衛隊の支援による緊急輸送が特に必要であるときは、県に対し、必要な措置を要求するものとする。 (3) 警戒宣言発令時の緊急輸送は、地震防災応急対策の実施に最低必要な人員、物資について行う。 (4) 地震発生後の緊急輸送活動を円滑に行うための要員、車両、船舶、燃料の確保等について、輸送関係機関の協力を求め、輸送の準備を行う。 (5) 警戒宣言発令後、相当期間が経過し、市内における食料、その他の物資に不足が生じた場合には、必要に応じ、県の地震災害警戒本部と協議し、緊急輸送を行う。								
緊急輸送の対象となる人員、物資等	(1) 防災活動要員の配備又は配備替え及び防災活動に要する最小限の資機材 (2) 緊急の処置を要する患者 (3) 観光客等 (4) その他 輸送の安全が確保される場合に限り、状況に応じて次の輸送を行う。 ア 食料 イ 日用品等 ウ その他緊急に輸送を必要とするもの。								
輸送体制の確立	(1) 輸送の方法 <table border="1"> <tr> <td>陸上輸送</td><td>緊急輸送路により必要な輸送を行う。 (資料編(地震対策)別紙-5-1)</td></tr> <tr> <td>海上輸送</td><td>原則として海上輸送は行わないものとする。</td></tr> <tr> <td>航空輸送</td><td>県等のヘリコプターによるほか、県の警戒本部に対し、航空輸送のための自衛隊ヘリコプターの地震防災派遣を要請するものとする。この場合、あらかじめ指定したヘリポートを活用する。</td></tr> </table> (2) 輸送手段の確保 次により、輸送手段の確保を図る。 ア 市有車両の活用 イ 民間車両等の借上げ ウ 輸送手段確保のための県への協力要請 エ 燃料等の確保のための関係業界への協力要請	陸上輸送	緊急輸送路により必要な輸送を行う。 (資料編(地震対策)別紙-5-1)	海上輸送	原則として海上輸送は行わないものとする。	航空輸送	県等のヘリコプターによるほか、県の警戒本部に対し、航空輸送のための自衛隊ヘリコプターの地震防災派遣を要請するものとする。この場合、あらかじめ指定したヘリポートを活用する。		
陸上輸送	緊急輸送路により必要な輸送を行う。 (資料編(地震対策)別紙-5-1)								
海上輸送	原則として海上輸送は行わないものとする。								
航空輸送	県等のヘリコプターによるほか、県の警戒本部に対し、航空輸送のための自衛隊ヘリコプターの地震防災派遣を要請するものとする。この場合、あらかじめ指定したヘリポートを活用する。								
緊急輸送の調整	市及び防災関係機関の緊急輸送の円滑な実施を確保するため、必要があるときは県警戒本部において調整を行う。この場合、次により調整することを原則とする。 <table border="1"> <tr> <th>優先順位</th><th>内 容</th></tr> <tr> <td>第1順位</td><td>市民等の生命の安全を確保するため必要な輸送(救急患者等の輸送等)</td></tr> <tr> <td>第2順位</td><td>防災活動要員、緊急物資等地震防災応急対策を実施するため必要な輸送(防災活動拠点への人員、物資輸送等)</td></tr> <tr> <td>第3順位</td><td>地震発生後の活動の準備のための輸送(食料、日用品、防災資機材の輸送等)</td></tr> </table>	優先順位	内 容	第1順位	市民等の生命の安全を確保するため必要な輸送(救急患者等の輸送等)	第2順位	防災活動要員、緊急物資等地震防災応急対策を実施するため必要な輸送(防災活動拠点への人員、物資輸送等)	第3順位	地震発生後の活動の準備のための輸送(食料、日用品、防災資機材の輸送等)
優先順位	内 容								
第1順位	市民等の生命の安全を確保するため必要な輸送(救急患者等の輸送等)								
第2順位	防災活動要員、緊急物資等地震防災応急対策を実施するため必要な輸送(防災活動拠点への人員、物資輸送等)								
第3順位	地震発生後の活動の準備のための輸送(食料、日用品、防災資機材の輸送等)								

2 防災関係機関

地震防災応急対策を実施するため必要な緊急輸送は、防災関係機関がそれぞれ行うことを原則とする。

第6節 自衛隊の支援

警戒宣言が発せられた場合、市は、地震防災応急対策を迅速かつ的確に実施するため必要があると認めるときは、知事に対して自衛隊の地震防災派遣要請を要求要請するものとする。

区 分	内 容
災害派遣要求範囲	警戒宣言発令後、自衛隊の支援を要求する事項は次のとおりである。 （１）航空偵察による避難、交通状況等の情報の提供 （２）地震発生直前の現況航空写真の作成 （３）特定の緊急患者の移送 （４）防災要員等の輸送
県の現地警戒本部等に対する要求	市長は、知事に対し次の事項を示して、自衛隊の派遣要請の要求をする。 （１）派遣要請の要求事由 （２）派遣を希望する期間 （３）派遣を希望する区域及び活動内容 （４）その他参考となるべき事項
地震防災派遣部隊の受入	（１）市は、自衛隊が派遣された場合の業務が円滑に行われるよう、必要な受入体制をとる。 （２）市は、自衛隊が派遣された場合の業務が円滑に行われるよう、県中部方面本部との連絡調整を行う。

第7節 避難活動

市長その他避難の実施及び安全等の措置を講ずる者（以下「避難実施等措置者」という。）は、警戒宣言が発せられたときは、地域住民、施設の利用者等が迅速かつ安全に避難し、生命及び身体の安全が確保できるよう、避難の計画を定める。

なお、東海地震注意情報が発表されたときであっても、津波避難場所までの距離が遠い等の理由により、警戒宣言発令後では迅速・円滑な避難が困難な地域にあっては、市町や自主防災組織、津波避難場所の施設管理者等と十分調整の上、避難行動要支援者等（介護者等も含む）の避難を実施することができるものとする。

この避難計画を定めるに当たっての基本とすべき事項を示す。

避難対策

区 分	内 容
基本方針	（１）市が、焼津市地域防災計画において明らかにした、津波の浸水及び山・がけ崩れの発生の危険が予想されるため、警戒宣言時に避難の指示の対象となる地域（以下「避難対象地区」という。）の住民等は、警戒宣言が発せられた時は、速やかに危険予想地域以外の津波避難場所へ避難する。また、東海地震注意情報が発表されたときは、避難対象地区のうち、津波避難場所までの距離が遠い等の理由により警戒宣言発令後では迅速・円滑な避難が困難な地域であって、かつ当該地区の住民等のうち避難行動要支援者等（介護者等を含む）に限り、避難を実施することができるものとする。 （２）避難対象地区の住民等が津波避難場所まで避難するための方法については、徒歩によるものとする。ただし、山間地で津波避難場所までの距離が遠く、徒歩による避難が著しく困難な「避難対象地区」の住民等については、地域ごとの実情に応じて車両の活用の適否を検討するなど、避難行動の実効性を確保するよう努めるものとする。 （３）避難誘導や津波避難場所での生活にあたっては、要配慮者に配慮するものとする。

区 分	内 容	
基本方針	(4) その他の地域の住民等は、居住する建物の耐震性・地盤等の状況に応じて、必要がある場合、自主防災組織が定める付近の安全な空地等へ避難する。	
避難のための指示	指示の基準	市長は、警戒宣言が発令されたときは、原則として「避難の指示」を行うものとする。
	指示の伝達方法	市長は、警戒宣言発令後速やかに避難対象地区の住民等に対し、同時通報用無線、広報車等により避難の指示を行うものとする。また、警察署及び、海上保安部に対し、避難の指示の伝達について協力を要請するものとする。なお、市は、必要に応じ避難の指示に関し、テレビ・ラジオによる放送を県に依頼する。
	避難に関する周知事項	市、志太消防本部及び焼津警察署は、常日頃から避難対象地区住民に対し、避難に関する次の事項について周知を図るとともに、東海地震注意情報が発表された時は、東海地震注意情報が発表されたこと、あらかじめ指定された地域にあっては避難行動要支援者等は避難を開始できること等、また、警戒宣言が発せられた時は、警戒宣言が出されたこと、避難すべき地区名、避難する時期等の伝達に努める。 (1) 避難対象地区の地区名 (2) 出火防止措置、消火器の点検、貯水、家具の転倒防止措置等の地震防災 応急対策の実施 (3) 避難経路及び避難先 (4) 避難する時期 (5) 避難行動における注意事項（携行品、服装等）
警戒区域の設定	警戒区域設定対象地域	市は、警戒宣言が発令された場合に、避難対象地区のうち、「大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）」（以下この章で「法」という。）第26条において準用する「災害対策基本法（昭和36年法律第223号）」第63条の規定に基づく警戒区域として設定すべき地域をあらかじめ選定し、上記の「避難に関する周知事項」に準じて周知を図る。
	警戒区域設定に伴う規制の内容及び実施方法	市長は、警戒宣言が発せられた時は速やかに警戒区域の設定を行い、退去又は立入り禁止の措置をとる。また、市長は、警察官、海上保安官の協力を得て、住民等の退去を確認するとともに、可能な限り、防犯・防火のためのパトロールを実施するように努める。
避難方法	住民の避難	市と自主防災組織があらかじめ協議して定めた津波避難場所へ避難するものとする。
	病院、旅館、観光施設等不特定かつ多数が出入りする施設等の避難	(1) 施設等の管理者は、建物の耐震性等を考慮し、必要に応じてあらかじめ施設等の周辺の安全な場所を津波避難場所と定め、その場所及び避難路等を施設利用者に事前に周知徹底するとともに従事者に所要の訓練を実施するものとする。市が定めた津波避難場所を避難先とする場合は、あらかじめ市長と協議する。 (2) 避難の実施にあたっては、管理者及び従業員が安全に避難誘導するものとし、また、管理者は可能な限り津波避難場所での食料、飲料水、寝具の供給又はあっせんを行うものとする。
避難方法	保育園、幼稚園、学校の避難	(1) 幼児、児童、生徒は、あらかじめ定めた方法により保護者へ引き渡す。 (2) 引き渡しができない幼児、児童、生徒については、校内で適切な場所に避難するものとする。
	近隣市町への避難	津波警報が気象庁により発表された場合などは、近隣市町の協力により、一時的に市外へ避難することができるものとする。

区 分	内 容
避難計画の作成	避難実施等措置者は、あらかじめ市、自主防災組織、津波避難場所の施設管理者等と十分に調整を図り、津波避難場所、避難路、避難方法、避難誘導責任者及び避難開始時期等を内容とする避難計画を別に定める指針により作成し、地域住民、施設の利用者等に周知徹底し、避難の円滑化を図るものとする。 避難計画の策定にあたっては、要配慮者の避難誘導、津波避難場所での生活等に配慮するものとする。
避難状況の報告	(1) 市は、自主防災組織及び津波避難場所の施設管理者等から直接に、又は焼津警察署を通じて次に掲げる避難状況の報告を求める。 ア 避難の経過に関する報告は危険な事態その他異常な事態が発生した場合、直ちに行う。 (ア) 避難に伴い発生した危険な事態、その他異常な事態の状況(場所、人員を含む。) (イ) 上記事態に対し、応急的にとられた措置 (ウ) 市等に対する要請事項 イ 避難の完了に関する報告は避難完了後、速やかに行う。 (ア) 津波避難場所名 (イ) 避難者数 (ウ) 必要な救助・保護の内容 (エ) 市等に対する要請事項 (2) 市は、避難状況について県へ報告する。

第8節 社会秩序を維持する活動

東海地震注意情報が発表された場合や警戒宣言が発せられた場合、社会生活の秩序が破壊され、種々の混乱が生ずる可能性がある。これらの混乱を鎮め、民生の安定を図り、市民等の的確な防災対策を促進する。

区 分	内 容
予想される混乱	(1) 東海地震注意情報、東海地震予知情報等に関する流言 (2) 帰宅者による道路の混乱 (3) 電話のふくそう (4) 避難による混乱 (5) 自動車による道路交通の混乱 (6) 買出し、旅行者等の混乱
市の実施事項	(1) 市長は、東海地震注意情報の発表や警戒宣言の発令に伴い、各種の混乱の生ずるおそれのあると認めたとき、又は混乱が生じたときは、市民のとるべき措置について呼びかけを実施するものとする。 (2) 生活物資価格の異常な高騰、不当な売り惜しみ、買い占めが発生した場合は、市警戒本部を通じて生活物資の買い占め、売り惜しみの防止を啓発するとともに、県に対し「静岡県消費生活条例」に基づく措置を要請する。 (3) 流言飛語が横行した場合には、その原因を究明し活発な広報によりこれを鎮める。 (4) 県公安委員会の実施する交通規制に関する広報に努める。 (5) 警察と連絡を密にし、次の活動を行う。 ア 各種犯罪の発生状況の通報及び情報の収集・報告 イ 治安対策に必要な広報(避難の際の施錠、夜の一人歩き等) ウ 自主防災組織による地区内犯罪防止のための警備の指導

区 分	内 容
焼津警察署の実施事項	(1) 警戒区域、津波避難場所等に対しては、警ら活動を強化するとともに、無線自動車の効果的な運用を図り、混乱防止、犯罪の予防取締りを行う。なお、必要により臨時派出所を設置して防犯活動を行う。 (2) 犯罪情報の収集を行う。 (3) 駅、生活物資集積所等の重要施設に対しては、必要により警備部隊を配備し、関係機関との連携を配意した警戒活動を行う。 (4) 集団不法行為、暴行行為の予防、取締りを行う。 (5) 流言飛語が横行した場合には、その原因を究明し、適切な情報提供を行う。 (6) 自主防災組織や民間企業内組織等が効率的に活動できるよう支援を行う。 (7) 放射性物資、火薬類の運搬の届出があったときは、運搬の中止又は延期をするよう指導する。 なお、運搬途上にある危険物については、直ちに運搬を中止し、安全な場所に管理するよう指導する。

第9節 交通の確保活動

警戒宣言発令時の陸上交通及び海上交通及び航空交通の混乱を防止し、避難の円滑な実施と地震防災応急対策に係る緊急輸送を確保するため、車両、船舶、航空機又は歩行者に対し、必要な交通規制を実施する。

東海地震注意情報発表時においては、社会的混乱や大規模な交通渋滞等が発生した場合は、必要に応じて交通規制を実施する。

1 陸上交通の確保対策

(1) 自動車運転者のとるべき措置

区 分	内 容
東海地震注意情報発表時	ア 走行中の車両は、東海地震注意情報が発表されたことを知ったときは、カーラジオ等により東海地震注意情報及び交通情報を聴取し、冷静な行動に努める。 イ 東海地震注意情報が発表されたことを知ったときは、不要不急の旅行や出張等を自粛する。
警戒宣言発令時	ア 走行中の車両は次により行動する。 (ア) 警戒宣言が発せられたことを知ったときは、地震の発生に備えて低速走行に移行するとともに、カーラジオ等により継続して、東海地震予知情報及び交通情報を聴取し、その情報に応じて行動する。 (イ) 車両を置いて避難するときは、できる限り道路外の場所に移動しておくこと。やむを得ず道路上に置いて避難するときは、道路の左側に寄せて停止させ、エンジンを切り、エンジンキーはつけたままとし、窓を閉めドアはロックしない。 (ウ) 駐車するときは、避難する人の通行や災害応急対策の実施の妨げとなるような場所には駐車しない。 イ 避難のために車両を使用しない。ただし、山間部で徒歩による避難が困難な地域であらかじめ車両による避難が計画された地域を除く。

(2) 交通規制の方針

区 分	内 容
東海地震注意情報発表時	東海地震注意情報発表時に社会的混乱や大規模な交通渋滞等が発生した場合は、必要に応じて交通規制を実施するとともに、次の措置を講ずる。 ア 不要不急の旅行や出張等を自粛するように呼びかける。 イ 警戒宣言が発せられた時の交通規制についての情報提供を行い、混乱防止に努める。 ウ 警戒宣言発令後及び地震発生後の必要な緊急時のルートの選定作業を円滑に進めるために、道路管理者等との調整、工事等による通行規制箇所の把握や開放の判断等の準備を行う。

区 分	内 容
警戒宣言発令時	警戒宣言が発せられた場合は、次の措置を講ずる。 ア 強化地域内における一般車両の運行は極力抑制する。また強化地域内への流入は極力制限し、強化地域外への流出は交通の混乱が生じない限り原則として制限しない。 イ 避難路及び緊急交通路については、優先的にその機能の確保を図るための交通規制を実施する。 ウ 東名高速道路及び新東名高速道路については、一般車両の強化地域への流入を制限するとともに強化地域内におけるインターチェンジからの流入を制限する。 エ 広域交通規制対象道路については、必要な交通規制又は指導を行うとともに自動車利用の抑制を図る。 オ 交通規制に際しては、警察庁、管区警察局、県警察本部、日本道路交通情報センター、交通管制センター及び報道機関等を通じ広報の徹底を図る。

(3) 交通規制計画

県公安委員会は警戒宣言が発せられた場合において、必要があると認めるときは、大規模地震対策特別措置法第24条の規定に基づき次の交通規制を実施し、避難路及び緊急交通路を確保する。

加減量法による重量の測定に基づき次の交通規制を実施し、避難経路及び緊急交通路を確保する。

区 分	内 容	
県内への一般車両の流入制限	隣接県境の主要道路においては県内へ流入する車両（軽車両を除く。）のうち、法第24条に規定する緊急輸送に従事する車両（以下この編において「緊急輸送車両」という。）以外の車両を極力制限する。この場合、県外への流出については交通の混乱が生じない限り原則として制限しない。	
市内における車両の走行抑制	市内における一般車両の走行は極力抑制する。	
交通規制	警察庁が制定した南海トラフ地震発生時の交通規制計画の緊急交通路指定予定路線において、必要な交通規制を実施する。 緊急交通路指定予定路線は、次のとおりである。 新東名高速道路、東名高速道路、東富士五湖道路、中部横断自動車道、東駿河湾環状道路、国道138号バイパス、西富士道路ほか	
緊急交通路等を確保するための措置	緊急交通路については、各インターチェンジ等において交通検問所を設置し、緊急輸送車両以外の通行を禁止する。	
	路 線	検問所設置場所
	新東名高速道路	長泉沼津IC、新富士IC、新清水IC、清水いはらIC、新静岡IC、藤枝岡部IC、島田金谷IC、森掛川IC、浜松浜北IC
	東名高速道路	御殿場IC、裾野IC、沼津IC、浜松西IC、三ヶ日IC
	東富士五湖道路	須走IC
	東駿河湾環状道路	三島塚原IC、三島萩IC、長泉IC、沼津岡宮IC
	国道138号バイパス	仁杉IC、ぐみ沢IC
	西富士道路	広見IC、小泉若宮交差点

(4) 緊急輸送車両の確認等

緊急輸送車両の確認は、大規模地震対策特別措置法第21条に掲げる地震防災応急対策に従事するものと認められる車両について行うものとする。確認手続きの効率化・簡略化を図り、緊急輸送の需要をあらかじめ把握するため、緊急輸送車両について申出をすることができる。これらの申出等及び確認の手続きについては、別に定める。

2 海上交通の確保対策

区分	内 容
東海地震注意情報発表時	海上保安部、港湾管理者、漁港管理者等は、警戒宣言が発令された時に講ずる措置を円滑に実施するため、次に掲げる措置を講ずる。 (1) 港及び沿岸付近にある船舶及び荷役業者、漁業者等の港の利用者に対して、東海地震注意情報が発表された旨を伝達する。 (2) 利用者に対して、必要に応じて、耐震強化岸壁等の港湾施設の利用や、大型船舶、中型船舶の入港を差し控えるよう協力を要請する。 (3) 船舶の避難・係留など警戒宣言が発令されたときに講ずる措置が迅速かつ円滑に実施できるよう、船員の確保や荷役作業の中止準備、船舶の退避準備等の準備的措置の実施を要請するとともに退避準備を終えた船舶への自主的な避難行動の開始を要請する。
警戒宣言発令時	海上保安部は、海上交通の安全を確保するため、次に掲げる措置を講ずるものとする。 (1) 港及び沿岸付近にある船舶に対し、港外又は沖合等安全な海域への避難を勧告するとともに、必要に応じて、入港を制限し、又は港内停泊中の船舶に対して、移動を命ずる等、船舶交通の制限を行う。 (2) 港内又は船舶交通のふくそうが予想される海域において、必要に応じて、船舶交通の整理、指導を行う。

第10節 地域への救援活動

警戒宣言発令時における飲料水、食料、日用品、医薬品などの必要物資及び応急復旧資材の確保並びに医療救護、廃棄物処理・清掃、防疫及びその他の保健に関する活動又はその準備について定める。

なお、東海地震注意情報発表時においては、市及び防災関係機関等は、警戒宣言発令時における緊急物資の調達及びあっせん等の地震防災応急対策を円滑に実施するために、準備的措置を実施することができるものとする。

【東海地震注意情報発表時】

準備的措置	(1) 緊急物資等の供給協定を締結した物資保有者等との連絡体制を確認するとともに、協定に定められた警戒宣言発令時の円滑な措置ができるように準備体制の確保を要請する。 (2) 必要に応じて、緊急物資の供給協定を締結した物資保有者の在庫状況を確認する。 (3) 緊急物資の流通在庫の著しい減少が生じた場合又はそのおそれが生じた場合は、市は県に対して、それぞれ調達又はその準備的措置を要請する。 (4) 市は、水道施設の安全点検、応急給水に必要な対策の準備をするとともに、市民に対して貯水の励行を呼びかける。 (5) 必要に応じて、緊急物資集積所等の開設準備を実施する。 (6) 市は医療救護、保健衛生及び廃棄物処理活動を円滑に実施するための準備的措置を実施する。 (7) 市は、広域搬送拠点の立上の準備等、広域搬送活動を円滑に実施するための準備的措置を実施する。 (8) 市民は、備蓄食料・飲料水・生活必需品、非常持出品の点検・確認及び生活用水の貯水に努める。
-------	--

【警戒宣言発令時】

1 食料及び日用品の確保

(1) 調達方針

- ア 警戒宣言発令時に必要な緊急物資は、地域住民等が自主防災活動等による自助努力によって確保することを基本とする。
- イ 市の緊急物資の供給は、前号を補完するものとし、その供給は、原則として有償とする。
- ウ 住民等の生活を維持するため、食料等生活必需品を販売するコンビニエンスストア等小売店舗の営業に必要な緊急輸送のため、車両の確保等必要な対策を実施する。

(2) 焼津市、自主防災会及び市民がとる措置

実施主体	内 容
市	ア 津波、山・がけ崩れ等危険予想地域住民で非常持出しができなかった者や市外の旅行者等に対し、緊急物資の供給が必要な事態が生じた時は、備蓄した緊急物資を配分し、又は緊急物資の供給協定を締結した物資保有者から調達して、配分する。緊急物資調達予定先は、資料編（地震対策）別紙－１０－１（２）アのとおり。 イ 県に対する緊急物資の調達あっせんの要請を行う。 ウ 緊急物資の供給協定を締結した物資保有者の在庫量を、必要に応じて確認する。 エ 緊急物資集積所の開設準備を行い、必要に応じて開設する。
自主防災組織及び市民	自主防災組織は、助け合い運動、共同備蓄物資の点検・確認等緊急物資確保のための措置を実施する。また、市民は、緊急物資、非常持出品の整備、搬出を行う。

(3) 調達が必要となる緊急物資

警戒宣言発令時に必要な緊急物資については、市民がそれぞれ確保することを原則とするが、警戒宣言の発令期間が長期化し、緊急物資が不足する場合、市は、県に対して緊急物資の調達を要請する。

2 飲料水の確保

市及び市民は地震発生後における飲料水等を確保するため、次の事項を実施する。

実施主体	内 容
市	(1) 市民に対して備蓄している飲料水の点検・確認及び生活用水の貯水の励行を呼びかける。 (2) 応急給水計画に基づき、他の地方公共団体からの応援給水を含む応急給水活動の準備を行う。 (3) 水道施設の安全点検を実施し、二次災害防止措置の準備を行う。 (4) 応急復旧体制の準備をする。
市民	(1) 備蓄している飲料水を点検・確認し、飲料水及び生活用水を可能な範囲で貯水する。 (2) 自主防災組織の給水班を中心として、応急給水資機材を点検する。

3 医療救護、防疫、保健衛生活動及び廃棄物処理

市及び市民は、救急患者に対する医療救護及び地震発生後の医療救護活動の準備並びに防疫・保健衛生及び廃棄物処理のため、次の活動を行う。

(1) 医療救護活動

内 容
市は、東海地震注意情報発表時に引き続き、次の活動を行う。 ア 医療救護活動の準備を関係機関に要請する。 イ 救護所の設備及び資器材を点検・配置し、救護所の開設準備を開始する。 ウ 患者搬送体制を確認し、必要な準備、関係機関との調整を行う。 エ 住民に対し、医療救護施設情報を周知する。 オ 警戒宣言が発せられた場合も、救急医療体制が維持できるよう、関係機関と調整を図る。

(2) 防疫及び保健衛生活動

実施主体	内 容
市	ア 防疫のための資機材及び仮設便所の資機材を準備する。 イ 避難所生活等での健康支援活動に対応するための準備をする。
自主防災組織	自主防災組織の防疫のための班を中心として、防疫用資機材の点検及び仮設便所の設置の準備を行う。

(3) 廃棄物処理

区 分	内 容
し尿処理	ア 関係機関との連絡体制等について確認する。 イ 医療・救護施設への仮設便所の設置を進めるとともに、設置状況の把握を行う。 ウ し尿収集業者等へ発災時の協力を要請する。 エ し尿収集車の緊急車両手続を準備する。 オ 仮設トイレが使用可能となるまでの間に備え、し尿・凝結処理剤及びポータブルトイレの購入及び確保の呼びかけを実施する。
廃棄物・がれき（生活系）・残骸物処理	ア 関係機関との連絡体制等について確認する。 イ 仮集積場の確認を行う。 ウ ごみ収集業者へ発災時の協力を要請する。

第 1 1 節 市有施設設備等の防災措置

防災上重要な施設、設備等について、警戒宣言発令時において市及び各施設管理者が行う点検、整備等について定め、地震防災応急対策の円滑な実施を確保する。

なお、東海地震注意情報が発表された時は、警戒宣言発令時の地震防災応急対策の円滑な実施を確保するための準備的措置を講ずるとともに、必要に応じて、市民等の日常の社会生活等に支障を来さない範囲内で、警戒宣言発令時の地震防災応急対策を段階的又は部分的に実施することができるものとする。

1 無線通信施設等

無線機器管理取扱規程に定めるところより、警戒宣言発令時に次の措置を迅速・円滑に実施するため、東海地震注意情報発表時から準備を進めるとともに、必要に応じて段階的又は部分的に次の措置を実施する。

なお、詳細については、別に定める焼津市防災行政無線管理運用規程による。

- (1) 通信施設（予備電源を含む。）を点検するとともに、動作状態を確認し必要な措置を講ずる。
- (2) 充電式携帯無線については、完全充電を行い、その他の携帯無線機及び受信機用の乾電池を確保する。
- (3) 津波危険予想地域にある施設は、通信機及び発電機の高所への搬出等必要な措置を講ずる。
- (4) 現地本部等との通信手段を確保するために、応急用資機材の準備及び確保を行う。
- (5) 保守委託業者に保守体制の確立を要請する。

2 公共施設等

東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時において、港湾、漁港、河川、海岸、ため池、道路、砂防、工事中の施設等、庁舎については、職員等の安全を配慮し概ね次の措置を講ずるよう努める。また、東海地震注意情報発表時には県の管理する公共土木施設の地震防災応急対策や災害応急対策・復旧対策の実施のため、協定締結業者との連絡体制の確保等の準備的な措置を建設業協会等に要請し、警戒宣言発令時には、別に定める協定に基づき、応急復旧出動体制の確立を要請する。

【東海地震注意情報発表時】

区 分	内 容
港湾及び漁港施設等	施設管理者は、次の施設について、警戒宣言発令時の地震防災応急対策を円滑に実施するため、準備的措置を実施する。また、特定の者のみが利用する施設であって、地震防災応急対策の実施に相当の時間を要する場合は、必要に応じて東海地震注意情報発表の段階から、当該地震防災応急対策を段階的又は部分的に実施することができる。

港湾及び漁港施設等	<table border="1"> <tr> <td>岸壁等</td><td>耐震強化岸壁等緊急輸送に必要な岸壁については、警戒宣言発令と同時に一般使用を禁止できるよう、必要に応じて、利用者に対して、段階的又は部分的に使用範囲の縮小や中止・制限を要請することができる</td></tr> </table>	岸壁等	耐震強化岸壁等緊急輸送に必要な岸壁については、警戒宣言発令と同時に一般使用を禁止できるよう、必要に応じて、利用者に対して、段階的又は部分的に使用範囲の縮小や中止・制限を要請することができる
岸壁等	耐震強化岸壁等緊急輸送に必要な岸壁については、警戒宣言発令と同時に一般使用を禁止できるよう、必要に応じて、利用者に対して、段階的又は部分的に使用範囲の縮小や中止・制限を要請することができる		
河川及び海岸保全施設	施設管理者は、津波の危険がある地域においては、施設の点検に努めるとともに水門、樋門、陸閘等の点検や閉鎖準備のための配備を行う。また、住民や利用者等の避難、施設利用等に支障を来さない範囲において閉鎖等の措置を講ずる。		
農業用施設	施設管理者は、警戒宣言の発令と同時に、必要に応じた放流、用水路の断水又は減水を実施できるよう、施設点検や操作方法の確認等の準備的措置を講ずる。		
道路	道路管理者は、道路利用者に対して、広報車両・案内看板等により、東海地震注意情報の発表を周知する。また、道路パトロールにより道路状況を迅速に把握できる体制を整えとともに、警戒宣言発令後の速やかな交通規制実施の協力などの地震防災緊急対策を円滑に実施するための準備的措置を講ずる。		
砂防、地すべり、急傾斜地、治山等	市及び県は、指定地等危険のおそれがある地域にあらかじめ定めた情報連絡の確認等を行い、必要に応じて警戒体制を整えるよう準備的措置を講ずる。		
工事中の公共施設、建築物、その他	施設管理者は、警戒宣言発令と同時に工事を中止し、保安措置を講ずることができるよう準備的措置を実施する。また、必要に応じて工事を中断するとともに、立入禁止措置、落下・倒壊防止、補強その他の保安措置を講ずる。		
災害応急対策上重要な庁舎	市は、消防防災センター（市災害対策本部）、焼津市立総合病院、水道庁舎、総合福祉会館等について、非常用発電装置の確認、落下倒壊防止措置、食料及び燃料の準備、飲料水の緊急貯水等の措置を行う。		
水道施設	施設管理者は、警戒宣言発令に備え、溢水等による災害の予防措置の準備を行いながら配水を継続する。		
庁舎等不特定かつ多数の者が出入する施設	施設管理者は、警戒宣言発令時の地震防災緊急対策を円滑に実施するための準備的措置を講ずるとともに建物の耐震性等の安全性に応じ、また、帰宅困難者等の発生を抑制するため、必要に応じ、施設利用者、職員等の安全確保に必要な施設の使用制限、営業の中止、帰宅要請、避難誘導措置等の対策を段階的又は部分的に実施することができる。		

【警戒宣言発令時】

区 分	内 容		
港湾及び漁港施設等	施設管理者は、次の施設について、点検及び応急措置を講ずる。ただし、特定の者のみが利用する施設等については、利用者に必要な措置を要請するものとする。 <table border="1"> <tr> <td>岸壁等</td><td>耐震強化岸壁等緊急輸送に必要な岸壁について、警戒宣言発令とともに一般使用を禁止する。</td></tr> </table>	岸壁等	耐震強化岸壁等緊急輸送に必要な岸壁について、警戒宣言発令とともに一般使用を禁止する。
岸壁等	耐震強化岸壁等緊急輸送に必要な岸壁について、警戒宣言発令とともに一般使用を禁止する。		
河川及び海岸保全施設	施設管理者は、津波の危険のある地域においては、水門、樋門、陸閘等の閉鎖操作を行う。		
農業用施設	施設管理者は、警戒宣言発令と同時に、管理者等に対して所要の措置に関する情報連絡を行い、必要に応じて、用水路の断水、又は減水を行う。		

区 分	内 容
道路	(1) 道路管理者は、車両の走行自粛の呼びかけ及び東海地震予知情報等の広報を案内看板等により道路利用者に対し行う。 (2) 市は、緊急交通路及び幹線避難路において県公安委員会が実施する交通規制に協力する。 (3) 市は、災害応急対策を迅速かつ的確に実施するため、資機材、人員等の配備手配を行う。 (4) 市は、地震発生時における道路状況の把握を迅速に行える体制を整える。 (5) 道路管理者は、幹線避難路における障害物除去に努める。
砂防、地すべり、急傾斜地、治山等	市及び県は、指定地等危険のおそれがある地域にあらかじめ定めた情報連絡を行い、必要に応じて警戒体制を整える。
工事中の公共施設、建築物、その他	施設管理者は、工事を中止し、必要に応じ立入禁止、落下・倒壊防止、補強その他の保安措置を講ずる。
災害応急対策上重要な庁舎	市は、消防防災センター、焼津市立総合病院、水道庁舎、総合福祉会館等災害応急対策上重要な施設の建物について、非常用発電装置の確認、落下倒壊防止措置、食料及び燃料の準備、飲料水の緊急備蓄等の措置を行う。
水道施設	施設管理者は、溢水等を配慮した安全水位を確保し配水を継続する。
庁舎等不特定かつ多数の者が出入する施設	施設管理者は、警戒宣言が発令された場合は、原則として施設の利用・営業等を中止し、地震防災応急計画に定める地震防災応急対策を実施する。

3 コンピュータ

コンピュータ・システムについては、警戒宣言発令時に概ね次の措置を実施するため、東海地震注意情報発表時から準備を進めるとともに、必要に応じて段階的又は部分的に実施する。

- ア コンピュータ本体及び端末機等の固定を確認する。
 イ 重要なデータから順次安全な場所に保管する。
 ウ 警戒宣言発令時以降も運用することになっているコンピュータ・システムを除いて、運用を停止する。

第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置

東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時において、市民等の生活に密接に関係のある防災関係機関が市民等の生活を確保し、又は安全等を確保するために講ずる措置を示す。

東海地震注意情報が発表された時は、市民生活の確保のため、平常の業務や営業をできる限り継続することを原則としつつ、市民等の生命の安全確保のため、警戒宣言発令時の地震防災応急対策を円滑に実施するための準備的措置を講ずるとともに、必要な地震防災応急対策を段階的又は部分的に実施することができる。

なお、これらの応急対策の実施にあたっては、できる限り、住民等の日常の社会生活や経済活動を継続・維持できるよう、社会、経済的影響等について配慮するものとする。

【東海地震注意情報発表時】

区 分	内 容
水道（市水道事業）	飲料水の供給を継続するとともに、警戒宣言発令に備え、緊急貯水を行うよう広報する。
電力 （中部電力株式会社、中部電力パワーグリッド株式会社（藤枝営業所））	電力の供給を継続するとともに、警戒宣言の発令や地震発生に対する備え、需要家のとるべき措置を広報する。

区 分	内 容	
ガス（東海ガス株式会社）	ガスの供給を継続するとともに、警戒宣言の発令や地震発生に対する備え、需要家のとるべき措置を広報する。	
通信 （NTT西日本株式会社静岡支店、株式会社NTTドコモ東海支社（静岡支店））	平常どおり一般通話を確保する。ただし、ふくそう等が生じた場合は、必要に応じて防災関係機関の重要通信を優先して継続し、一般通話を制限する。また、状況により安否確認等に必要な措置を実施する。	
放送 （日本放送協会静岡放送局、静岡放送株式会社、株式会社テレビ静岡、株式会社静岡朝日テレビ、株式会社静岡第一テレビ、静岡エフエム放送株式会社）	東海地震注意情報の正確・迅速な伝達に努めるとともに、社会的混乱を防止するため、地方公共団体の要請に応じて、東海地震注意情報発表時の防災関係機関等の応急対策の実施状況、交通状況やライフライン等の住民生活に必要な情報、住民等の取るべき行動等について放送を実施する。また、警戒宣言発令時の臨時ニュース、特別番組の編成等のために必要な準備的措置を実施する。	
市中金融	金融機関、保険会社及び証券会社については、平常どおり営業・業務を継続するとともに、東海地震注意情報の発表を顧客等に周知する。また、警戒宣言発令時の営業の停止の周知、移動する現金自動預払機の準備等の地震防災応急対策の準備的措置を実施する。	
鉄道 （東海旅客鉄道株式会社、日本貨物鉄道株式会社）	列車の運転規制等	（１）旅客列車については、運行を継続する。但し、長距離夜行列については、強化地域への進入を禁止する。 （２）貨物列車については、強化地域への進入を禁止する。
	旅客等に対する対応	東海地震注意情報が発表されたとき及び政府から準備行動等を行う旨の公表があったときには、旅客等に対しその内容を伝達するとともに、列車の運転状況、警戒宣言が発令された場合の列車の運転の計画を案内する。
バス （しずてつジャストライン株式会社岡部営業所）	（１）平常どおり運行を継続し、乗客に対して東海地震注意情報の発表を周知するとともに、不要不急の旅行・出張等の自粛を広報する。また、警戒宣言発令後のバスの運転規制等の地震防災応急対策の内容についても周知する。 （２）帰宅困難者の発生に備え、必要に応じ、臨時バスの増発等を検討し輸送力の確保を図る。 （３）警戒宣言発令時の地震防災応急対策を円滑に実施するため、滞留旅客の避難方法、必要な資機材の確認などの準備的措置を実施する。	
道路	（１）平常どおり円滑な交通を確保し、運転者等に対して東海地震注意情報の発表を周知するとともに、不要不急の旅行・出張等の自粛を広報する。また、警戒宣言発令後の道路交通規制等の地震防災応急対策の内容についても周知する。 （２）警戒宣言発令時の交通規制等の地震防災応急対策を円滑に実施するため、関係機関相互間の連絡体制を確保するとともに、必要な資機材の確認等の準備的措置を実施する。	

区 分	内 容
病院・診療所	(1) 災害発生時の治療体制を確保するため、救急業務を除き、外来患者の受入れは原則として制限する。 なお、外来患者の受入れを制限する施設にあっては、治療の中断が困難な患者に対する処置・指示等、外来患者の混乱を来さない措置を十分に講ずる。 (2) 設備、機器等の転倒・落下防止等の患者・職員等の安全確保措置を講ずるとともに、その他災害発生時の重症患者等の治療体制を確保するための準備的措置を講ずる。 (3) 建物の耐震性等の安全性が確保されている施設にあっては、災害発生時の重症患者等の治療体制を確保するため、帰宅可能な入院患者の家族等への引渡しに係る連絡体制や必要な車両の確保などの準備的措置を講ずる。 なお、必要に応じて入院患者の引渡しをすることができる。 (4) 建物の耐震性等の安全性が確保されていない施設にあっては、入院患者の他の病院等への移送、家族等への引渡しに係る連絡体制や必要な車両の確保などの準備的措置を講ずる。 なお、必要に応じて入院患者の移送、引渡しをすることができる。
スーパー等	(1) スーパー・小売店舗のうち、食料・飲料水、生活必需品や家具転倒防止器具等の防災用品、防災資機材を販売する施設にあっては、日常の住民生活を維持するために、営業の継続に努めるとともに、顧客に対して東海地震注意情報の発表を周知する。 (2) 警戒宣言発令後の公共交通機関の運行停止、道路交通規制等の内容や当該店舗の警戒宣言発令後の地震防災応急対策の内容を周知する。また、営業の継続にあたっては、商品、陳列棚等の転倒・落下防止等の安全措置を講ずるとともに、顧客、従業員等に冷静な行動を呼びかけるなど、混乱防止のための措置を講ずる。
漁港（静岡県焼津漁港管理事務所）	次の施設について、準備措置を講ずる。ただし、特定の者のみが利用する施設等については、利用者に必要な措置を要請するものとする。
	防潮施設等 (1) 津波の危険のある地域について、陸閘の閉鎖準備のための配備を行う。 (2) 水防資機材の点検、配備を行う。
	岸 壁 等 耐震岸壁等緊急輸送に必要な岸壁について、警戒宣言発令と同時に一般使用を禁止できるよう、必要に応じて、利用者に対して段階的又は部分的に使用範囲の縮小や中止・制限を要請することができる。

【警戒宣言発令時】

区 分	内 容
水道（市水道事業）	(1) 飲料水の供給は継続する。 (2) 地震発生に備え、緊急貯水を行うよう広報するとともに応急給水の準備をする。
電力 （中部電力株式会社、中部電力パワーグリッド株式会社（藤枝営業所））	(1) 必要な電力の供給は継続する。 (2) 地震発生に対する備え、需要家のとるべき具体的措置の広報、電力施設の特別巡視等の災害予防措置、資機材の確保等の措置を行う。
ガス（東海ガス株式会社）	(1) ガスの供給は、ガス使用者が支障を来さない範囲において、ガス圧力を減じ、供給を継続する。 (2) 重要施設の点検、要員の配備、緊急供給制限の準備等防災措置を講ずる。

区 分	内 容
通信 (NTT西日本株式会社静岡支店、株式会社NTTドコモ東海支社(静岡支店))	(1) あらかじめ指定された防災関係機関の重要通信を優先して接続する。このため、必要に応じ一般通話を制限するが、この場合においても、NTT西日本株式会社の緑色及びグレーの公衆電話からの通話は確保する。また、災害用伝言ダイヤル171、災害用伝言板web171及び災害用音声お届けの開設等、安否確認等に必要な措置を実施する。 (2) 地震発生後の通信施設の緊急復旧に備えて資機材、要員を準備する。
放送 (日本放送協会静岡放送局、静岡放送株式会社、株式会社テレビ静岡、株式会社静岡朝日テレビ、株式会社静岡第一テレビ、静岡エフエム放送株式会社)	臨時ニュース、特別番組の編成等、各メディアを有効に活用し社会的混乱の防止を目的として、東海地震予知情報等の正確、迅速な伝達に努める。また、地方公共団体等の要請に応じて、的確な防災対策が講ぜられるよう地震防災活動の実施状況、防災措置の状況等有効適切な放送を行う。
市中金融	金融機関の営業 (1) 営業時間中に警戒宣言が発せられた場合は、次による。 ア 正面玄関等の主要シャッターを閉鎖し、営業所等の窓口においては普通預金(総合口座を含む。以下同じ。)の払戻し業務を除く全ての業務の営業を停止する。 イ 営業所等の窓口における普通預金の払戻し業務の営業については、顧客及び従業員の安全に十分配慮しながら、店内顧客への処理を終了させるまでの間、営業の継続に努める。 ウ 現金自動預払機(以下「ATM」という。)については、顧客及び従業員の安全に十分配慮した上で、あらかじめ定めた店舗において運転の継続に努める。 エ 「避難対象地区」内に所在する店舗は、普通預金の払戻しを含む全ての業務の営業を直ちに停止することとする。また、窓口及びATMでの普通預金の払戻し業務についても、地震の発生、管理上の見地等営業の継続に支障が生じるおそれがある場合には、その営業を停止することができる。 (2) 休日、開店前又は閉店後に警戒宣言が発せられた場合は、次による。 ア 営業所等の窓口における営業の開始又は再開は行わない。 イ ATMについては、顧客及び従業員の安全に十分配慮した上で、あらかじめ定めた店舗において運転の継続に努める。 ウ ATMの稼働についても、地震の発生、管理上の見地等営業の継続に支障が生じるおそれがある場合には、その営業を停止することができる。 (3) 営業停止等を取引者に周知徹底するため、金融機関において、営業停止等を行う営業店舗名等を、ポスターの店頭掲示等の手段を用いて告示するとともに、その旨を新聞やインターネットのホームページに掲載する。 (4) 手形交換所は、警戒宣言が発せられた場合は、手形交換の停止あるいは休止、不渡処分猶予等の措置を適宜講ずる。 (5) 警戒宣言が解除された場合は、金融機関が営業することのできる状況が整い次第速やかに平常の営業を再開するものとする。
	保険会社及び証券会社の営業 (1) 営業時間中に警戒宣言が発せられた場合は、営業所等における業務を停止する。 (2) 営業停止等を取引者に周知徹底させる方法は、各会社において、営業停止等を行う営業店舗等を、ポスターの店頭掲示等の手段を用いて告示するとともに、その旨を新聞やインターネットのホームページに掲載する。 (3) 休日、開店前又は閉店後に警戒宣言が発せられた場合は、営業の開始又は再開は行わない。 (4) 警戒宣言が解除された場合は、速やかに平常の営業を再開する。

区 分	内 容		
鉄道 （東海旅客鉄道株式会社、 日本貨物鉄道株式会社）	列車の運転規制等	新幹線	ア 想定震度が6弱以上の地域への進入を禁止する。 イ 想定震度が6弱以上の地域内を運行中の列車は、最寄りの駅まで安全な速度で運転して停車する。 ウ 想定震度が6弱未満の地域において、名古屋・新大阪駅間については運行を継続する。この場合、強化地域内については、安全な速度で運転する。
		在来線	ア 強化地域への進入を禁止する。 イ 強化地域内を運行中の列車は最寄りの安全な駅その他の場所まで安全な速度で運転して停車する。 ウ 強化地域外においては、折返し設備等を勘案し区間を定め、必要に応じ速度を制限して運行を継続する。
	旅客等に対する対応		ア 警戒宣言が発せられたときには、その情報を伝達するとともに、あらかじめ定めた方法及び内容により列車の運転状況について案内する。 イ 滞留旅客が発生した場合は、自らの判断において行動する者を除き、関係自治体の定める津波避難場所へ避難させる等必要な措置をとる。
バス （しずてつジャストライン株式会社岡部営業所）	（１）バスには、営業所・出張所等から警戒宣言や東海地震予知情報が伝達される。また、市のサイレン・半鐘によって警戒宣言の発令を覚知する。 （２）警戒宣言が発せられたときは、会社が定める場所又は、安全な場所に停車し、必要により乗客を避難させる。		
道路	（１）強化地域内への一般車両の流入は、極力抑制する。このため、交通規制を行う。 （２）強化地域内から強化地域外への一般車両の流出は、交通混乱が生じない限り原則として制限しない。 （３）強化地域内での一般車両の走行は、極力抑制するよう交通整理・指導を行うほか、緊急輸送路・避難路を確保するため、交通要所において必要により交通規制を行う。 （４）高速道路・自動車専用道路では、一般車両の強化地域への流入を制限し、強化地域内のインターチェンジからの流入を制限する。 （５）走行車両は低速走行する。		
病院・診療所	（１）救急業務を除き、外来診療を原則中止し、設備、器機等の転倒・落下防止等の患者、職員等の安全確保措置を継続するとともに、その他災害発生時の重症患者等の治療体制を確保するための措置を実施する。 （２）建物の耐震性等の安全性が確保されている施設にあっては、災害発生時の重症患者等の治療体制を確保するため、帰宅可能な入院患者の家族等への引渡しを実施する。 （３）建物の耐震性等の安全性が確保されていない施設にあっては、入院患者の他の病院等への移送、家族等への引渡しを実施する。		

区 分	内 容	
スーパー等	(1) スーパー・小売店舗のうち、食料・飲料水、生活必需品や家具転倒防止器具等の防災用品、防災資機材を販売する施設であって、建物の耐震性等の安全性が確保されている場合は、住民の日常の住民生活を維持するために、各店舗の判断により営業を継続することができる。 (2) 顧客に対して警戒宣言発令、当該店舗の営業の中止又は継続などの地震防災応急対策の内容、公共交通機関の運行停止、道路交通規制等の内容を周知する。 (3) 営業を継続する場合にあっては、商品等の転倒防止等の安全措置を十分に実施し、顧客や従業員の安全確保を図るとともに、冷静な行動を呼びかけるなどの混乱防止のための措置を講ずる。	
漁港（静岡県焼津漁港管理事務所）	次の施設について、点検及び応急措置を講ずる。ただし、特定の者のみが利用する施設等については、利用者に必要な措置を要請するものとする。	
	防潮施設等	津波の危険のある地域について、陸閘の閉鎖操作を行う。
	岸 壁 等	耐震岸壁等緊急輸送に必要な岸壁について、警戒宣言発令とともに一般使用を禁止する。

第 1 3 節 地震防災応急計画を作成すべき施設・事業所の対策

大規模地震対策特別措置法第7条第1項第1号から第4号までに掲げる施設又は事業で政令で定めるものを管理し、又は運営する者は、当該施設の利用者、顧客、従業員等の安全確保、周辺地域への被害拡大防止等を図るため、東海地震注意情報発表時及び警戒宣言発令時において実施する応急対策を地震防災応急計画において定めるものとし、当該計画策定にあたっては次に掲げる事項に留意する。

1 各施設・事業所に共通の事項

各施設・事業所に共通する事項として、次の点に留意して地震防災応急計画を定める。

【東海地震注意情報発表時】

東海地震注意情報が発表された場合は、警戒宣言発令時の地震防災応急対策を円滑に実施するための準備的措置を講ずるとともに、建物の耐震性等の安全性に応じ、また、帰宅困難者等の発生を抑制するため、必要に応じ、施設利用者、顧客、従業員等の安全確保に必要な施設の使用制限、営業の中止、帰宅要請、避難誘導措置等の地震防災応急対策を段階的又は部分的に実施することができる。地震防災応急計画に定める必要のある準備的措置及び応急対策の主な内容は、次のとおりとする。

共通に定めるべき事項	(1) 東海地震注意情報発表時の施設の利用・営業等の中止・継続等の基本的な方針に関する事項
	(2) 警戒宣言の発令に備えて実施する準備的措置に関する事項
	ア 東海地震注意情報発表時の応急対策の実施に必要な防災要員及び組織体制の確保に関する事項
	イ 情報収集・伝達手段の確保に関する事項
	ウ 施設内外の消防設備の確認等の消防及び水防に関する事項
	エ 施設内外の設備・機器等の転倒・落下防止等の安全措置に関する事項
	オ 避難誘導の方法、近隣の津波避難場所・避難路等の確認等の避難誘導に関する事項
	カ 警戒宣言発令時の地震防災応急対策の内容、手順等の確認
	キ その他各施設や地域の実情に応じた必要な応急措置に関する事項

共通に定めるべき事項	(3) 施設利用者、顧客、従業員等に対して周知すべき事項に関すること - ア 東海地震注意情報の内容と意味等 - イ 当該施設における東海地震注意情報発表時の応急対策の内容 - ウ 冷静な対応の実施 - エ 公共交通機関の運行状況、道路交通等の情報 - オ 当該施設における警戒宣言発令後の地震防災応急対策の内容 - カ 警戒宣言発令後の公共交通機関の運転中止、道路交通規制等の措置内容 - キ その他施設利用者、顧客、従業員等の安全確保、混乱防止に必要な情報 (4) 避難対象地区内にある施設の準備的措置 避難対象地区内にある施設においては、警戒宣言発令と同時に迅速・円滑な避難対策を実施できるよう、必要に応じて段階的又は部分的に施設の利用や営業等を制限するなどの準備的措置を講ずることができる。
------------	--

【警戒宣言発令時】

警戒宣言が発令された場合は、原則として施設の利用、営業等を中止し、地震防災応急計画に定める地震防災応急対策を実施する。ただし、建物の耐震性等の安全性が確保されている施設においては、施設管理者の判断により、当該施設の利用、営業等を継続することができる。地震防災応急計画に定める必要がある主な地震防災応急対策の内容は、次のとおりとする。

共通に定めるべき事項	(1) 警戒宣言発令時の施設の利用・営業等の中止・継続等の基本的な方針に関する事項 (2) 地震防災応急対策を実施する組織の確立に関する事項 - ア 地震防災応急対策の実施に必要な防災要員の参集人員及び組織体制 - イ 防災要員の参集連絡方法、参集手段等 (3) 地震発生に備えて実施する地震防災応急対策に関する事項 - ア 利用者、顧客、従業員等の避難誘導措置に関する事項 - イ 情報収集・伝達手段の確保 - ウ 救急医薬品の準備、負傷者等の移送方法等の応急救護に関する事項 - エ 施設内の出火防止措置、施設内外の消防設備の確認等の消防及び水防に関する事項 - オ 設備、機器等の点検、転倒・落下防止措置に関する事項 - カ 備蓄物資や非常持出品の確認、緊急貯水の実施、非常用発電装置の確認等の地震発生後に備えた資機材、人員等の配備手配に関する事項 - キ 警戒宣言時の公共交通機関の運行停止や道路交通規制に伴う利用者・顧客・従業員等の帰宅対策に関する事項 - ク 商品・製品等の輸送中や営業中の車両等の措置に関する事項 - キ その他各施設や地域の実情に応じた必要な地震防災応急対策に関する事項 (4) 施設利用者、顧客、従業員等に対して周知すべき事項に関すること - ア 警戒宣言発令、東海地震予知情報の内容と意味等 - イ 当該施設における地震防災応急対策の内容 - ウ 公共交通機関の運行状況、道路交通規制等の情報 - エ その他利用者、従業員等の安全を確保するために必要な情報 (5) 避難対象地区内の施設の避難対策 避難対象地区に所在する施設においては、あらかじめ市と協議して定めた津波避難場所等への避難誘導措置を速やかに実施し、施設の利用、営業等を中止する。
------------	---

2 各施設・事業所の計画において定める個別事項

各施設の特殊性・公益性等に応じて、次の点に留意して地震防災応急計画に定める。

施設・事業所	地震防災応急計画に定める個別事項	
病院・診療所	東海地震注意情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】病院・診療所に準ずる。
	警戒宣言発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】病院・診療所に準ずる。

施設・事業所	地震防災応急計画に定める個別事項	
スーパー等	東海地震注意情報発表時	(1) 警戒宣言発令後も営業を継続する施設にあっては、商品、陳列棚、設備、機器等の転倒・落下防止等の安全措置を講ずる。 (2) 警戒宣言発令後に営業を中止する施設にあっては、店頭への掲示等によりその旨を周知するなど、混乱を生じさせない措置を講ずる。 (3) 県や市等との間で緊急物資等の調達に関する協定を締結している店舗にあっては、協定先との連絡体制の確保、協定内容の確認、必要に応じて在庫量の確認等の準備的措置を講ずる。 (4) 食料・飲料水・生活必需品等の物価高騰、買占め、売り惜しみ等による社会的混乱が生じないように努める。
	警戒宣言発令時	(1) 建物の耐震性等の安全性が確保されている施設は、食料・飲料水・生活必需品等の供給により市民生活を維持するため、各店舗の判断により営業を継続することができる。また、営業の継続にあたっては、商品等の転倒防止等の安全措置を十分に実施し、顧客や従業員の安全確保を図るとともに、冷静な行動を呼びかけるなどの混乱防止のための措置を講ずる。 (2) 建物の耐震性等の安全性が確保されていない施設は、営業を中止し、顧客や従業員の避難対策を実施する。 (3) 県や市等との間で緊急物資等の調達に関する協定を締結している店舗にあっては、在庫量等を確認し、食料・飲料水・生活必需品等の確保に努める。 (4) 食料・飲料水・生活必需品等の物価高騰、買占め、売り惜しみ等による社会的混乱が生じないように努める。
石油類、火薬類、高圧ガス、毒物・劇物、核燃料物質等の製造、貯蔵、処理又は取扱いを行う施設 (法第7条第1項第2号に掲げる施設又は事業所)	東海地震注意情報発表時	警戒宣言発令時に実施する応急保安措置を円滑に実施するために必要な準備的措置を講ずる。 なお、応急的保安措置の実施に相当の時間を要する場合には、必要に応じて当該措置を段階的又は部分的に実施する。
	警戒宣言発令時	火災、流出、爆発、漏洩その他周辺地域に対して影響を与える現象の発生を防止するために必要な緊急点検・巡視の実施、充填作業・移し替え作業等の停止、落下・転倒その他施設の損壊防止等のために必要な応急的保安措置を実施する。
一般旅客運送に関する事業(法第7条第1項第3号に掲げる事業所)	東海地震注意情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】鉄道、バスに準ずる。
	警戒宣言発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】鉄道、バスに準ずる。
学校・幼稚園・保育所・認定こども園	県教育委員会は、公立の学校等に対し、「静岡県学校安全教育目標」及び「学校の危機管理マニュアル(災害安全)」等により、東海地震注意情報発表時の応急対策や警戒宣言発令時の地震防災応急対策に関する指針を示し、対策の円滑な実施を指導する。 また、県は保育所、私立の学校等に対して、この指針に準じた対策を実施するよう指導する。 学校、幼稚園、保育所、認定こども園(以下「学校等」という。)は、地域の特性や学校等の実態を踏まえ、学校等の設置者や保護者と協議、連携して、園児、児童、生徒(以下「生徒等」という。)の安全確保のために必要な計画を策定し、対策を実施する。この計画策定や対策の実施にあたっては、生徒等の在校時、登下校時、在宅時等の別や、学校等の施設の津波避難場所・避難所指定の有無等を考慮するものとする。 生徒等の安全確保のために必要な対策としては、概ね次の措置を講ずることとするが、生徒等の帰宅や家族等への引渡し等の具体的な措置については、発達段階、家庭環境、通学・通園(所)の方法・時間・距離・経路等を考慮し、保護者等と十分に協議して定めるものとする。	

施設・事業所		地震防災応急計画に定める個別事項	
学校・幼稚園・ 保育所・認定こども園	東海地震 注意情報 発表時	生徒等が在校・在園(所)中の場合、各学校等は授業や保育等を中止し、安全確保のため避難誘導又は家族等への引渡しなどの必要な対策を行う。特に学校の場合は、危険が回避されたと判断されるまでは校内の安全な場所に生徒等を待機させるなどの対策をする。 なお、学校での待機、家族等への引渡しについては、保護者と十分に協議しておくものとする。	
	警戒宣言 発令時	生徒等が在校・在園(所)中の場合、各学校等は、授業や保育等を中止した上で避難誘導を行い、安全が確認(警戒宣言の解除等)されるまで校内の安全な場所に待機又は家族等への引渡しなど、生徒等の安全確保のために必要な対策を実施する。また、在宅中の場合は、登校・登園(所)しないものとする。 なお、学校での待機、家族等への引渡しについては、保護者と十分に協議しておくものとする。	
社会福祉施設	東海地震 注意情報 発表時	(1) 建物の耐震性等の安全性が確保されている施設にあっては設備等の転倒・落下防止措置等の必要な安全措置を講じた上で、入所者については入所を継続し、通所者については家族等への引渡しのための連絡体制や引渡し方法の確認などの準備的措置を講ずる。 (2) 建物の耐震性等の安全性が確保されていない施設にあっては、入所者及び通所者に対して次の措置を講ずる。 ア 家族等への引渡しのための連絡体制や引渡し方法の確認などの準備的措置 イ 家族等への引渡しが困難な場合は、安全性が確保されている他の施設等への移送のための連絡体制や移送方法・手段の確認などの準備的措置	
	警戒宣言 発令時	(1) 建物の耐震性等の安全性が確保されている施設にあっては、入所者については入所を継続し、通所者は家族等への引渡しを実施する。 (2) 建物の耐震性等の安全性が確保されていない施設にあっては、入所者及び通所者に対して次の措置を講ずる。 ア 家族等への引渡し イ 家族等への引渡しが困難な場合は、安全性が確保されている他の施設等への移送	
放送事業	東海地震注意 情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】の放送に準ずる。	
	警戒宣言 発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】の放送に準ずる。	
その他の施設又は事業	道路	東海地震注意 情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】道路に準ずる。
		警戒宣言 発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】道路に準ずる。
	ガス事業	東海地震注意 情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】ガスに準ずる。
		警戒宣言 発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】ガスに準ずる。
	水道事業	東海地震注意 情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】水道(市水道事業)に準ずる。
		警戒宣言 発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】水道(市水道事業)に準ずる。

施設・事業所		地震防災応急計画に定める個別事項	
その他の施設又は事業	電気事業	東海地震注意情報発表時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【東海地震注意情報発表時】電力に準ずる。
		警戒宣言発令時	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置の【警戒宣言発令時】電力に準ずる。
	従業員1000人以上の工場	東海地震注意情報発表時	警戒宣言発令時の安全保安措置を円滑に実施するために必要な準備的措置を講ずる。 なお、従業員の通勤手段・時間等を勘案し、必要に応じて帰宅等の措置を段階的又は部分的に実施する。
		警戒宣言発令時	防災要員を除く従業員の工場等から退避、帰宅等の安全保安措置を実施する。

第14節 市が管理又は運営する施設等の地震防災応急対策

市が管理し、又は運営する施設又は事業の東海地震注意情報発表時の応急対策及び警戒宣言発令時の地震防災応急対策の概要を示す。

市が管理する施設等の東海地震注意情報発表時の応急対策及び警戒宣言発令時の地震防災応急対策については、それぞれ施設の管理者が定めるものとする。

計画すべき対策の要点は次のとおりである。

【東海地震注意情報発表時】

区 分	内 容	
各施設が共通して定める事項	(1) 東海地震注意情報、応急対策の内容等の施設利用者への伝達 (2) 東海地震注意情報発表時の応急対策を実施する体制の確立 (3) 施設利用者等の混乱防止のための広報、必要に応じて避難誘導等の安全確保措置 (4) 施設及び設備の点検及び安全措置の準備、備蓄物資・資機材等の確認・点検	
施設の特性に応じた主要な個別事項	病院、学校、社会福祉施設等において計画すべき対策の基本的な考え方は、第13節の規定に準ずる。	
	病院	東海地震注意情報発表時の診療体制
	学校	ア 児童・生徒等の安全確保のために必要な具体的措置 イ 地域住民の津波避難場所又は避難所に指定されている施設における避難者の受入方法等
	社会福祉施設	入所者の移送又は家族等への引渡し方法

【警戒宣言発令時】

区 分	内 容	
各施設が共通して定める事項	(1) 東海地震予知情報等の施設利用者等への伝達 (2) 地震防災応急対策を実施する組織の確立 (3) 避難誘導等利用者等の安全確保措置 (4) 消防、水防等の事前措置 (5) 応急救護 (6) 施設及び設備の整備及び点検 (7) 防災訓練及び教育、広報	

区 分	内 容	
施設の特性に 応じた主要な 個別事項	病院、学校、社会福祉施設等において計画すべき対策の基本的な考え方は、第13節の規定に準ずる。	
	病院	警戒宣言発令時の診療体制
	学校	ア 児童・生徒等の安全確保のために必要な具体的措置 イ 地域住民の津波避難場所又は避難所に指定されている施設における避難者の受入方法等
	社会福祉施設	入所者の移送又は家族等への引渡し方法